

探證ニ就

工事變更  
額ノ認定

請負工事  
ニ關シテ  
切取リ  
ル石材  
ノ所有  
者

一七條)ハ一旦整理地區ニ編入セラレタル民有地力中途ニ於テ賣買讓渡ニヨリ御料地又ハ國有地ト爲リタル場合ニ於テモ適用アルモノト解釋スルヲ妥當トス蓋如此場合ニ付キ何法中特別ノ規定ナキノミナラス前記第一七條ハ場合ヲ別タス絶對的ニ參加土地所有者タルヘキ者ヲ規定シタレハナリ果シテ然ラハ國ハ如何ナル場合ニ於テモ參加土地所有者タルコトヲ得サルモノト謂ハサルヲ得ス然リ而シテ參加土地所有者ニ非ラサレハ整理ノ費用ヲ負擔セサルヘキハ同法第六四條ノ規定ニ徴シ明ナルカ故ニ本件ノ場合ニ於テ國ハ整理ノ費用ヲ負擔セサルモノト謂フヘシ

(三) 凡ソ團體ノ代表者カ團體ノ爲メ第三者ト契約ヲ爲シ書面ヲ作成スル場合ニ於テ重要ナル約款ハ必ス之ヲ書面ニ明確ニスヘク證言ノ如キ曖昧ナル事實ハ普通ノ事例ニ反スルヲ以テ輕ク信用シ難シ

(四) 變更ノ爲メニ要シタル工費ハ假リユ原告ノ計算ニ從フモ金一二〇圓内外ニテ請負金一萬八千餘圓ノ大工事ニ於テハ寔ニ少許ノ變更ナリト云ハサルヘカラス之ヲ一般ノ事例ニ徴スレハ斯ル少許ノ變更ハ請負人ニ於テ異議ナク之ヲ施行シタル場合ニ於テハ最初定メタル請負金ノ中ニテ之ヲ承諾シタルモノト看做サルヘキモノトス然リ然シテ原告カ變更ノ申込ニ應スルニ付異議アリタル事實ハ之ヲ認ムヘキ證左ナキカ故ニ請負金ノ中ニテ變更ノ求メニ應シタルモノト認定ス

(五) 切取リタル石材ハ慣習ニ依リ請負人ノ所有ニ歸屬スト主張スルモ證人松本久七ノ證言ニ依ルモ斯ル慣習ノ存スルコトハ認メ難シ(安濃津地方四四年通)第九五號井上裁判長松田小林各判事判決法律新聞第八五一號二二頁以下要領)

抗告裁判  
抹消  
登記

抗告裁判所カ不動産登記抹消ノ抗告ヲ理由アリトスルトキハ登記官吏ニ其處分ヲ命スヘキモノトス

不動産登記法第四九條第一項ニ登記官吏ハ左ノ場合ニ限り理由ヲ附シタル決定ヲ以テ申請ヲ却下スルコトヲ要ス但云云「トアリ而シテ同項第五號ニハ「申請書ニ掲ケタル不動産又ハ登記ノ目的タル權利ノ表示カ登記簿ト抵觸スルトキ」トアレハ苟モ申請書ニ記載スル不動産又ハ登記ノ目的タル權利ノ表示自體カ登記簿ト相違シ兩立ヲ許ササルトキハ登記官吏ハ其申請ヲ却下セサル可カラシテ假令其實質ニ於テハ既存登記カ變更若クハ抹消セラシキモノニシテ申請カ正當ナル場合ト雖モ變更若クハ抹消ノ登記ヲ爲ササル限リハ其申請ヲ容レテ登記ヲ爲ス可キニ非ス抑本件ノ不動産ニ付ゆキカ豫テ一三分ノ一一ノ持分ヲ有スル共有者タリシニ明治四四年八月二八日あいヨリ一三分ノ二ノ同人持分ヲ讓受ケタルニ因リ單獨ノ所有權者ト爲リタルコト登記簿原本上明確ナリ左レハ同時ニ其不動産上ニ共有權ヲ有スル者アル可カラサル筋合ナルニ明治四五年四月二二日抗告人ハ治兵衛ノ遺產相續人ヲ原因トシテゆキノ

不動産登記法一四七 登記ヲ抹消スルニハ抹消ノ登記ヲ爲シタル後抹消スヘキ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス  
前項ノ場合ニ於テ抹消ニ係ル權利ノ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登記アルトキハ登記用紙中相當事項欄ニ其  
第三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登記ヲ抹消シタルニ因リテ抹消ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス  
同一五五 抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ以テ登記官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス  
抗告裁判所ハ登記上ノ利害關係人ニ決定ノ謄本ヲ送達スルコトヲ要ス

單獨所有ニ歸シタル旨ノ登記アル不動産ノ共有權者トシテ一五分ノ二分取得ノ登記申請ヲ爲シタルモノナレハ其申請書ニ掲クル登記ノ目的タル權利ノ表示ハ登記簿ト相違シ兩立テ許ササルモノニシテ不動産登記法第四九條第一項第五號ニ該當スルヲ以テ抗告人ノ申請ハ之ヲ却下セサル可カラズ然ルニ京都區裁判所下京出張所カ事茲ニ出テスシテ該申請ヲ容レ之レカ登記ヲ爲シタルハ不當ナリ故ニ原裁判所カ抵當權者啓次郎ノ抗告ヲ理由アリトシ抗告人ノ爲メニ爲シタル共有持分取得ノ登記ヲ抹消ス可キモノト爲シタルハ正當ナリ然レトモ登記ノ抹消ハ登記官吏ニ於テ不動産登記法第一四七條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス可キモノナルカ故ニ同第一五五條第一項ニ依リ登記官吏ニ其處分ヲ命セサル可カラズ然ルニ原裁判所カ其處分ヲ命セスシテ單ニ該登記ヲ抹消スル旨ノ決定ヲ爲シタルハ違法ナリ(大審院大正二年(ク)第一六六號同年七月九日民二決定)

【參照學說】

抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリト認メタルトキハ決定ヲ以テ登記官吏ニ相當ノ處分ヲ命スヘキモノトス茲ニ相當ノ處分ト云ハテ其處分ノ種類ヲ限定セサルハ其處分ハ場合ニ應ジテ異ナラサルヲ得サルカ爲メニシテ例ヘハ登記ノ申請ヲ却下シタル登記官吏ノ決定ニ對シテ抗告アリタル場合ナルトキハ申請ヲ受理シテ登記ヲ爲スヘキコトヲ命スヘク不法ニ登記ノ申請ヲ受理シテ登記ヲ爲シタル登記官吏ノ處分ニ對シテ抗告アリタル場合ナルトキハ登記ヲ抹消シテ申請ヲ却下スヘキコトヲ命スヘキカ如シ(三宅學士不動産登記法正解六五七頁)

至當ノ見解異論ナシ

(一) 土地收用ト損失補償ノ法理(不法利得ニアラス不)  
 (二) 土地收用審査會ノ補償額裁決ニ對スル不服ノ訴ト出訴期間經過後ニ於ケル裁決ノ效力

(一) 土地收用法ニ依リ土地カ收用セラレタルトキハ其土地所有者ハ企業者ヨリ補償金ノ支拂ヲ受ケタルコトヲ得ルモノナレトモ元來土地收用法ニ依ル土地ノ收用ハ國家カ法律ノ規定ニ基キ其認定シタル事業ニ必要ナル土地ヲ企業ニ充テシムルコトヲ許スモノニシテ土地ノ權利者カ其權利ヲ失ヒ企業者カ其所有權ヲ得ルハ國家ヨリ其土地ヲ企業ニ充ツルコトヲ許サレタル結果ニ過キサルヲ以テ土地ノ所有者ハ當然其補償金ノ請求權ヲ有スルモノニアラス唯タ土地ノ收用カ前示ノ如ク其土地ヲ企業ニ充テシムルニアリテ其土地ナル財產ヲ企業者ニ與フルコトヲ目的トスルモノニ非ラズルニ依リ其收用ノ結果財產ヲ取得シタル企業者ヲシテ土地權利者ニ補償セシムル事妥當ナリトシ法律カ特ニ補償ヲ爲ス可キヲ命シタルニ外ナラス即チ該補償ハ國家又

土地收用法四七 土地所有者及關係人ノ受ケル損失ハ起業者之ヲ補償ス可シ  
 損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲ス可シ但シ各人別ニ見積リ難キトキハ此限ニアラス  
 同四八 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其損失ヲ補償スヘシ  
 使用スヘキ土地ニ付テハ其土地及近傍地ノ料金ニ依リ其損失ヲ補償スヘシ  
 同八二 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書不  
 ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三ヶ月ヲ經過シタルトキハ此限ニアラス  
 前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス  
 第五九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ決定ヲ準用ス

ハ企業者ノ不法行為ヲ原因トスルモノニアラス又企業者ノ利得ノ有無ヲ問ハス且企業者カ土地收用法ノ規定ノ結果其土地ヲ取得スルモノナルニ拘ハラズ之ヲ補償ヲ爲サシムルモノナルヲ以テ是ヲ以テ不當利得ニ因ル利得ノ返還ナリト稱スルコトヲ得サルモノトス

(二) 補償請求權ハ全ク土地收用法ノ規定ニ則リ土地收用法ノ裁決ヲ爲スニ因リテ發生シ該收用法ノ規定ニ依リ裁決中ニ裁決ニ因リ發生ス可キ補償請求權ノ範圍即チ補償額ヲ合併セテ決定スルモノニシテ其發生シタル補償請求權ハ土地ノ權利者ヨリ企業者ニ對スル一ノ私權ナリト雖モ補償額ノ決定ノ當否ヲ爭フ訴ハ其性質上司法裁判所ニ於テ管轄ヲ有セサル者ナリト謂ハサル可カラス蓋シ司法裁判所ハ原則トシテ民事刑事ノ爭訟ニ就キテノ管轄權ヲ有スル者ニシテ民事トハ私人間又ハ公人カ私人ノ資格ニ於テ私權ノ侵害ヲ爲シ又ハ之ヲ爲ス虞アル場合ニ之カ救済ヲ求ムルコトヲ指稱スル者ニシテ其侵害サレタル權利ハ私權ナリト雖モ之ヲ國家カ公法人タル資格ニ於テ侵害シタル者ナルトキ之カ救済ヲ求ムルハ是レ行政處分ヲ攻撃スル者ニ屬シ前示補償請求權ノ範圍ノ決定ヲ不服ナリトシテ訴ハ收用法ノ規定ニ依リ行政機關ノ法人トシテノ處分ニ因リ自己ノ補償請求權ヲ侵害セラレタリト爲シ之ヲ救済ヲ求ムル者ナルヲ以テ普通ノ民事事件ナリト稱スルヲ得サレハナリ然ルニ土地收用法ハ特ニ土地收用法ニ對スル收用法ノ規定ニ依リ裁決中補償額ノ決定ニ不服ナル者ハ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ許セルヲ以テ司法裁判所ハ土地收用法ノ特別規定ニ基ツキ始メテ管轄ヲ有スル者ト謂フ可ク而シテ裁決書送達後三ヶ月ヲ經過スルトキハ之ヲ

【參照學說】

爲スコトヲ得スト規定セルニ因リ三ヶ月ヲ經過シタルトキハ司法裁判所ハ之カ管轄權ヲ喪失スル者ノ如キ感アリト雖一旦土地收用法ノ規定ニ依リ其司法裁判所カ管轄權ヲ得タル以上ハ其出訴期間ノ經過シタルハトテ之カ管轄權ヲ喪失スルノ謂レナク又該三ヶ月ノ期間ハ民事訴訟法ノ上訴期間又ハ行政裁判法ノ出訴期限ノ如ク收用法ノ規定ニ裁決ヲシテ之ヲ攻撃スルコトヲ得サラシムル效力即チ形式的確定力ヲ生セシムル者ニ非スシテ其補償額ヲ確定セシムル者即チ實質的確定力ヲ生セシムルニ過キサルモノナルヲ以テ三ヶ月ノ經過後ニ於テ之カ訴ノ提起アレハトテ其訴ハ不適法ナリトハ稱スルコトヲ得サル者トス蓋シ該期間方別ニ民事訴訟法ノ上訴期間ノ如キ性質ヲ有スルモノトセハ其進行ニ付テノ中斷又ハ中止ニ付又ハ期間ノ懈怠ニ付テノ原狀回復等ニ基キ特別ノ規定ヲ設クルノ必要存スルモノニシテ現ニ民事訴訟法行政裁判法ニハ之ニ付テノ規定ノ存スルニ拘ハラズ前示補償額ノ決定ニ不服ナル場合ノ出訴期間ニ付テハ毫モ斯カル規定ノ存セサル所ヨリ觀ルモ該期間ハ該期間ノ經過ニ因リ其裁決中ノ補償額決定ノ效力換言スレハ土地權利者ニ請求シ得可キ補償額ヲ確定セシムルモノト認ムルヲ妥當ナリトス(東京地方元年(ワ)第一八一號二年二月一九日民三乙、石川裁判長、植月、五明各判事判決)

一 公用徵收ハ行政處分ナリ故ニ其性質ニ於テ公法的ナリ債務關係ヲ以テ之ヲ説明スルヲ許サス又法律行為ニアラス國カ其固有スル命令權ヲ行使シテ個人ニ財產ノ移轉ヲ命スルナリ公用徵收ノ條件其效果ハ凡テ公法ノ規定ニ依リテ定マルモノナリ換言スレハ公用徵收ハ全然公法ノ法系ニ屬スルモノナリ唯愛ニ二三ノ場合ニ付キテ問題ヲ生ス

第一ニ公用徵收ナラスニ對シテ起業者ノ支拂フヘキ損失賠償金ノ性質是レナリ公用徵收ハ當然ニ起業者ノ損失賠償義務ヲ生ス此義務ハ果シテ公法上ノモノナリヤ又ハ私法上ノモノナリヤ學者間ニモ異論ノ存スル所ナリ吾人ハ之ヲ公法上ノ義務ナリト解ス公用徵收カ公法行爲ナルカ如ク之ニ對シテ賠償スヘキ義務モ亦公法上ノ義務ニ屬スルナリ或ハ曰ク公用徵收ニ依リテ起業者カ負擔スヘキ賠償義務ハ全ク私法的ノ債務ナリ其性質ハ準契約的債務ナリ賣買ノ代價ニ準スヘキモノナリト然レトモ公用徵收カ賣買ト同シカラサルカ如ク其賠償モ亦代金ト同視スヘキモノニアラス公用徵收ノ賠償ハ賣買ニ準スル代金ノ代價ノミナラス徵收ニ依リテ舊所有者カ受ケタル一切ノ損害ヲ填補スヘキモノナリ此點ヨリスルモ損失賠償ハ代金ニアラス之ヲ要スルニ損失賠償金ノ性質ハ公法的ノモノト解スルニ適當トス(市村學士行政法原理九五頁以下)

二 土地收用トハ公用徵收ノ一種ニシテ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲ニ土地ノ上ニ存スル財産權ヲ徵收シテ之ヲ國家又ハ第三者ニ移轉スル處分ナリ而シテ通常之ニ對シテ補償ヲ爲スモノナリ

三 土地收用ハ國家權力ノ行爲ナリ權力ニ依リテ私人ノ財産權ヲ其承諾ニ拘ラス徵收スルナリ往時ニ在リテハ之ヲ賣買ノ一種ト見タリ唯私人ハ賣買ノ意思ヲ表示スルニ付テ國家權力ノ強制ヲ受クルカ故ニ強制賣買ト云フヘキモノナレトモ其性質ハ賣買ニシテ民法上ノ賣買ノ規定ヲ適用スヘキモノト爲セリ併ナカラ土地收用ハ全然國家ノ權力ニ依ル一方的命令ノ行爲ニシテ私法上ノ賣買ニアラス強制賣買ト云フカ如キハ固ヨリ意味ヲ爲サズ民法ノ賣買ノ規定ハ之ヲ適用スヘカラサルナリ例ハ收用サレタル土地ノ隠レタル瑕疵ニ對スル擔保ノ義務、追奪擔保ノ義務ノ如キハ被收用者之ヲ負ハサルナリ次ニ土地收用ハ一ノ處分ナリ法規ニ依リテ臣民ノ財産權ヲ消滅セシメ又ハ制限スルハ公用徵收ニアラス土地收用ハ法規ニ依ル制限ニアラスシテ處分ナリ土地收用ニハ第三者ニ權利ノ移轉アルコトヲ要ス國家權力ノ處分トシテ私人ノ財産權ヲ徵收スルモ其權利ヲ移シテ別ニ第三者又ハ國家ノ權利ト爲ササルトキハ公用徵收ニアラス

收用ノ裁決ハ次ニ損失ノ補償ヲ決定ス土地收用ニ對シテ補償ヲ與フルコトハ必スシモ收用ノ觀念ヲ成スモノニアラス國家ハ收用ヲ爲スニ何等ノ補償ヲ與ヘサルコトヲ得併シナカラ偶必要ナル土地ヲ所有シタル者ハ特別ノ損害ヲ受タルモノナルカ故ニ其損失ヲ補償スルハ正義ノ觀念ニ適ヘリ國家ハ當ニ各人ノ負擔ノ均一ナラント欲シ土地ノ收用ニ對シテハ補償ヲ與フルトス補償ハ土地所有者及其土地ニ關シテ權利ヲ有スル關係人ノ受クヘキ各種ノ損失ヲ補償ス收用スヘキ土地、物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リテ其損失ヲ補償ス(上杉博士行政法三二〇頁以下)

三 司法裁判所ハ土地收用審査委員會ノ補償金額ニ關スル裁決ニ對スル訴ニ非サレハ審査スルノ權ナシ故ニ協議會ニ於ケル協議上ノ手續又ハ補償金額ニ關係ナキ裁決ニ付テ不服ハ司法裁判所ノ管轄スヘキモノニ非ス(大審院民事判決錄三〇年五卷六八頁)

四 土地ノ收用ニ因リ土地所有者ノ被ムリタル損失ノ有無及ヒ起業者ノ支拂フヘキ補償ノ多寡ハ所有者ト起業者トノ間ニ於ケル純然タル私法上ノ權利問題ナルカ故ニ之ニ關スル審査委員會ノ裁決ノ當否ハ司法裁判所ニ於テ審査スヘキモノトス(大審院民事判決錄三〇年一〇卷三三頁)

民事訴訟法  
第五四條  
第五五條  
第五八條

競賣法ニ依ル競賣事件ハ其性質非訟事件ニ屬スルモ同法ニ規定ナキ場合ニ於テハ民事訴訟法ノ強制執行ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノナルコトハ本院裁判例ノ認ムル所ナリ故ニ競賣開始決定ニ對シテハ抗告人主張ノ如ク非訟事件手續法第二〇條ヲ適用スヘキモノニアラス民事訴訟法第五四條ニ依リ先ツ異議ノ申立ヲ爲シ其申立ニ關スル裁判ニ對シテ同法第五五八條ニ從ヒ抗告ヲ爲スヘキモノニシテ直チニ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス(大審院二年一〇二號同年八月一四日民二判決)

(民法) 73

競賣法ニ依ル競賣開始決定ニ對シテハ民事訴訟法第五四條ニ依リ先ツ異議ノ申立ヲ爲シ其申立ニ關スル裁判ニ對シテ同法第五五八條ニ從ヒ抗告スヘキモノトス

非訟事件手續法二〇 裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタルトスル者ハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法五四 強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シテ違背ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五二條第二項ニ定メタル命令ヲ發スル權ヲ有ス

執行力執行委任ヲ受クル者若クハ委任ニ從ヒ執行行爲ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執行力計算セシ手續料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所之ヲ裁判スル權ヲ有ス

同五五八 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經シテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競賣法ニ依ル競賣事件ハ其性質非訟事件ニ屬スルモ同法ニ規定ナキ場合ニ於テハ民事訴訟法ノ強制執行ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノナルコトハ本院裁判例ノ認ムル所ナリ故ニ競賣開始決定ニ對シテハ抗告人主張ノ如ク非訟事件手續法第二〇條ヲ適用スヘキモノニアラス民事訴訟法第五四條ニ依リ先ツ異議ノ申立ヲ爲シ其申立ニ關スル裁判ニ對シテ同法第五五八條ニ從ヒ抗告ヲ爲スヘキモノニシテ直チニ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス(大審院二年一〇二號同年八月一四日民二判決)

本件ニ就テハ本書第二卷諸法五三頁判例及ヒ之ニ引用セル學說判例ヲ參照セラ

ルニ尙民事訴訟法第五四條ト第五五八條トノ關係ニ就テハ本書第二卷民事

再競賣ノ  
性質  
六項  
八ノ  
權利  
者ノ  
八民ノ

競賣法三三 競賣期日ハ民事訴訟法第六六〇條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開ク  
 競賣ノ手續競賣ヲ許ササル場合ノ新競賣期日競賣ノ履行及競賣人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民事  
 訴訟法第六七一條乃至第六七四條第六七六條乃至第六八三條第六八七條及第六八八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ  
 準用ス  
 民事訴訟法六八八 競賣人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣  
 ヲ命スヘシ  
 最初ノ競賣ノ爲メニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス  
 再競賣期日ハ少ナクトモ一四日ノ後タルヘシ  
 競賣人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ  
 再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競賣人ハ競賣ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ競賣代價カ最初ノ競賣代價ヨリ低キトキハ不  
 足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス

再競賣ノ場合ニ於テ再度ノ競賣代價カ最初ノ競賣代價ヨリ低キ爲メ前ノ競賣人  
 ニ對シ其不足額及ヒ手續ノ費用ヲ請求シ得ル者ハ何人ナリヤ(左記判決ハ債務  
 者ナリト解ス)

競賣法第三二條第二項ニヨリ準用セララルル民事訴訟法第六八八條第五項ニ依レハ再  
 競賣ノ場合ニ於テ再度ノ競賣代價カ最初ノ競賣代價ヨリ低キトキハ前競賣人ニ於テ  
 其不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔ス可キモノナルコト明白ナルモ何人カ右不足額及  
 ヒ手續ノ費用ヲ請求シ得ル權利ヲ有スルヤノ點ニ付テハ法律ニ於テ之ヲ明定セザル  
 カ故ニ異論ナキニ在ラスト雖モ競賣法並ニ同法ニヨリ準用セララルル民事訴訟法ニ於  
 テ再競賣ノ結果其競賣代價カ最初ノ競賣代價ヨリ高キ場合ニ其剩餘額ニ付キ前競賣人

本件内容ト同一ナル東京控訴院民三部ノ判決ニ付キ吾人ハ本書第二卷民訴四九  
 頁ニ於テ學說及判例ヲ引用評論シタルヲ以テ同頁ヲ參照セララルヘシ

競賣法三三 競賣人ハ競賣ヲ許ス決定カ確定シタル後直チニ代價ヲ裁判所ニ支拂フコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判  
 所ハ其裁判ノ應本ヲ添ヘ競賣人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託ス可シ  
 競賣所ハ前項ノ代價ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金ハ遲滞ナク之ヲ受取ル可キ者ニ交付スルコトヲ要ス  
 民事訴訟法四五六第二項 抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非サ  
 レハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

競賣法ニ依ル競賣手續ニ於テモ同一不動産ニ付キ二重ニ競賣開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

二箇ノ下級裁判所ノ裁判カ相一致スル場合ニハ裁判所ノ構成其他重要ナル訴訟手續ニ違背ナキ限りハ新ナル獨立ノ抗告理由存セザルモノトス

競賣法ニ依ル競賣ニ關シテハ競賣法中反對ノ規定オク又其性質ノ許ス限リハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス可キコトハ當院ノ裁判例トスル所ナリ而シテ競賣法ニ於テハ競賣開始決定ヲ爲シタル不動産ニ付更ニ開始決定ヲ爲スニテハ得ズ何の特  
別ノ規定ナシト雖モ一旦競賣開始決定アリタル不動産ニ付テハ其手續ノ廢止セザレ  
サル限り裁判所ハ之ヲ進行完結シ其競賣代金ハ競賣法第三三條第二項ノ規定ヲ從ヒ

同五四條 強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁  
判ス又執行裁判所ハ第五二條第二項ニ定メタル命令ヲ發スル權ヲ有ス  
執達吏カ執行委任ヲ受クルコトヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行為ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算  
セシ手續料ニ付異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス  
同五五條 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經シタル爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
同六四條 裁判所ハ競賣手續開始決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得  
ス

右申立ハ執行記録ニ添付スルニ因リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ第六四  
九條第一項ノ規定ヲ害セザル限りハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス  
假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セズ  
同六四九 差押債權者ノ債權ニ先ヅ債權ニ關スル不動産ノ負擔ヲ競賣人ニ切受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其  
負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス(後略)

之ヲ受ク可キモノニ交付ス可キモノナレハ競賣法ニ依ル競賣手續ヲ於テモ強制執行

ニ依ル強制競賣ト同シク同一不動産ニ付二重ニ競賣開始決定ヲ爲スコトヲ許サザル

法意ナルコトヲ知ルニ難カラス故ニ民事訴訟法第六四九條第一項ノ規定ハ競賣法ニ

依ル競賣手續ニ準用ス可キモノニシテ原院カ之ニ反スル決定ヲ爲シタルハ正當ナラ

ス然レトモ競賣法ニ依ル競賣手續ニ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス可キ結果競賣開始決

定ニ對シテハ同法第五四四條ノ規定ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得可ク其申立ニ

關スル裁判ニ對シテハ同法第五八條ノ規定ニ從ヒ抗告ヲ爲スコトヲ得ルト同時ニ

競賣開始決定ニ對シテハ直チニ抗告ヲ爲スコトヲ許ス可キニ非スト雖モ抗告ニ關シ

テハ民事訴訟法第四五五條以下ノ規定ヲ準用ス可ク抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ同

法第四五六條第二項ノ規定ニ從ヒ其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルト

キニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス所謂新ナル獨立ノ抗告理由ハ二

箇ノ下級裁判所ノ裁判カ相一致スル場合ニハ裁判所ノ構成其他重要ナル訴訟手續ニ

違背ナキ限りハ存セザルモノナレハ大審院ニ再々抗告ヲ爲サントスルニ當テハ其一

致カ控訴院ノ裁判ト地方裁判所ノ裁判トノ間ニ在ルト地方裁判所ノ裁判ト區裁判所

ノ裁判トノ間ニ在ルトトナリ又控訴院ノ裁判ト區裁判所ノ裁判トノ間ニ在ルト

トナリ又控訴院ノ裁判ト區裁判所ノ裁判トノ間ニ在ルトトナリ又控訴院ノ裁判ト區裁判所

ノ裁判トノ間ニ在ルトトナリ又控訴院ノ裁判ト區裁判所ノ裁判トノ間ニ在ルトトナリ

又控訴院ノ裁判ト區裁判所ノ裁判トノ間ニ在ルトトナリ又控訴院ノ裁判ト區裁判所

ノ裁判トノ間ニ在ルトトナリ又控訴院ノ裁判ト區裁判所ノ裁判トノ間ニ在ルトトナリ

又控訴院ノ裁判ト區裁判所ノ裁判トノ間ニ在ルトトナリ又控訴院ノ裁判ト區裁判所

ノ裁判トノ間ニ在ルトトナリ又控訴院ノ裁判ト區裁判所ノ裁判トノ間ニ在ルトトナリ

又控訴院ノ裁判ト區裁判所ノ裁判トノ間ニ在ルトトナリ又控訴院ノ裁判ト區裁判所

原院ノ裁判ハ大阪區裁判所ノ裁判ト相一致スルモノナリ從テ原院ノ裁判ニ因リ新ナ  
ル獨立ノ抗告理由ヲ生シタリト爲スコカラサルノミナラス本件抗告論旨モ原院ノ裁  
判ニ對シ鑄實開始決定ヲ爲スコキモノニ非サルノ理由ヲ開陳シ不服ヲ主張スルニ外  
ナラスシテ原裁判ニ依リ獨立ノ抗告理由ヲ生シ之ヲ理由トシテ原決定ノ廢棄ヲ求ム  
ルモノニ非ス(大審院大正二年(ク)第一六七號同年七月一四日民一決定)

【同趣旨判例】

新ナル獨立ノ抗告理由ハ二箇ノ下級裁判所ノ裁判力相一致スルトキハ前審ノ構成又ハ重要ナル訴訟手續ニ違法ナキ限ハ存セザ  
ルモノトス(大審院民事判決錄四五年五六七頁)

尙本書第一卷民訴第九一頁ヲモ參照セラルヘシ

(四一)

不動産登記法五六 權利變更ノ登記ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ニ於テハ申請書ニ其承諾書又  
ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ際本ヲ添付シタルトキニ限リテ其登記ヲ爲ス  
同六三 登記官吏カ登記ヲ完了シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ登  
記權利者及ヒ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ニ通知スルヲ  
以テ足ル  
同一五〇 登記官吏ノ決定又ハ處分不當トスルモノハ管轄地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

登記官吏ノ爲シタル登記ニ錯誤又ハ遺漏アル場合ニ於ケル登記ノ更正方法(抗告  
ヲ得ス)

登記官吏カ登記申請ヲ受理シ登記ヲ爲スハ登記官吏ノ處分ニ外ナラスシテ其受理シ

タル登記申請中ノ一事項ニ付キ登記ヲ遺漏シタルカ如キハ固ヨリ不當處分タルヲ免  
レス而シテ不動産登記法第一五〇條ニ於テ汎ク登記官吏ノ不當處分ニ對シ抗告ヲ爲  
スコトヲ得セシメタルニ見レハ右ノ如キ不當處分ニ對シテモ亦抗告ヲ爲シ得ヘキモ  
ノノ如シト雖トモ同法第六三條前段ニハ登記官吏カ登記ヲ完了シタル後其登記ニ付  
キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ登記權利者及ヒ登記義  
務者ニ通知スルコトヲ要ストアリ其次條ニハ第五六條第五七條ノ規定ハ登記ノ更正  
ヲ爲ス場合ニ準用ストアリテ其準用サレタル第五六條ニハ權利ノ變更ノ登記ニ付キ  
登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ニ於テハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗  
スルコトヲ得ヘキ裁判ノ際本ヲ添付シタルトキニ限リ附記ニ依リテ其登記ヲ爲スト  
ノ規定アルニ依リ登記ノ錯誤又ハ遺漏ハ登記官吏ニ於テ自由ニ更正スルコトヲ許サ  
ス登記權利者及ヒ登記義務者ノ申請ヲ待ツテ之カ更正ヲ爲スヘキ者トシタルコト明  
白ニシテ其申請ニ對スル更正ノ手續トシテ登記ノ更正ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有  
スル第三者ナキ場合若クハ其之アルモ申請者ニ於テ其承諾書又ハ之ニ對抗シ得  
ヘキ裁判ノ際本ヲ提出シタルトキハ附記登記ヲ爲シ若シ其承諾書又ハ裁判ノ際本ヲ  
提出セサルトキハ主登記ヲ爲スヘキコトト爲シタルコトモ亦明カナルヲ以テ當事者  
ハ登記ノ錯誤遺漏ヲ更正センニハ須ラク之カ申請ヲ爲ササル可ラス其申請ヲ爲サハ  
以テ完全ニ更正ノ目的ヲ達シ得ヘキモノト謂ハサル可ラス尤モ登記權利者ニ於テ登  
記ノ更正ヲ申請セントスルニ當リ登記義務者カ之ヲ肯セサルコトナキヲ保シ難シト  
雖トモ尙來登記ヲ結了セシムヘキ義務アルモノナレハ一旦登記申請ヲ履行シタリト

憲法三三  
警察犯廳令一  
密賣淫ヲ爲シ又ハ其謀合若クハ容止ヲ爲シタル者

其申請ニ因リテ爲サレタル登記カ錯誤又ハ遺漏ノ缺點ヲ見出ル場合ニハ未ダ全額登記申請義務ヲ免カレタリト云フ能ハス必ズ其錯誤又ハ遺漏ノ更正申請ヲ爲シ以テ登記ノ完全ヲ計ルヘキ義務ヲ負ヘルモノタルコト當然ナルヲ以テ登記權利者ハ訴訟ニ依リ其申請ノ意思表示ニ代ハルヘキ判決ヲ得テ申請ヲ完カラシムルヲ得ヘキ故ニ登記義務者カ申請ヲ背セサルカ如キ事情ハ登記更正ヲ求ム者ニ於テ何等支障ナキモノトス夫レ如斯登記ノ錯誤遺漏ノ救済ニ付キ特ニ周到ナル規定ヲ設ク當事者ノ申請ニ依リテノミ之カ更正ヲ爲スヘキモノト定メタルニ見レバ登記官吏ノ登記カ錯誤又ハ遺漏アル不當處分ニ對シテハ被告ノ方法ニ依リテ救済ヲ登請スルハ在リテ其不當處分ハ同法第一五〇條ノ所謂不當處分中ヨリ除外サル者ト解スルヲ相當トス是故ニ原決定ニ於テ登記官吏カ抵當權設定登記申請ヲ受理シ之カ登記ヲ完了シタルモ申請ノ目的物件中其一部ニ付キ登記ヲ遺漏シ或ハ不當處分ニ對スル被告ニ對シ被告ヲ爲シ得ヘキ場合ニ該當セストノ理由ニ基キ之ヲ却下シ或ハ相當ナリ(長崎縣訴訟大正二年(ヲ)第一號同年二月二〇日民一、富田裁判長、栗本、遠藤、村部、中根各判事列張法律新聞第八七〇號一〇頁)

(四二)

憲法三三 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ  
警察犯廳令一 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三〇日未滿ヲ拘留ニ處ス  
密賣淫ヲ爲シ又ハ其謀合若クハ容止ヲ爲シタル者  
明治一六年二月二四日司法省達丁第九號 明治一四年一〇月富省甲第五號布達ニ據リ巡査ニ於テ警部代理ノ資格ヲ以テ取扱事件ニ付テハ裁判所準テ警部同様ノ取扱ヲ爲ス可シ此旨相達候事

裁判官ノ委任命令ノ性質

(一) 裁判所ハ適用ス可キ法律命令ノ實質カ憲法違反アルヤ否ヤヲ審査シ其適用ヲ拒ミ得ヘキモノニ非ス  
法律カ命令ニ委任シテ立法事項ヲ規定セシムルハ即チ其命令ヲ以テ自己ノ内容ト爲スモノナリ

(二) 巡査ノ作成シタル聴取書ハ無効ニ非ス

士 (一) 裁判所カ司法權ヲ行フニ當リ先ツ適用ス可キ法律命令カ法律命令タル形式ヲ具備スルヤ否ヤヲ審査セザル可カラサルハ固ヨリ言フテ須タサル所ナレトモ苟モ其形式ニ於テ缺クル所ナシトセハ則チ進ンテ其實質カ憲法違反ノ法律ニ非サルカ若クハ法律違反ノ命令ニ非サルカヲ審査シテ之カ適用ヲ拒ミ得可キモノニ非ス又憲法第二三條ニ所謂法律カ形式上ノ法律ヲ指稱スルハ勿論ナリ下雖モ法律カ命令ニ委任シテ立法事項ヲ規定セシムル場合ニ於テハ法律ハ其命令ヲ以テ自己ノ内容ト爲スモノニシテ法律ノ效力ヲ完全ナラシムルカ爲メニハ其命令ヲ有效トシテ之ヲ適用スルモノニ命令ヲ適用スルハ則チ法律ヲ適用スル所以ニ外ナラス而シテ明治二三年法律第八四號ニ基キ委任ニ依リ同年勅令第二〇八號ヲ以テ省令ニ拘留又ハ科料ノ罰則ヲ付スルコトヲ認メタルニ因リ此ノ制裁ノ規定ヲ付シタル明治四一年內務省令第一六號警察犯廳令モ亦憲法第二三條ニ所謂法律ノ內ニ包含セララルモノト認ムル可カラズ故ニ原審カ被告人ノ密賣淫ノ事實ヲ認定シ右省令第一條第二號ヲ適用處斷シタルハ



正當ナリ  
(二) 巡査カ司法警察官ニ非サルコトハ辯護人所論ノ如クナレトモ喜一郎ノ聴取書ニ  
警察署長代理トアルハ則チ司法警察官警察部代理ノ意義ナルコト明ニシテ聴取書作成  
ノ如キ處分ハ司法警察官タル警察部自身ニアラザレハ之ヲ爲シ得ヘカラサル性質ノモ  
ノニ非ラスシテ司法警察官ノ補助機關モ亦之ヲ代理シテ作成シ得キモノトス而シ  
テ明治一四年司法省布達甲第五號及同年司法省達丙第一三號ニ依レハ巡査カ司法警  
察事務上警察部ヲ代理スルヲ得キモノナルヲ以テ巡査白井ニ於テ司法警察官ヲ代理  
シテ作成シタル右聴取書ハ無效ノ書類ニ非ス(大審院大正二年(レ)第一〇七〇號同年七  
月一日刑一判決)

土地收用ニ依ル損失補償ト損得相殺

控訴人コウノ所有ニ係ル殘宅地二三坪ノ價格低減補償金ニ付キテ案スルニ右宅地カ  
一部收用ニ因リテ狭小トナリタル爲メ經濟上ノ效用ヲ減少セラレタルコトハ之ヲ想  
像シ得ヘキモ殘地ノ損失ヲ定ムルニハ收用ノ目的タル事業ノ其土地ノ價格ニ及ホス  
影響等ヲ斟酌シテ之ヲ決スヘキモノニシテ單ニ殘地ノ大小廣狹ノミニ依リテ之ヲ  
決スヘキモノニ非ス本件ニ於テ前示殘地カ被控訴人ノ工事タル新道開設ノ爲メ道路  
ニ面接スルコトトナリタルコトハ控訴人ノ陳述自體ニ徴シテ明白ナレハ右殘地カ交  
通上ノ便益ヲ得タル爲メ其價格ヲ增加スヘキヤ經濟上當然ノ結果ナリト謂フヘリ  
審鑑定人武三郎ノ該殘地損失ニ關スル鑑定ト叙上ノ事實ト殘地ノ坪數トヲ參照シテ

其損失額ヲ量定シタルモノニシテ其鑑定方法適當ナルニ依リ當院ハ右鑑定ノ結果ト  
前示殘地ノ面積トヲ參照斟酌シ右殘地ノ損失補償額ハ收用審査會ノ裁決シタル如ク  
一坪ニ付キ金三圓ヲ相當ナリト認ム(東京控訴院元年(ネ)第六六二號二年五月二六日民  
一審瀧裁判長木戸長谷川各判事判決)

徵兵令第三一條ニ所謂其他詐僞ノ所爲トハ兵役ヲ免ルルノ目的ヲ以テスル一切  
ノ詐僞ノ行爲ヲ包含スルモノトス

徵兵令第三一條ノ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者トハ兵役ヲ免ルルノ目的ヲ以テスル  
一切ノ詐僞ノ行爲ヲ包含スルモノニシテ原審認定ノ如ク兵役ヲ免レンカ爲メ徵兵檢  
査官ニ對シ視力ニ故障アル旨詐僞ノ陳述ヲ爲スハ則チ同法ニ所謂詐僞ノ所爲ヲ用フ  
ル者ニ外ナラサルカ故ニ原審カ此事實ニ對シ右徵兵令第三一條ヲ適用シタルハ正當  
ナリ(大審院二年(レ)第一二九〇號同年九月一六日刑一判決)

【參照判例】

- 一 徵兵令第三一條ノ「兵役ヲ免レンカ爲メ」ナル文詞ハ詐欺ノ手段ヲ用キテ絕對的兵役ノ免除徵集ノ延期又ハ其猶豫ヲ得ン  
トシタル場合ヲ網羅セルモノトス(大審院刑事判決錄三九年六一七頁)
- 二 苟モ兵役ヲ免ルルノ目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シタル者ハ檢査ノ結果兵役ヲ免レタルト否トニ論ナク徵兵令第三一條ニ依リテ  
處罰セラルヘキモノトス(大審院刑事判決錄三八年九六九頁)

至當ノ見解ナリト信ス

町村制三七 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル

罰則ヲ準用ス(後略) 選舉ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又

衆議院議員選舉法八七 十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

ハ選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又

ハ供與センコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾センコトヲ周旋勸誘シタル者並供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承

諾シタル者

二 選舉ニ關シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ獎勵接待シ又ハ獎勵接待ヲ受ケタル者又ハ選舉

會場、開票所若ハ投票所ニ住居スル爲メ車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ宿泊料ノ類ヲ

代辨シ及其代辨ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者(後略)

刑法施行法一九 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ

禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス(後略)

同二〇 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セズ但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ

付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

刑法五四 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ

其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

村會議員選舉ニ關シ一席ニ於テ數名ヲ獎勵シタル所爲ハ刑法第五四條ニ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸レタルモノナリヤ(左記大審院判例)

原判決ノ認ムル事實ニ依レハ被告惣三郎ハ村會議員選舉ニ關シ議員候補者ノ爲ニ選  
動ヲ爲シ村會議員選舉有權者タル共同被告甚造外十三名ニ對シ自宅ニテ酒食ヲ供與  
スルニ付キ其候補者ニ投票シ吳レ度キ旨ヲ申込ミ自宅ニテ同時ニ之ヲ獎勵シタル  
モノナリ故ニ其行爲ハ一箇ノ行爲ニシテ又獎勵ヲ受ケタル選舉人ヲ數ニ處シ各別

町村制第三七條第一項衆議院議員選舉法第八七條第一項第二號刑法施行法第一九  
條第二〇條ノ罪名ニ觸ルルモノトス然リ而シテ刑法第五四條ニ數箇ノ罪名ニ觸レト  
アルハ別異ナル數箇ノ罪名ニ觸ルルト同一ナル數箇ノ觸名ニ觸ルルトナリトナ  
ク總テ之ヲ包含スル趣旨ナリト解釋スヘキモノナルヲ以テ右行爲ハ數箇ノ罪名ニ觸  
ルルモノトス原判決ノ論旨ニ據ケルカ如ク被告惣三郎ノ行爲ハ一箇ノ行爲ニシテ數  
箇ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ云云ト判示セルハ畢竟以上説明ノ趣旨ニ於テナラザ  
ルコト判文ヲ通覽スレハ容易ニ之レヲ理會スルヲ得ヘシ(大審院大正二年(レ)第一三四  
六號同年九月二十九日刑二判決)

【參照學說】

本書第一卷刑法二〇七頁ニ引照セル大場博士小嶋學士ノ諸說

【參照判例】

一 衆議院議員選舉ニ關シ一席ニ於テ數名ヲ獎勵シタル所爲ハ獎勵ヲ受ケタル方面ヨリ觀察スレハ各自ニ一罪ヲ構成スヘキモ  
獎勵ヲ爲シタル者ハ單ニ一罪ヲ構成スルニ止マリ數罪ヲ構成スヘキモノニ非ス(大審院刑事判決錄三五年三三頁)  
二 衆議院議員選舉法第八七條第一項第二號ニハ選舉ニ關シ酒食遊覽等其方法及ヒ名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ獎勵接待シタル  
者トノミアリテ獎勵接待ヲ受ケタル人ノ誰タルヤハ獎勵者ノ罪ト爲ルヘキ事實ニ何等ノ影響ヲ及ボササルヲ以テ其氏名ヲ一  
列文ニ明示セザルモ不法ニ非ス(大審院刑事判決錄四〇年一三七二頁)  
三 刑法第五四條ニ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルトハ數箇ノ別異ナル罪名ハ勿論其數箇ノ同一ナル罪名ニ觸ルル  
場合ヲモ包含セルモノトス(大審院刑事判決錄四二年二〇五頁)

吾人ハ本判旨ニ賛同スル能ハス是レ刑法第五四條第一項前段ニ所謂一個ノ行爲  
ニヨリ數箇ノ罪名ニ觸ルルトハ一個ノ行爲ニヨリ數箇ノ異リタル法規ニ該當ス

ル結果ヲ生シタル場合ヲ謂フトハ吾人ノ屢々論述シタルトコロナレハナリ本書  
第一卷刑法二〇六頁ノ評論參照セラレタシ

(四六)

醫師法七

醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルナ間ハス業務上學位、稱號及專門科名ヲ除クノ外其ノ技能、療法又ハ經歷  
ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

同一一 免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者、停止中醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第六條、第七條若ハ第一三條  
第三項但書ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

(一) 醫師法第七條ニ所謂廣告ハ苟モ療法ニ關スルモノナルトキハ詳密ニ示スト否  
ト又特殊ノモノタルト否トヲ問ハス醫師ハ同第一一條ノ制裁ヲ免ルルヲ得サ  
ルモノトス

(二) 上告趣意書提出前ニ提出セラレタル同一事件ニ關スル他ノ上告論旨ハ之ヲ援  
用スルヲ得ルモノトス

醫師ノ廣  
告處罰

上告趣意  
書提出前

(一) 醫師法第七條ニハ醫師ハ云云其技能療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得  
スト規定シ療法ニ付キ更ニ制限スル所ナキヲ以テ之ヲ詳密ニ示スト否ト又特殊ノモ  
ノタルト否トヲ問ハス苟モ療法ニ付テ廣告ヲ爲シタル醫師ハ同第一一條ノ制裁ヲ免  
ルルヲ得ス原判決ニ依レハ被告ハ大阪毎日新聞ニ肝炎子痲其他呼吸困難ノ病ニ對シ  
酸素吸入療法ヲ始ムル旨廣告シタル事實ナレハ原審カ同第七條ニ違反シタルモノト  
シ同第一一條ニ依リ被告ヲ處罰シタルハ相當ナリ

提出ノ上  
告論旨

ルヲ得ルモ所掲ノ文書ハ第一審ニ提出セラレタルモノニシテ其内容ハ上告論旨ニア  
ラサルカ故ニ上告論旨トシテ之レヲ援用スルヲ許サス從ツテ本論旨ハ適法ノモノト  
云フヲ得ス(大審院二年(れ)第一三三二號同年九月二十七日刑三判決)

【參照判例】

醫師ニシテ自己ノ業務上其經歷ヲ敘述シタル廣告ヲ爲ストキハ醫師法第七條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其廣告ノ目的如何ハ本罪ノ  
成立ニ何等ノ影響ナシ(大審院刑事判決錄四三年一〇二五頁)

(四七)

辯護士法二

辯護士タルト欲スル者ハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス

第一

日本國民ニシテ民法上ノ能力ヲ有スル成年以上ノ男子ナルコト

第二

左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得

第一

判事檢察官タル資格ヲ有スル者又ハ辯護士ニシテ其ノ請求ニ因リ登録ヲ取消シタル者

第二

法律學ヲ修メタル法學博士帝國大學法律科卒業生舊東京大學法學部卒業生司法省舊法學校正則部卒業生及  
司法官試験補タリシ者

同二八

辯護士ハ其所屬地方裁判所毎ニ辯護士會ヲ設立スヘシ

同二九

辯護士會ハ其會則ヲ定メ檢事正ヲ經由シテ司法大臣ノ認可ヲ受クヘシ

同三〇

辯護士ハ所屬辯護士會ノ會則ヲ遵守スヘシ

同三一

辯護士ハ辯護士會ニ加入シタル後ニ非サレハ職務ヲ行フコトヲ得ス

新ニ入會スル者ニ一定ノ加入金ヲ課スルコトヲ辯護士會則ニ規定スルハ違法ナ  
ルカ

何等ノ理由ナクシテ加入金ヲ徵收スルカ又ハ相當ノ理由アリトスルモ其加入金ノ金  
額ニシテ相當ナルトキハ法定ノ資格(同法第二條)ヲ有シ法定ノ登録手續ヲ履ミタル

辯護士會  
加入

至當ノ見解贊同ヲ表ス蓋シ辯護士會ノ設立竝ニ辯護士ノ職ヲ爲ス者ハ必ラス辯  
護士會ニ加入シタルコトヲ要スルハ辯護士法ノ規定スルトコロナルモ辯護士會  
ヲ設立シ及ヒ之レヲ維持スルコトハ會員一同ノ負擔タラサルヘカラス故ニ既入  
會員カ會費出捐ニ因リ會務ノ處理上必要ナル設備ヲ爲シアルカ如キ場合ニ之ニ  
ヨリ利益ヲ享受スヘキ新加入者ニ對シ相當ノ加入金ヲ徵收スルカ如キハ固ヨリ  
正當ニシテ何等辯護士法ニ違反スルモノニアラサレハナリ

(四八)

電信法三三 自己若クハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ虛偽ノ電報ヲ發シタル者ハ一月以上  
五年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ場合ニ於テ電信爲替ニ要スヘキ電報ニ係ルトキハ六年以上八年以下ノ懲役ニ處ス  
電信事務ニ從事スル者前二項ノ行爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

電信法第三三條ニ虛偽ノ電報トハ内容カ虛偽ナル場合ヲ謂フモノニシテ他人ノ  
署名ヲ使用シ通信文ヲ賴信紙ニ記入シタル場合ニ適用ナキモノトス

電信法第三三條ハ單ニ電報ノ内容カ虛偽ナル場合ニ適用スヘキモノニシテ他人ノ署  
名ヲ使用シ通信文ヲ賴信紙ニ記入シタル本件ノ如キ場合ニ適用スヘキモノニ非ス(大  
審院元年(レ)二五三二號二年二月二一日刑一宣告)

(四九)

鑛業法一九 鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅並處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付テ  
モ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス  
前項ノ登記ハ登記ニ代ルモノトス  
登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
同二〇 前條第一項ニ掲ケタル事項ハ相續、期限ノ到來ニ因ル鑛業權ノ消滅並ニ第四二條及第四三條ノ競賣ノ場合  
ヲ除クノ外登記ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生セス  
民法九五 意思表示ハ法律行爲ノ要素ニ錯誤アリタルトキハ無効トス但表意者ニ重大ナル過失アリタルトキハ表意  
者自ラ其無効ヲ主張スルコトヲ得ス

- (一) 共同鑛業權者ト爲ルコトハ之ヲ鑛業原簿ニ登錄スルニ非サレハ當ニ第三者ニ  
對抗シ得サルノミナラス當事者間ニ於テモ其效力ヲ生セス
- (二) 從テ當事者カ自己ニ持分アリト信シテ之ヲ讓渡スモ要素ニ錯誤アル無効ノ契  
約ナリトス

被控訴代理人カ本件請求ノ原因トシテ主張スル所ハ要スルニ土滙青ノ採掘權即鑛業  
權ヲ控訴人、被控訴人並ニ訴外德田正藏ノ三名ニテ他ヨリ買受ケ共有セシカ不折合ナ

ル爲メ被控訴人ハ右鑛業權ノ持分ヲ控訴人ト徳田正蔵トノ二人ニ七千圓ニテ讓渡シ  
 タリ然ルニ該讓渡代金中滯分アルヲ以テ之カ請求ヲ爲スト云フニ在リテ右鑛業權カ  
 徳田正蔵一人ニテ登録サレアルコトハ被控訴代理人ノ認ムル所ナリ然ルニ二人以上  
 ニテ鑛業權ヲ共有スルコトハ換言スレハ二人以上ノ者カ共同鑛業權者トナルコトハ之  
 ナ鑛業原簿ニ登録スルニ非サレハ第三者ニ對抗シ得サルノミナラス當事者間ニ  
 於テモ效力ヲ生セサルコトハ鑛業法第一九條第二〇條ノ規定ニヨリテ明カナリ即チ  
 我鑛業法ニ於テハ登録ヲ爲ササル限リ如何ニ當事者間ニ合意スルモ共有關係ヲ定ム  
 ルコトヲ認メサルヲ以テ本件土滯青ノ探掘權ニ付キ被控訴人カ控訴人並ニ徳田正蔵  
 ト契約シ三名ノ共有スル旨ヲ定メタリトスルモ其契約ハ法律上無効ニシテ現ニ登録  
 セル徳田正蔵一人ノ鑛業權ニ止マリ從テ控訴人カ持分ヲ有シ得ヘキ理ナシ

(二) 然ラハ被控訴代理人主張ノ如ク控訴人並ニ徳田正蔵カ被控訴人ヨリ持分ヲ讓受  
 ケ七千圓ノ代金ヲ拂フノ約束ヲ爲シタリトスルモ持分カ其實存セサルヲ以テ法律行  
 爲ノ要素ニ錯誤アル場合ニ該當シ右持分讓渡ノ契約ハ無効ト云ハサルヘカラス然ラ  
 ハ被控訴人ニ讓渡代金ノ請求權ナキコト自カラ明カニシテ此點ニ於テ被控訴人ノ請  
 求ハ已ニ失當ナリ(東京控訴院二年(ホ)第一號同年十月六日民四、滋淵裁判長、三橋、白井  
 各判事判決)

【參照判例】

一 鑛業權ハ他ノ普通民法上ノ物權ト異ナリ登録ヲ以テ單ニ第三者ノ對抗要件ト爲サシテ設定移轉等ノ成立要件ト爲シタル  
 モノナリ(長崎控訴院四年一月一日判決、法律新聞五三五號一五頁)

二 鑛業法ヲ按スルニ鑛業權ノ移轉ハ鑛業原簿ニ登録スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルコトハ同法ノ規定スル所ナルヲ以テ鑛  
 業權ノ讓渡ヲ契約スルモ其登録ヲ爲スマテハ移轉ノ效力ヲ生セサルヲ論テ然レトモ鑛業權ハ之ヲ物權トシ不動産ニ關ス  
 ル規定ヲ準用シ殊ニ之カ讓渡ヲ認許スルコトハ又同法ノ規定上明カナレハ之ヲ讓渡スヘキ契約ヲ爲シタル者アルトキハ登録ヲ  
 經サル以前ニ於テハ未ダ移轉ノ效力ヲ生セサルモ其契約ハ有效ナリト解スルヲ當然トス又其契約ハ他人ニ屬スル鑛業權ヲ目的  
 トスルトキト雖モ有效ナルコトハ普通ノ財産權ヲ移轉スヘキ契約ニ於ケルト異ナルコトハナシ(大審院民事判決錄四年一五  
 六頁)

(一) 共同鑛業權者タルニハ登録ヲ要スルコトハ右判決ノ如シ然レトモ判決カ共有  
 トスル旨ヲ定メタリトスルモ其契約ハ無効ナリト爲スハ當ラス蓋シ共同鑛業權  
 者トシテ效力ヲ生スルコトト共同鑛業權者タランコトトノ契約トハ異ナレハナリ  
 從テ吾人ハ此ノ如キ契約ヲ有效トシ該契約ニ基キ共同鑛業權者タラシムヘキ手  
 續ヲ要求スルノ權利アリト信ス

(二) 要素ノ錯誤ニ付テハ本書第二卷民法八六頁等參照  
 尙ホ本件ノ如キ場合カ要素ノ錯誤トナラスシテ他人ノ物ノ賣買トシテ有效ナラ  
 サルヤ否ヤニ付テハ本書第二卷民法二七七頁參照

(五〇)

銃砲火藥類取締法二一 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者ハ其代理人、戶主、家  
 族、同居者、雇人其他ノ從業者ニシテ其營業又ハ事業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自  
 己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス  
 同法施行細則三九 第八號 運搬中停留又ハ休泊ヲ爲ストキハ人家ヲ遠隔セル安全ノ位置ヲ選ミ且看守人ヲ附スヘ  
 シ運搬中宿泊セムトスルトキハ其地警察官ニ届出ツヘシ  
 同五〇 第三九條：ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若クハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

火藥ノ運搬ヲ委託セラレタル甲カ更ニ其運搬ヲ乙ニ委託シ乙ノ雇人ニ於テ火藥類取締法違反ノ所爲アルトキト雖モ甲ハ猶同法第二一條ノ責ニ任スヘキヤ(左記判決トハ然リ)

案スルニ原判決ノ確定セル事實ハ被告ハ運送業者ニシテ野原林之助カ西島岩助ヘ賣渡シタル火藥二一三貫六〇〇匁ヲ京都府宇治郡宇治村陸軍火藥庫ヨリ兵庫縣養父郡八鹿町所在ノ買主所有倉庫ヘ運搬スルコトヲ右賣主ヨリ委託セラレテ被告自ラ京都府醍醐警察署ヨリ其運搬ノ許可ヲ受ケ進ンテ其運搬ノ一部ヲ行ヒタル後其餘ノ部分ヲ運送取次者弘運社ニ托シタル處弘運社ノ雇人タル上延貞治外兩名ハ其運搬ノ途中ニ於テ之ニ看守人ヲ附セス且其地ノ警察署ニ届出ヲ爲サスシテ宿泊シタリト云フニ在リテ上延貞治外二名ノ右ノ所爲ハ銃砲火藥類取締法施行細則第三九條第八號ニ違反シタルモノニシテ同細則第五四條ニ該當スルモ銃砲火藥類取締法第二一條ニ依レハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲火藥ニ關スル事業ヲ行フ者ハ其代理人戸主家族同居者雇人其他ノ従業者ニシテ其事業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得サル旨ヲ規定セリ今直接ニ上記三名ニ之カ運搬ヲ命シタル者ハ其雇主タル弘運社ニシテ被告ニハアラストスルモ本件被告ノ如ク自ラ所轄警察署ヨリ火藥運搬ニ對スル許可ヲ受ケ則チ火藥ニ關スル事業ヲ行フ者トナリタル以上ハ其許可ヲ受ケタル者ト其者ヨリ更ニ運搬ヲ委託セラレタル者若クハ之カ雇人等トノ相對的關係如何ニ拘ハラヌ苟モ此許可濟

土地收用審査會ノ決定シタル損失補償額ニ對スル訴ニ於テハ裁判所ハ單ニ其補償額ノ相當ナルヤ否ヤヲ判斷シ得ヘキニ止マリ如何ナル權利者トシテ該請求權ヲ有スルヤヲ審査スヘキ權能ナシトス

按スルニ土地收用審査會ノ決定シタル損失補償額ニ對スル不服ノ訴ハ損失補償額ノ

ノ運搬ノ終了スルマテノ間ニ其運搬ニ從事スル者ニシテ其許可ヲ受ケタル事業者本人ノ代理人戸主家族同居者若クハ雇人ニアラサル者ハ總テ右第二一條ニ所謂従業者ナリトシ從テ其事業者ハ同條ノ適用ヲ受ケル者ト解セサルヘカラス若シ然ラスシテ警察署ヨリ一度許可アリタル運搬ノ中途ニ於テ運搬者ノ都合ニ依リ之カ従業者ノ交替アリタル場合ニ於テハ當初許可ヲ受ケタル者ハ全然取締法令上ノ責任ヲ免脱シ得ルモノナリトセハ少クトモ新運搬者ノ未ダ許可ヲ受ケル手續ヲ爲ササル間ハ運搬途中ニ於ケル之等危険物ヨリ生シ得ヘキ危害ヲ豫防セントスル右取締法令ノ趣旨ヲ貫徹スル能ハサルニ至ル處アレハナリ從テ被告ニ於テ銃砲火藥類取締法第二一條ニ基キ前顯同法施行細則第三八條ニ違反シタルモノトシテ同細則第五四條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス(大審院二年(れ)第一三九八號同年九月三〇日第一判決)

(五一)

土地收用法八二 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書原本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限リニ在ラス  
前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス  
第五九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

確定ヲ以テ其唯一ノ目的ト爲スカ故ニ其出訴者ニシテ補償請求者ナランカ裁判所ハ唯收用審査會ノ決定シタル損失補償額カ相當ナリヤ之ヲ不足ナリトスレハ幾何ノ補償額ヲ以テ相當ナリトスルヤヲ判定スヘキノミ補償請求者カ收用土地ニ關スル如何ナル權利者トシテ損失補償ノ請求權ヲ有スルヤニ至リテハ一ニ收用審査會ノ裁決ニ從フ可ク裁判所自ラ更ニ之ヲ審査スルコトヲ得ス是故ニ補償請求者カ收用土地ニ關スル如何ナル權利者トシテ補償請求權ヲ有スルヤニ付キ當事者間ニ爭アルトキハ裁判所ハ收用審査會ノ裁決ニ基キテ之ヲ確定セサル可ラス若シ否ラズシテ裁判所自ラ補償請求者カ收用土地ニ關シ如何ナル權利ヲ有スルヤヲ審査決定シ以テ損失補償額ヲ定メンカ職權ヲ超越スルモノニシテ固ヨリ不法タルヲ免レス原判決ヲ閱スルニ原院ハ本件收用土地ニ關シ被告上告人ノ有スル權利如何ノ論争ニ對シテ被告上告人ハ本件收用土地ヲ永久無限ニ賃借シ得ヘキ權利ヲ有スルモノト判定シ被告上告人カ其權利ノ一部即大正二年八月三十一日迄ノ賃借シ得ヘキ權利ニ對スル補償ヲ求ムルハ相當ナリト判示シタリ然レトモ被告上告人カ此ノ如キ權利者トシテ補償請求權ヲ有スルコトハ收用審査會ノ裁決ニ基キテ之ヲ確定シタルモノナルヤ明瞭ナラスシテ或ハ原院自ラ之ヲ審査決定シタルニ非サルヤノ疑ナキ能ハス其孰レナルヤハ判決ノ當否ニ影響スルヲ以テ原判決ハ之ヲ判明ニセサル點ニ於テ理由不備ノ不法アルモノトス(大審院大正二年(一)第一四五號同年九月二十五日民一判決)

【參照判例】

一 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者カ土地收用法第八二條ニ從ヒ通常裁判所ニ提起スル訴ハ其裁判ニ依リ損失補償ノ

利關係ヲ成立セシムル爲メニ非スシテ既存ノ權利關係ニ付キ之カ金額ヲ確定セシメントスル旨趣ニ出ツルモノトス(大審院民事判決錄四一七六頁)  
二 土地收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテノミ通常裁判所ニ不服ノ訴ヲ起スモトナ得ルハ土地收用法八二條ノ規定ニ依リ同條ニ依リ提起スル訴ハ收用審査會ノ決定シタル損失補償額ノ不當ナルコトヲ主張シテ其増減ヲ求ムルヲ以テ目的トナシ補償スヘキ損失カ收用ニ因ルモノナルヤヲ移轉ニ因ルモノナルヤノ如キハ既定ノ事項トシテ一ニ收用審査會ノ裁決ニ從ハサル可ラス(大審院民一、法律新聞第七五號二八頁)

土地收用法第八二條ノ文言ニ徴シ至當ノ判決ナリト信ス

(五二)

不動産登記法二六 登記ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス  
同四六ノ二 債權者カ民法第四二三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ債權者及ヒ債務者ノ氏名又ハ名稱、住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載シ且代位原因ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス  
民法三九三 前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ依リテ抵當權ヲ行フ者ハ其抵當權ノ登記ニ其代位ヲ附記スルコトヲ得  
四二三 債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得但債務者ノ一身ニ專屬スル權利ハ此限ニ在ラス  
債權者ハ其債權ノ期限力到來セサル間ハ裁判上ノ代位ニ依ル權利ヲ行フコトヲ得但保存行爲ハ此限リニ在ラス

抵當權代位ノ附記登記ハ登記權利者タル代位者ト代位サルヘキ先順位抵當權者トノ雙方ヨリ申請スルコトヲ要ス

不動産ニ關スル登記ハ登記法第二六條ニ規定シタルカ如ク登記權利者及ヒ登記義務者ノ双方ヨリ申請スルヲ通則トシ其一方ヨリ申請スルコトヲ得ルハ同法ニ於テ特ニ之ヲ規定シタル場合ニ限ル而シテ同法ニハ民法第三九三條ニ依ル抵當權代位ノ附記登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請 得ル旨ノ規定存セサレハ其登記ハ通則ニ從ヒ登記權利者タル代位者ト登記義務者タル代位サルヘキ先順位抵當權者トノ双方ヨリ

申請スルコトヲ要ス登記法第四六條ノ二ハ民法第四二三條ニ依リテ債權者カ債務者ニ代リ登記ヲ爲ス場合ノ申請書ニ掲クヘキ事項及ヒ添附スヘキ書面ニ付キ規定シタルニ止マリテ債權者ノミニテ代位登記ヲ爲シ得ルコトヲ規定シタルモノニ非ラサレハ抗告人カ該條トノ權衡上抵當權代位ノ附記登記モ登記權利者ノミニテ申請スルコトヲ得ト論スルハ當ラス然レハ原裁判所カ登記權利者タル抗告人ノミニテ抵當權代位ノ附記登記ヲ申請シタルヲ不適法ナリトシ登記官吏カ此理由ニ依リテ申請ヲ却下シタルナ相當ナリトシテ登記官吏ノ決定ニ對スル抗告人ノ抗告ヲ棄却シタルハ正當ナリ(大審院大正二年(ワ)第二八一號同年一〇月二日民一判決)

【參照判例】

代位附記ノ登記ハ代位者及ヒ債權者双方ニテ申請スヘシ(三四年七月二日司法省民事局長回答)

五三

明治四二年法律第四〇號一 建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地ノ賃借權ニ因リ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ其ノ土地ノ上ニ登記シタル建物ヲ有スルトキハ地上權又ハ土地ノ賃借ハ其ノ登記ナキモノヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得(下略)

甲地ニ存スル建物トシテ登記シタル場合ニ實際ニ甲乙兩地ニ跨リテ存在スルトキハ乙地建物保護法ノ適用ヲ受ケサルモノトス

登記ハ専ラ登記簿ニ記載シタル事項ニ付テノミ其效ヲ有シ之ニ記載シアラサル事項ニ其效ヲ及ボササルナ原則トスルコトハ登記ノ性質上當然ノ事ニシテ明治四二年法律第四〇號第一條第一項ノ登記モ亦其原則ノ例外例ヲ爲ハモノニ非ザルヤ法文上明

白ナリ而シテ同法條ニハ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ其土地ノ上ニ登記シタル建物ヲ有スルトキハ云ト規定シタルカ故ニ甲ノ土地ニ存スル建物トシテ登記シタル場合ニ於テハ假令實際ニ於テハ其建物カ甲ト乙トノ兩土地ニ跨リテ存スルトキト雖モ其登記ハ單ニ甲ノ土地ニ存スル建物トシテ其效ヲ有スルニ止マリ甲乙兩地ニ存スル建物ニ付テ登記アルモノト看做スコトヲ得ス從テ甲ノ土地ノ外ニ尙ホ乙ノ土地ニモ存スル建物ノ登記アルモノトシテ同法保護ヲ受ケルコトヲ得サルモノトス(大審院大正二年(オ)第二七三號同年九月二三日民一判決)

五四

警察犯處罰令ニ 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス  
七 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者  
八 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者  
違警罪即決例三 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

- (一) 警察犯處罰令第二條第八號ニ所謂申込ナキ新聞紙雜誌其他ノ出版物トハ新聞紙雜誌及其以外ノ出版物ハ總テ之ヲ包含スルモノトス
- (二) 警察犯處罰令第二條第八號ニ所謂代金ヲ請求ストハ其強請ヲ必要トスルモノニアラス
- (三) 正式裁判ノ申立ハ即決ノ言渡ニ對シテ爲スモノナレハ苟クモ即決言渡書ト認ムヘキモノアレハ足り告發書又ハ形式上完全ナル即決言渡書ノ存在ヲ要スル



モノニアラス

(一) 上告趣意書第一點原審認定事實ニ依レハ被告ハ長サ約一尺九寸幅約一尺五寸ノ  
白紙ニ東郷及ヒ源通久ノ書ヲ石版摺ニセル印刷物及石版摺發賣廣告書ト題スル書面  
ヲ配付シ其後約十日ヲ經テ返還シ來ラサルモノニ對シ集金郵便ニ委託シ代金ノ請求  
ヲ爲シタルモノナリ而シテ此ノ事實ニ對シ警察犯處罰令第二條第八號ヲ適用セラル  
仍テ該號ヲ見ルニ「申込ナキ新聞紙雜誌其他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲  
シ其代料ヲ請求シタル者」トアリ單純ナル文理解釋ニ依レハ申込ナキ出版物ノ配付ト  
其代料ノ請求トノ事實アレハ悉ク本號ノ適用アルカ知シ然レトモ斯ク解スルニ於テ  
ハ現時商人間ノ内外取引ハ比比皆此規定ニ觸ルルコトナル可シ法意豈ニ茲ニ存セ  
ンヤ今前號ヲ見ルニ「新聞紙雜誌其他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付キ強テ其申込  
ヲ求メタル者」トアリ第七號ト第八號トハ同一出版物ニ關シ一ハ申込ヲ強ユル場合ニ  
シテ一ハ申込ナキニ之ヲ配付スル場合ノ差アルノミ然ラハ其出版物ノ範圍如何第七  
號ニハ新聞紙雜誌其他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告トアリ新聞紙雜誌ヲ例示スル點ヨリ  
及購讀又ハ廣告ト云フ文字ヨリ見ルモ其他ノ出版物トハ學報會報等ノ如キ卷ヲ追フ  
テ出版サレ連續シテ配付セラルヘキ性質ノモノヲ指スカ如シ蓋シ是種類ノモノハ其  
販路擴張ノ爲メ從來劇甚ナル競争ノ絶エス行ハレ世人其繁ニ堪エサルト日常廣告的  
ニ無償ニ配付セラルルヲ以テ申込ナキニ之ヲ配付セラルル時ハ之ヲ贈與ト誤解スル  
虞アルト續卷ヲ追フテ出版サルヲ以テ不知ノ間ニ其類ノ嵩マルモノナルヲ以テ申  
込ナキニ之ヲ配付シ後日其代金ノ請求ニ遭フニ至ツテハ購讀者ニ意外ナル苦痛ヲ蒙

ラシムル虞アルヲ以テ之ヲ禁止シタルモノナリ然ルニ本件ノ配付物ハ判示ノ如ク販  
面用ノ印刷物ニシテ一見廣告物ニアラサルコトヲ知ルニ足リ又卷ヲ追ヒ發刊スルモ  
ノニモアラス且ツ石版摺發賣廣告書ノ末尾ニハ返送用ノ切手ヲ添付スルニヨリ之ヲ  
以テ返還セサルニ於テハ直チニ集金郵便ニ付スル旨ヲ告ケ之レヲ拒絶スルモ苦シカ  
ラサル意ヲ明記セリ果シテ然ラハ被告ノ行爲ハ世人ニ對シ強制的若クハ錯誤ニ陷ル  
ルカ如キモノニアラサレハ全然無罪行爲ナリト謂ハサル可ラス然ルニ原判決力該號  
ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ違法アリト信スト云フニ在レトモ「警察犯處罰令第二條第  
八號ニハ申込ナキ新聞紙雜誌其他ノ出版物云トアリテ出版物ノ範圍ニ付キ何等制  
限スル所ナキヲ以テ所論ノ如ク解スルニ由ナク新聞紙雜誌及其以外ノ出版物ハ總テ  
之ニ包含セラレル法意ナリト解セサルヲ得ス本件ニ於テ配付シタルモノノ出版物タ  
ルコトハ論ヲ俟タサルヲ以テ之ヲ申込ナキニ配付シ其代料ヲ請求スルニ於テハ同條  
ノ制裁ヲ免ルル能ハサルモノトス論旨ハ理由ナシ

(二) 警察犯處罰令第二條第八號ニハ出版物ヲ申込ナキニ之ヲ配付シ其代金ヲ請求ス  
ト云フノ外向之ヲ強請スルコトヲ必要トスル文詞ナキヲ以テ強請ヲ必要ト爲ササル  
法意ナリト謂ハサルヘカラス從テ被告ノ申込ナキニ出版物ヲ配付シ其代料ヲ請求シ  
タル所爲ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ相當ナリ

(三) 正式裁判ノ申立ハ即決ノ言渡ニ對シテ之ヲ爲スモノナレハ告發書ノ存在ヲ必要  
ト爲サス必スシモ形式上完全ナル即決言渡書ノ存在ヲ要セス苟クモ即決言渡書ト認  
ムヘキモノアレハ足レリトス從テ之ニ對シ正式裁判ノ申立ヲ爲シタル時ハ事件ハ直

ナニ裁判所ニ繫屬スルヲ以テ即決言渡書及告發書ノ適法ナルト否トハ正式裁判ノ申立ニ影響ナシ故ニ之ヲ非難スル本論旨ハ理由ナシ(大審院大正二年(レ)第一六一六號同年一〇月二五日刑三判決)

【參照學說判例】

本書第二卷刑事訴訟法一頁第一卷刑事訴訟法二八頁

(五五)

- 一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢物品手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與者ハ申込テ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並供與テ受ケ若ハ申込テ承諾シタル者
  - 二 選舉ニ關シ酒食遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ應接待シ又ハ應接待テ受ケタル者又ハ選舉會場開票所若ハ投票所ニ往復スル爲船車馬ノ類ヲ供給シ及其供給テ受ケタル者又ハ旅費若クハ宿泊料ノ類ヲ代辦シ及其代辦テ受ケタル者並此等ノ約束ヲ受ケタル者
  - 三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其關係アル社寺學林會社組合市町村等ニ對スル用水小件債權寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ誘導シタル者及其誘導ニ應ジタル者
- 前項ノ場合ニ於テ其收受シタル物件ハ之ヲ沒收シ既ニ費消シタルモノハ其ノ價ヲ追徴

衆議院議員選舉法第八七條第二項ハ供與收受ノ目的ト爲レル金錢ヲ收受者ヨリ沒收スヘキコトヲ定メタルモノナルカ故ニ供與者ニ對シテ沒收ヲ言渡スヘキモノニ非ス

供與收受

衆議院議員選舉法第八七條第二項ハ沒取ナル刑罰ニ關スル特別規定ニシテ金錢供與

爲目的  
ノ没收  
トシテ  
金錢  
ヲ没  
收ス  
ル者

者周旋勸誘者及ヒ其供與收受者ハ其性質共犯關係ヲ有スレトモ其供與收受ノ目的ト爲レル金錢ハ收受者ヨリ之ヲ沒收スヘキコトヲ定メタルモノトシテ本件ニ於ケル押收ノ金五〇錢ハ第一審相被告嘉吉ノ收受シタルモノトシテ第一審ニ於テ之カ沒收ヲ言渡シ其判決ノ部分ハ被告久五郎等ノ上訴ニ拘ハラズ既ニ確定セルヲ以テ原審ニ於テハ最早之カ處分ヲ言渡スヘキモノニアラス然ルニ原審カ供與者タル被告久五郎ニ對スル附加刑トシテ更ニ之カ沒取ヲ言渡セルハ適用スヘカラサル法律ヲ不當ニ適用シタルモノナリ(大審院大正二年(レ)第一六四號同年一〇月二八日刑一判決)

(五六)

織物消費税法三 左ニ掲クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ免除ス(中略)

二 製造者カ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲メ自ラ製造シタル織物

同四 消費稅ハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキ引取人ノ納付スヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ製造者ニ於テ織物ニ其ノ價格ヲ表記シ消費稅ニ相當スル印紙ヲ貼用シテ消費稅ノ納付ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ製造者ヲ以テ引取人ト看做ス(後略)

同一〇 第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトコトヲ得ス

(一) 織物ニ課スル消費稅ノ納稅義務者タル引取人ハ織物ノ販賣者タルト染物業者又ハ普通一般ノ顧客タルトヲ問ハス總テ包含スルモノトス(人ニ課スル納稅者ハ織物製造者ハ現行法上任意の消費稅代納者タルコトヲ得ルモ義務的納稅者タル資格アルモノニアラス)

織物納税ノ義務者ニ  
憲義

織物製造者ノ納税  
消費者ノ納税

免稅ノ目的タル織物ハ製造者自ラ製造シタルモノノミニ限ルモノトス(故ニ假令自家用ノモノナリトモ他人ナシテ貨物ナリ)  
 引取人カ納稅ヲ爲シタルトキハ製造者ハ直チニ其モノヲ引取人ニ引渡シ得ヘク製造者ニ於テニ重ニ納稅ヲナスノ要ナキモノトス  
 非販賣者ヨリノ委託ニ因リテ織物ヲ製造シタル貨物業者モ亦織物消費税法ニ所謂製造者タルモノトス

(一) 織物消費税法第四條ヲ案スルニ消費稅ハ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキ引取人之レナ納付スヘシトアルヲ以テ織物ニ課スル納稅義務者ハ織物ノ製造者ニアラスシテ其引取人ナルコトヲ確知スルヲ得ヘク且法律ハ單ニ引取人之ヲ納付スヘシト規定シ引取人ノ資格ニ付キ何等ノ制限ヲ置カサルヲ以テ其引取人ハ織物ノ販賣者タルト染物業其他織物ニ關スル業ヲ營ムモノナルト自用ノ爲メニ織物ヲ引取ル普通一般ノ顧客ナルトニ論ナク苟モ如上ノ場所ヨリ織物ヲ引取ル者ハ其引取ニ際シ消費税法ニ定ムル租稅ヲ納付スルノ義務アルモノト斷定セサル可カラズ尤モ消費税法第四條但書ニ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ製造者ニ於テ織物ニ其價格ヲ表記シ消費稅ニ相當スル印紙ヲ貼用シテ消費稅ノ納付ニ代フルコトヲ得トアルヲ以テ織物消費稅ハ引取人之ヲ納付セシメシテ製造者ニ於テ其納付ニ代ヘ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得ルハ明カナリト雖モ此規定タル織物製造者ニ納稅ノ義務ヲ負擔セシメタルモノニアラスシテ之ニ相當スル印紙ヲ貼用シテ納稅ニ代フルト否トテ製造者ノ便宜

義務者ニ  
アラス

免稅ノ目的  
織物ノ納稅

引取人ノ納稅  
製造者ノ納稅  
103(諸法)

ニ委ネ毫モ之ヲ強要スルモノニアラサルヲ以テ織物製造者ハ現行法ノ下ニ於テハ任意の消費稅代納者タルコトヲ得ルモ義務的納稅者タルノ資格ナク而カモ第四條末段ニ「此場合ニ於テハ製造者ヲ以テ引取人ト看做ス」ト規定スルヨリ推論スルトキハ引取人ヲ以テ納稅者トスル現行法ノ精神ハ益益明瞭ナリ左スレハ貨物業者カ他人ノ依頼ヲ受ケテ織物ヲ製造シ之ヲ依頼人ニ引渡シ場合ニ貨物業者カ任意ニ相當印紙ヲ貼用シ消費稅ノ納付ニ代フルハ格別織物ノ製造者トシテ消費稅ヲ納付スルノ義務ナク此義務ハ依頼人カ織物ノ引取人トシテ之ヲ負擔スル所ナルヲ以テ其引取ニ際シ依頼人之ヲ納付スルノ義務アルノミナラス引取人ノ資格ニ付テハ消費税法中何等ノ制限ナキコト前示ノ如クナルヲ以テ此ノ責任ヲ辭スルニ由ナシ蓋シ製造者カ自己又ハ其家族ノ用ニ供スル爲メ製造シタル織物ニ付テハ消費稅ヲ免除セララルコトハ消費税法第三條ニ規定スル所ナレハ此規定ヨリ推シテ自家用ノ織物ニ付テハ販賣者ニアラサル引取人ニ納稅ノ義務ナシト斷スルヲ得ヘキニ似タリト雖モ第三條第二號ニ「自ラ製造シタル織物」トアリテ免稅ノ目的タル織物ハ製造者自ラ製造シタルモノノミニ限定セララルコトハ同第三條第二號ニ明カナルヲ以テ假令自家用ノモノナリトモ他人ナシテ貨物ヲ爲サシメタル織物ハ製造者自身ニ製造シタル織物ニアラサルヲ以テ該條ニ該當セズ從ツテ貨物依頼人ハ製造場ヨリ織物ヲ引取ルニ當リ常ニ必ラス消費稅ヲ納付スルノ義務アリ而シテ引取人ハ納稅ノ義務アルヲ以テ引取人カ納稅ヲ爲シタルトキハ製造者ハ直チニ其モノヲ引取人ニ引渡シ得ヘク製造者ニ於テニ重ニ納稅ヲナスノ必要ナシ又製造者代リテ納稅ヲ爲シタルトキハ引取人ニ於テ納稅ヲ爲スコ

トテ要セスシテ織物ノ授受ヲ爲スコトヲ得ヘク上告人主張ノ如キニ重課税ノ結果ヲ生スルコトナシ只製造ニ係ル織物ハ引取人納税ヲ爲スカ若クハ製造者租税ノ代納ヲ爲スニアラサレハ引取人ニ於テ之ヲ引取ルコトヲ得ス製造者モ亦引渡スコトヲ得サルノミ果シテ然ラハ被告カ貨織業者高瀬タツ外一名ヨリ消費稅納付前ニ織物ヲ引取リタル所爲ハ同第一〇條ノ犯罪ヲ構成スルヤ明ナリ故ニ原判決ハ相當ニシテ論旨ノ理由ナシ但本院明治四三年(レ)第一六五〇號判決ノ趣旨ハ之ト相反スルヲ以テ茲ニ之ヲ更正スルモノトス

(二) 本件ノ織物ハ萩原トミ外一名ノ貨織業者ノ製造ニ係リ假令其織物ハ非販賣者ヨリノ委託ニ因リテ之ヲ製造シタルモノナリトスルモ右兩名ハ織物消費稅法ニ所謂製造者タルヲ妨ケサルモノトス而シテ被告ハ右兩名ヨリ之ヲ引取リタルコトハ原判決ニ明示スル處ニシテ該織物ハ萩原トミ外一名ノ製造場ヨリ引取リタルコト判文上自ラ明白ナルヲ以テ原判決ハ所論ノ如キ不法ナシ(大審院大正二年(レ)第九九九號同年一月五日刑一、二、三、聯合部判決)

【參照判例】

非常特別稅法第七條及ヒ織物消費稅法第四條ニ所謂引取人トハ織物販賣者ヲ指稱シ販賣者ニ非サル者ヲ包含セス(大審院刑事判決錄四三年一六一三頁)

(五七)

漁業法三五 汽船「トロール」漁業又ハ汽船捕鯨業ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス  
前項ノ漁業ニ關スル制限又ハ禁止ハ主務大臣之ヲ定ム

漁業法第五九條ハ捕鯨業ニ關シ爆發物ヲ使用シタル場合ニ適用スヘキ處分法ヲ設ケタルモノニアラス

上告趣意書原審ハ上告人ノ犯罪行爲ハ明治四三年一月頃ト認メ其行爲ハ舊漁業法施行規則第五一條本文第六五條新漁業法第三六條第五九條ニ該當シ輕キ舊法ヲ適用スヘキモノトシ控訴棄却セラレタリ然レトモ新漁業法第三六條ハ爆發物ヲ使用シテ水産動物ヲ採捕スルヲ得サル旨ヲ規定シアルモ同第五九條ハ前略「汽船捕鯨業ニ關シ同條第一項ノ規定同條第二項ノ制限若ハ禁止又ハ第三六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二〇〇圓以下ノ罰金ニ處シ」トアリテ全ク捕鯨業ニ關シテ爆發物ヲ使用シタル場合ニ適用スヘキ處分法ヲ設ケタルモノナリ而シテ亦同法ハ他ニ本條ノ如キ場合ニ適用スヘキ明文ナキヲ以テ結局無罪ノ判決ヲ爲スヘキ筋合ナルニ前述漁業法第三六條第五九條ヲ本件ニ適用シタルハ不當ニ法律ヲ適用シタル違法アルモノトスト云フニ在レトモ「漁業法第五九條中段ハ汽船捕鯨業ニ關シ同法第三五條第一項ノ規定同條第二項ノ制限若クハ禁止ニ違反シタル者ノ外同法第三六條ノ規定ニ違反シタル者ヲ二〇〇圓以下ノ罰金ニ處スト」ト主旨ニ外ナラサレハ同條ノ規定ヲ以テ所論ノ如ク捕鯨業ニ關シ爆發物ヲ使用シタル場合ニ適用スヘキ處分法ヲ設ケタルモノト解スルハ

同三六 爆發物ヲ使用シテ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ海獸捕獲ノ爲ニスル場合ハ此限ニ非ラス

同五九 汽船「トロール」漁業ニ關シ三五條一項ノ規定同條二項ノ制限若クハ禁止ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金

金汽船捕鯨業ニ關シ同條一項ノ規定同條二項ノ制限若クハ禁止又ハ三六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金

ニ處シ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ沒收ス

其解釋ヲ誤リタルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ捕鯨ニ關シ爆發物ノ使用ヲ禁  
セサルコトハ漁業法第三六條但書ニ海獸捕獲ノ爲メニスル場合ハ此限ニ在ラスト  
ルニ依リ明瞭ナレハ同法第五九條中段ノ規定ヲ以テ汽船捕鯨業ニ關シ爆發物ヲ使用  
シタル者ヲ二〇〇〇圓以下ノ罰金ニ處スト解スルヲ得サルハ勿論右ノ如ク同條中段  
ノ規定ヲ解シタランニハ汽船捕鯨以外ノ水産動物ノ捕獲ニ關シ第三六條ノ規定ニ  
違反スル者アルモ之ヲ處罰スルニ由ナク同條中段ノ規定ヲ設ケタル立法ノ精神ヲ沒  
却スルニ至ルヘキヲ以テナリ故ニ原裁判所カ本件ニ付キ漁業法第三六條第五九條ヲ  
適用シタルハ正當ニシテ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス(大審院大正二年(レ)第一七六  
五號同年一〇月三〇日刑二判決)

五八

衆議院議員選舉法八七

選舉ノ前後中間ハ左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一年以上以下ノ輕禁錮ニ處シ又  
ハ折獄以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

二 選舉ニ關シ酒食、遊覽等其方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ獎勵接待シ又ハ獎勵接待ヲ受ケタル者又ハ選舉會  
場、開票所若ハ投票所ニ往復スル爲メ船馬車ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ沐浴料ノ類ヲ代  
辨シ及其代辨ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者

選舉運動ノ慰勞ト自己ノ當選ノ祝賀ヲ兼テ酒宴ヲ設ケ酒食ノ獎勵ヲ爲シ又其獎  
應ヲ受クルコトハ所謂選舉ノ終了後ニ於テ其選舉ニ關シ酒食ヲ以テ人ヲ獎勵シ  
又其獎勵ヲ受クル者ニ該當スルモノトス

衆議院議員選舉法第八七條第一項ニハ選舉ノ前後中間ハ左ノ各號ニ該當スル所爲

選舉運動ノ慰勞ト酒宴ヲ設ケ酒食ノ獎勵ヲ爲シ又其獎勵ヲ受クル者ニ該當スルモノトス

アル者ハ(中略)輕禁錮ニ處シ又ハ(中略)罰金ニ處スルコトヲ揚ケ其第二號ニ選舉ニ關シ  
酒食遊覽等其方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ獎勵接待シ又ハ獎勵接待ヲ受ケタル  
者(下略)トアルヲ以テ議員候補者カ選舉終了ノ後其選舉ニ關シ酒食ヲ以テ選舉運動者  
ヲ獎勵シ又選舉運動者カ其獎勵ヲ受ケ飲食スル行爲カ皆同法條ノ犯罪ヲ構成スルコ  
トハ法ノ明文ニ照シテ疑モ疑ナ容レズ原判決示ノ如ク選舉運動ノ慰勞ト自己ノ當選  
ノ祝賀ヲ兼テ酒宴ヲ設ケ酒食ノ獎勵ヲ爲シ又其獎勵ヲ受ケタルコトハ選舉ノ終了後ニ  
於テ其選舉ニ關シ酒食ヲ以テ人ヲ獎勵シ又其獎勵ヲ受ケタル者ニ外ナラス故ニ原審カ  
之ヲ前掲處罰法規ニ問擬シタルハ正當ナリ(大審院大正二年(レ)第一八九〇號同年一  
月一〇日刑二判決)

【參照判例】

衆議院議員選舉法第八七條第一項第二號ニハ選舉ニ關シ酒食遊覽等其方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ獎勵接待シ又ハ獎勵  
接待ヲ受ケタル者トノミアリテ人ニ付キ別ニ何等ノ制限ナシ從テ何人ト雖モ選舉ニ關シ右等ノ所爲アリタルトキハ同條項ニ該  
當スヘキモノニシテ單ニ選舉人ノミニ限ルニ非ス(大審院刑事判決錄三五年三三頁)

五九

商標法二

左ニ掲ケル商標ニ付テハ之ヲ登録セス  
二 國旗、軍旗、勳章、褒章、記章若ハ外國ノ國旗ト同一又ハ類似ノモノ

如何ナル商標ヲ以テ國旗軍旗等ト類似スルモノナルカハ普通ノ觀念ニ基キ之ヲ  
決スヘキモノトス

或商標カ第二條所定ノ國旗軍旗等ニ類似セサルモノトノ審決ヲ爲シタルトキ其  
類似セルコトヲ理由トシテ不服ヲ主張スルハ事實審判官ノ專權ニ屬スル事實ノ  
認定ヲ批難スルモノナルヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス

商標法第二條第二號ニ於テ國旗軍旗等ト類似スル商標ハ之ヲ登録スヘカラサルコト  
ヲ規定スト雖モ如何ナル商標ヲ以テ國旗軍旗等ト類似スルモノト爲スヘキヤニ關シ  
テハ商標法中何等規定スル所ナキヲ以テ普通ノ觀念ニ基キ之ヲ解決スヘク即チ商標  
タル文字、圖形、記號又ハ其結合ノ形體カ世人普通ノ觀察ニ於テ同條所定ノ國旗軍旗等  
ト混同誤認ヲ生スヘキトキハ同條ニ所謂類似ト稱スヘキモノナルコト疑テ容レテ而  
シテ如何ナル場合ニ世人普通ノ觀察ニ依リ混同誤認ヲ生スヘキヤハ之ヲ律スヘキ法  
則ノ存スルコトナキヲ以テ或商標ト同條所定ノ物件トテ簡別的ニ比較シテ初メテ解  
決スルコトヲ得ヘキ事實上ノ判斷ニ屬スルモノト云フヘシ然ラハ或商標カ商標法第  
二條第二號ニ所謂類似ナルヤ否ヤヲ決スルハ事實審判官ノ專權ニ屬スル判斷事項ニ  
外ナラサルヲ以テ事實審判官ニ於テ或商標カ同條所定ノ國旗軍旗等ニ類似セサルモ  
トノ審判ヲ爲シタル以上ハ其類似セルコトヲ理由トシテ不服ヲ主張スルハ事實審  
判官ノ專權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ歸スルヲ以テ其理由ニ基キ上告ヲ爲ス  
トトヲ得サルモノトス本件ニ於テ第一一九七五號登錄商標ハ圓ノ周邊ヨリ線ヲ射出  
シテ旭日ニ象リタル圖形ヲ描キ旭日ノ下端ヲ波紋ニ蔽ヒ以テ海面ヨリ出現スル旭日  
ニ象リ且日章ノ面上ニ長ノ字ヲ崩シタルモノヲ記シタルモノニシテ各種ノ軍旗ト混

【參照判例】

同誤認ヲ生スルノ虞ナキコトハ原審決ノ確定シタル事實ナレハ上告各論旨ハ執レモ  
原審ノ專權ニ屬スル事實ノ認定ヲ論難スルモノニシテ其理由ナシ(大審院大正二年(オ)  
第二二一號同年一〇月二八日民一判決)

【參照判例】

一ノ商標カ他ノ商標ニ類似セルヤ否ヤヲ判定スルハ其全體ニ就キ之ヲ爲スヘキモノニシテ主要部分ト附加部分トヲ區分シテ觀  
察スヘキモノニ非ス(大審院刑事判決錄四年七七二頁)

(六〇)

印紙税法五

左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス  
(中略)  
一金五圓未滿者ハ金高記載ナキ又ハ運送契約ニ依ラサル送狀

所謂送り又ハ出荷案内ハ一種ノ送狀ナルコト疑ナキモ運送人ノ請求ニ依リ之ニ  
交付セラレタルモノニ非ルヲ以テ印紙税法第五條ニ所謂運送契約ニ依ラサル送  
狀ニ該當スルモノトス

所論證第一號乃至第一〇號ヲ査スルニ大正元年一月ヨリ同二年四月迄ノ間ニ在ッ  
テ被告ヨリ池田祐一郎ニ宛テ發送シタル文書ニシテ送り又ハ出荷案内ト題シ被告ヨ  
リ祐一郎ニ賣渡スヘキ貨物ノ品目數量代金額並ニ此品ヲ送付スルニ依リ査收セラレ  
度キ旨ヲ記載セリ荷受人ハ之ニヨリ自己ニ送付セラレタル貨物ノ品目數量及其代價  
ヲ知り得ルヲ以テ一種ノ送狀ナルコト疑ナキモ運送人ノ請求ニ依リ之ニ交付セラレ

タルモノニ非ルカ故ニ運送契約ニ依ラサルモノト謂ハサル可カラズ即チ印紙稅法第五號ニ所謂運送契約ニ依ラサル送狀ナルモノニ該當スルコト明カナルヲ以テ之ニ對シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セサルモノトス從テ原判決カ右書面ハ同法ニ依リ印紙ノ貼用ヲ要スルモノニ非スト說明シ無罪ノ旨被テ爲シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ(大審院大正二年(レ)第一七五二號同年一月一五日刑三判決)

(六一)

競賣法ニ依ル競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者、抵當權者其他民法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲サントスル者ノ申立ニ因リ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ爲ス  
民事訴訟法第六四一條第一項ノ規定ハ競賣ヲ爲スヘキ裁判所ノ管轄ニ之ヲ準用ス  
民事訴訟法五四四條 強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五二條第二項ニ定メタル命令ヲ發スル權ヲ有ス  
執達吏カ執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行爲ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セシ手續料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス  
同五八八 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經シテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競賣法ニ依ル競賣ニ關シテハ競賣法中特ニ反對ノ規定ナキトモ其性質ノ許ス限リ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スヘキモノトス

競賣法ニ依ル優先配當請求ヲ却下セラレタル場合ニ於ケル不服申立ハ先ツ其決定ヲ與ヘタル競賣裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲シ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スヘキモノニシテ初メヨリ請求却下ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

競賣法ニ依ル競賣ニ關シテハ競賣法中特ニ反對ノ規定ナキニ於テハ其性質ノ許ス限

競賣法ニ

依ル優先配當請求ヲ却下セラル場合ニ於ケル不服申立ノ方

民事訴訟法ノ規定ヲ準用スヘキモノナルコトハ本院判例(大正二年(ク)第一〇二號同年六月一三日決定)ノ示ス所ナリ而シテ本件ハ抗告人カ競賣法ニ依リ競賣ノ目的タル不動産ニ付キ先取特權アリトシ之ニ基キ競賣代金中ヨリ優先配當ヲ請求シタル處大區區裁判所ハ其請求ヲ却下シタルヲ以テ抗告人ハ之ニ服セスシテ抗告ヲ爲シ其抗告ヲ不適法トシテ棄却シタル原決定ニ對シ更ニ抗告ヲ爲シタルモノナリ然レトモ抗告人主張ノ如キ優先配當請求ヲ却下セラレタル場合ニ關スル不服申立ノ方法ニ付テハ競賣法中別段ノ規定存セサルヲ以テ民事訴訟法ノ規定ヲ準用シテ之ヲ補フヘキモノトス而シテ斯ノ如キ請求ノ許否ニ對スル不服ハ民事訴訟法第五四條第一項ニ所謂強制執行ノ方法ニ關スル異議ニ最モ近似スルヲ以テ斯ノ如キ請求ヲ却下シタル決定ニ服セサルトキハ同法條ノ規定ニ從ヒ先ツ其決定ヲ與ヘタル競賣裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲ス可ク其申立ニ關スル裁判ニ對シテハ同法第五八條ノ規定ニ從ヒ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモ右請求却下ノ決定ニ對シ直チニ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス故ニ同趣旨ニ基キ抗告ヲ不適法トシテ棄却シタル原決定ハ正當ニシテ本件抗告ハ理由ナシ(大審院大正二年(ク)第三四三號同年一月二八日民一決定)

尙本書第二卷諸法五三頁三七頁七六頁民事訴訟法一五〇頁ニ就テ參照セラレタシ

(六二)

關稅定率法一 外國ヨリ輸入スル物品ニハ別表ニ依リ關稅ヲ課ス

(別表)

輸入稅法

一三四 麝香 每斤 一〇一、〇〇

白毛麝香ハ麝香ノ一種ニシテ藥品タルノ可能性ヲ有スルモノナルヲ以テ外國ヨリ輸入スルハ關稅ニ依リ關稅ヲ課セラルヘキモノトス

白毛麝香ハ麝香ノ一種ニシテ藥品タルノ可能性ヲ有スルモノナルヲ以テ外國ヨリ輸入スル該品ニハ關稅定率法ニ依リ關稅ヲ課セラルヘキモノトス  
原院ハ本件ノ白毛麝香ハ藥品タルノ性能ヲ有スルモノト判定シ所論法條ヲ適用シタルコト判文上自ラ明ニシテ大阪關稅關ニ於ケル慣行ノ取扱ニ基キ該品ヲ課稅ノ目的物ト爲シタルニアラサレハ論旨ハ何レモ理由ナシ(大審院大正二年(レ)第一七〇三號同年一月五日刑三判決)

(六三)

牛乳營業取締規則ニ〇 牛乳營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニ在ラス  
牛乳營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス  
法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス  
法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

牛乳共同營業者カ共同シテ牛乳營業取締規則違背ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各自ニ其刑ヲ科スヘキモノトス

上告趣意本件記録ニ依レハ牛乳搾取營業名義ハ上告人ナレトモ内容ニ於テハ然ラス却テ中略中村竹次郎ナリトス中略然ルニ第一審ニ於テハ共同營業ト看做シテ竹次郎ヲ罰金一〇圓ニ上告人ヲ罰金五圓ニ處シタリ中略元來牛乳營業取締規則第二〇條ニハ「中略」アリ故ニ表面ノ名義人ヲ罰スルノ趣旨ニアラスシテ寧ろ事實上ニ於テ牛乳ノ營業ヲ爲ス一人ノミヲ罰スルノ精神ナリト解釋スルヲ相當ナリトス然ラハ則チ既ニ一人ノ中村竹次郎ヲ罰シ其裁判確定シタル上ハ又更ニ上告人ヲ罰スヘキモノニアラサルヤ論ヲ俟タス中略ト云フニ在レトモ被告カ單ニ名義人タルニ止マリ實際ノ營業者ハ中村竹次郎ナルヲ將タ原判示ノ如ク其營業カ右兩名ノ共同事業タルヤハ全ク事實上ノ判斷ニ屬シ事實審タル原審カ職權ヲ以テ斷定ス可キ事項ニ屬スルヲ以テ提ヘテ上告論旨ト爲スコトヲ得サルモノトス而シテ既ニ原審ノ如ク被告カ右竹次郎ト共同シテ本案ノ違法行爲ニ及ヒタル事ヲ認メタル以上各自ニ其刑ヲ科スヘキハ當然ナルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ(大審院大正二年(レ)第一八三八號同年一月六日刑二判決)

(六四)

出版法一 凡ソ機械含著其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書著述シ又ハ編纂シ若ハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ  
同三 文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日間ニ製本二部ヲ添へ内務省ニ届出ヘシ  
同七 文書圖畫ノ發行者ハ其氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ  
同九 書籍、通信報告、社則、學則、引札、諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫眞ハ第三條第六條第七條第八條ニ



銅版寫眞  
出版法

據ルヲ要セス但シ第一六條第一八條第一九條第二一條第二六條第二七條ニ關ルル者ハ此法律ニ依テ處分ス  
銅版寫眞帖ナルモノハ出版法ニ所謂寫眞夫自體ニ非スシテ寫眞ヲ材料トシ銅版  
ニ依リテ印刷製出シタル一種ノ圖畫ナレハ其出版ハ出版法第一條ニ該當スルヲ  
以テ同法第三條第七條ニ依ルヘキモノトス

出版法第九條ニ所謂寫眞ニ付テハ同法第三條第七條ニ據ルコトヲ要セサルハ法文ノ  
明示スル所ニシテ其一時的ノモノナルト否トナ問フノ要ナキハ洵ニ所論ノ如クニシ  
テ此點ニ關スル原裁判所ノ見解ハ其當ヲ得スト雖モ原裁判所カ被告ノ出版シタルモ  
ノト認定シタル社會ノ時事ヲ攝影シタル銅版寫眞帖ナルモノハ右出版法ニ所謂寫眞  
其自體ニ非スシテ寫眞ヲ材料トシ銅版ニ依リテ印刷製出シタル一種ノ圖畫ナルコト  
明白ナレハ其出版ハ出版法第一條ニ該當シ同第三條第七條等ニ據ルコトヲ要スルモ  
ノト爲ササルヲ得ス然レハ原裁判所ノ認定事實ニ對スル法律ノ適用ハ結局相當ナリ  
(大審院大正二年(レ)第一五三七號同年一月二十五日刑一判決)

六五

違警罪即決例五 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出ス可シ(但書略)

正式裁判請求書ハ其内容記載力適式ニ作成セラレアル以上ハ宛名ノ記載ヲ誤リ  
タレハトテ公訴不受理ノ裁判ヲ爲スヘキモノニ非ス

宛名ノ記  
載力適式

記載ヲ差ヌルニ被告ハ大正二年六月二〇日八代警察署ニ於テ言渡サレタル即決言渡

タル正式  
裁判請求  
力求

ニ對シ同月二十六日正式裁判ノ請求書ヲ右警察署ニ提出スルニ該リ宛名ヲ八代區裁  
判所ト記ス可キヲ誤リテ八代警察署長宛ト爲シタルモノニシテ右請求書ノ内容記載  
ハ適式ニ作成セラレアルヲ以テ原審ニ於テハ須ラク被告ノ控訴ヲ受理シ一審判決ノ  
當否ヲ判斷スヘキ管ナレニ不拘單ニ宛名ヲ誤リタル一事ヲ提ヘ判示ノ如ク公訴不受  
理ノ裁判ヲ爲シタルハ不當ニシテ本論旨理由アリ(大審院大正二年(レ)第一九〇九號同  
年一月一七日刑二判決)

六六

戶籍法二〇三 身分登記又ハ戶籍ニ關スル事件ニ付キ戶籍吏ノ處分ヲ不當トスル者ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル  
區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得  
同二〇八 裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り民事訴訟法ノ規定ニ從  
ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

身分登記又ハ戶籍ニ關スル事件ニ付キ戶籍吏ノ處分ヲ不當トスル抗告ハ區裁判  
所ニ又區裁判所ノ決定ニ對シテハ地方裁判所ニ抗告スルコトヲ得ルモ其決定ニ  
對シテハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

身分登記又ハ戶籍ニ關スル事件ニ付キ戶籍吏ノ處分ヲ不當トスル抗告ニ付區裁判所ノ  
爲シタル決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り地  
方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルハ戶籍法第二〇八條ノ法文上明カナルモ地方裁判  
所カ其抗告ニ付キ爲シタル裁判ニ對シ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ規定ナキカ故ニ  
地方裁判所ノ裁判ニ對スル抗告ハ理由ノ如何ニ拘ハラス法律ノ許ササル所ナリトス

地方裁判  
所ノ對シテ  
抗告ニ付キ  
爲シタル  
115(諸法)テ判

抗告人ハ戸籍吏ノ處分ナ不當トシ谷村區裁判所ニ抗告ヲ爲シ同裁判所ノ裁判ニ對シ更ニ原裁判所ニ抗告ヲ爲シタルモノナレハ同裁判所ノ裁判ニ對スル本抗告ハ法律上許シ可カラサルモノナルコト多言ヲ俟タス(大審院大正二年)タ第三五八號同年一月一二日民二決定)

【同趣旨判例】

一 戸籍吏ノ爲シタル身分登記ヲ不當トシテ區裁判所ニ抗告ヲ爲シ同裁判所ノ決定ヲ受ケタルトキハ其決定ニ對シ一回限り更ニ地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルニ止マリ地方裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告人ノ何人タルト將タ如何ナル理由ヲ生シタルト問ハス抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(同一判例四一年五九九頁)(大審院民事判決錄四二年六八三頁)  
二 戸籍吏ノ處分ニ對スル抗告ニ付テハ戸籍法第三〇八條ノ規定ニ從ヒ抗告裁判所ノ裁判ニ對シ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキ一回限り爲スコトヲ得ルニ止マリ第二抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ如何ナル理由ヲ以テスルモ更ニ抗告スルヲ許ササルモノトス(大審院民事判決錄三三年三卷四七頁)

六七

競賣法二七 裁判所カ開始決定ヲ爲シタルトキハ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

競賣ノ期日ハ競賣手續ノ利害關係人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス  
左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス  
一 申立人  
二 債務者及ヒ所有者  
三 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者  
四 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者

同三三 競落期日ハ民事訴訟法第六六〇條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開ク競落ノ手續、競落ヲ許ササル場合ノ新競賣期日競賣ノ履行及ヒ競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民事訴訟法第六七一條乃至第六七四條第六七六條乃至第六八三條第六八七條及ヒ第六八八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス  
民訴六八〇 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

爲スコトヲ得  
競落ヲ許ス可キ理由ヲキコト又ハ決定ニ編ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス  
第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價格ニ付キ拘束ヲ受ケルモノトス

競賣法ニ依ル競落許可決定ニ對シ抗告ヲ爲シ得ル者ハ民訴第六八〇條ニ所謂利害關係人タルコトヲ要ス

競賣法ニ依ル競落許可決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得ル人ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ニ從フヘキニ非スシテ競賣法第三二條ニ於テ準用セララルル民事訴訟法第六八〇條ノ規定ニ從ハサル可カラズ而シテ同條ニ所謂利害關係人ハ競賣法ニ付テハ同法第二七條第三項ニ列記セララルル者ニ限ルカ故ニ假令競落許可ノ決定ニ因リ權利ヲ害セララルル者ト雖モ右ニ列記セララルル者ノ執レニモ該當セサルニ於テハ其決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス然ルニ抗告人等ハ本件競賣ノ目的タル建物ノ存スル土地ニ付キ地上權ヲ有シ若クハ有セシニ過キササル者ニシテ競賣法第二七條第三項ニ列記セララルル者ニ該當セサルヲ以テ同人等ノ抗告ハ法律上許可スヘカラサルモノニ屬セリ故ニ原裁判所カ之ヲ不適法トシテ却下シタルハ正當ナリ(大審院大正二年)タ第三七四號同年一月一二日民二決定)

六八

競賣法三二 競落期日ハ民事訴訟法第六六〇條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開ク  
競落ノ手續競落ヲ許ササル場合競賣期日競賣ノ履行及ヒ競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民事

競賣法ニ依ル競落ニ對シ抗告ヲ爲シ得ル者

競落許否  
ノ決定ニ  
對スル抗  
告ノ性質

競落許否ノ決定ニ對スル第一ノ抗告カ即時抗告ナルトキハ其第二ノ抗告モ亦即時抗告ナリトス

競賣法第三二條第二項民事訴訟法第六八〇條ニ依レハ競落許否ニ付テノ決定ニ對シ利害關係人ノ爲ス抗告ハ即時抗告ナリ而シテ即時抗告ニ於テハ民事訴訟法第四六六條ノ準用ニ依リ裁判ノ送達ヨリ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲ス可キモノニシテ第一ノ抗告カ即時抗告ノ規定アル場合ハ新ナル獨立ノ理由ヲ生シタリトシテ爲ス第二抗告モ亦即時抗告ノ規定ニ從フ可キモノナリ然ルニ抗告人カ原裁判ノ送達ヲ受ケタルハ大正二年一月七日ニシテ原裁判所ニ抗告狀ヲ提出シタルハ同月一五日ナルコト記録ニ依リ明確ナルヲ以テ期間ヲ經過シタル不適法ノ抗告ナリトス依テ同第四六三條ヲ準用シ主文ノ如ク決定セリ(大審院大正二年(ク)第四〇〇號同年一月二八日民二決定)

藥品營業並藥品取扱規則二六 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性狀品質該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ製造貯藏陳列販賣又ハ授與スルコトヲ得ス但命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス(同上)

同三五 毒藥劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム  
同三九 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ四百圓以下ノ罰金ニ處ス  
二 第二六條又ハ第二七條ニ違背シタル者  
明治四〇年一月二日內務省令第二七號藥品營業並藥品取扱ニ依ル命令一 藥品營業者藥局方適否試験ノ目的ヲ以テ藥品ヲ一時貯藏スルハ規則第二六條及第二七條ニ依ルノ限ニ在ラス  
同二 藥品營業者製藥又ハ精製原料(藥局製劑ノ原料ヲ除ク)ニ供スル目的ヲ以テ藥品ヲ貯藏シ又ハ其目的ヲ以テ營業者間ニ販賣スルハ規則第二六條及第二七條ニ依ルノ限ニ在ラス

藥品營業並藥品取扱規則第三五條ニ依リ定メタル毒藥劇藥ノ品目ニ該當スル物品ナリトスルモ明治四五年內務省令第六號ニ依リ毒物劇物タル指定ヲ受ケタルモノハ醫藥用外ノ物品トシテ之ヲ販賣スルコトヲ得ルモノトス  
日本藥局方ノ所定ニ適合サル性狀品質ノサツカリンハ之ヲ醫藥用品トシテ販賣シタル場合ニ限り藥品營業並藥品取扱規則第二六條第三九條ノ罪ヲ構成スルモノトス

藥品營業並藥品取扱規則第二六條及明治四〇年內務省令第二七號ノ規定スル所ニ依レハ總テ日本藥局方ニ記載シタル藥品ハ前示省令第一條及第二條ニ規定シタル場合ヲ除ク外其性狀品質該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ之レヲ販賣スルコトヲ得サルモノノ如シト雖モ明治四五年內務省令第五號毒物劇物取締規則ノ規定スル所

ニ依レハ藥品營業並藥品取扱規則第三五條ニ依リ定メタル毒藥劇藥ノ品目ニ該當スル物品ナリトスルモ明治四五年内務省令第六號ニ依リ毒物劇物タル指定ヲ受ケタルモノハ醫藥用外ノ物品トシテ之ヲ販賣シ得ヘシ而シテ既ニ醫藥用外ノ物品トシテ販賣許容スル以上ハ該物品ハ之ヲ藥物ト認メザル趣意ナルヲ以テ自ラ日本藥局方ノ所定ニ適合セサルコトヲ妨ケサルハ明白ナリトスサツカリンハ毒物劇物タル指定ヲ受ケサル物品ナリト雖モ又毒藥劇藥ト指定セララルル物品ニ非サルヲ以テ前陳ノ法意ヲ查覈スルトキハ日本藥局方ノ所定ニ適合セサル性狀品質ノサツカリンニ付テモ之ヲ醫藥用品トシテ販賣シタル場合ニ於テハ藥品營業並藥品取扱規則第二六條第三九條ノ罪ヲ構成ス可シト雖モ若シ之ヲ工業用品即チ醫藥用外ノ物品トシテ販賣シタル場合ニ於テハ前示法條違反ノ行為アリト云フコトヲ得スシテサツカリンヲ販賣シタル事案ニ付該サツカリンカ醫藥用品ナリヤ又ハ工業用品ナリヤハ其罪責ノ有無ヲ判定スルニ付キ重要ナル事項ナリトス然ルニ被告人等ハ第一審公判始末書ニ依レハ該公廷ニ於テ各工業用サツカリンヲ販賣シタル旨ノ供述ヲ爲シタル事實ナルニ拘ハラス原判決ニ於テハ第一審公判始末書中被告人等ハ單ニサツカリンヲ販賣シタル旨ノ供述記載アリトシテ之ヲ證據ニ引用シ他ノ摘示ノ證據ト之ヲ綜合シテ判示サツカリンヲ販賣シタル事實ヲ認定シタルハ要スルニ虛偽ノ證據ヲ斷罪ノ資料ト爲シタル違反アリテ本論旨ハ理由アリ(大審院大正二年(一)第六四二號同年一月二一日判決)

調劑生カ醫師ノ補助者トシテ其面前ニ於テ治療行為ニ關與シ又ハ其不在中醫師ノ意思ニ因リ治療行為ヲ爲ス場合ニ其治療行為ハ醫師ノ行為ト見ルヘキモノニシテ調劑生ノ無免許醫業ノ行為ニアラス

一八 醫師法 醫師ハ自ラ診察セシテ診斷書處方箋ヲ交付シ若クハ治療ヲ爲シ又ハ檢察書若クハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス但シ診療中ノ患者死亡シタル場合ニ交付スル死亡診斷書ニ付テハ此限ニ在ラス

調劑生カ醫師ノ補助者トシテ其面前ニ於テ治療行為ニ關與シ又ハ其不在中醫師ノ意思ニ因リ治療行為ヲ爲ス場合ニ其治療行為ハ醫師ノ行為ト見ルヘキモノニシテ調劑生ノ無免許醫業ノ行為ニアラス

檢事上告趣意當裁判所ハ被告新カ被告輝輝ノ調劑生トシテ被雇中列施布篤ニ基キ疾患者堤ニキ甲斐シケ佐藤相助利光寛平等ニ對シ治療行為ヲ施シタル事實並ニ被告輝輝カ右新ノ治療行為ヲ認容シタル事實ヲ認メナカラ右ハ診察ノ件ハサル治療行為ナシハ醫業ニ非ス從テ醫師法違反ニアラスト判決シタリ然レトモ治療行為ヲ施スニハ其治療ノ適否ニ付キ判斷ヲ要スヘク其判斷ハ即チ診察ニ外ナラサルヲ以テ治療行為中ニハ當ニ診察行為ヲ包含スヘキモノト云ハサルハカス然ルニ當裁判所ハ一面ニ於テ治療ヲ施シタル事實ヲ認メナカラ他ノ一面ニ於テ診察ノ件ハサル治療ハ醫業ニアラスト説明シタルハ診察ノ件ハサル治療アルコトヲ認メタル理由顯明ノ裁判ニシテ且醫師法ヲ適用セサル違法アルモノト思料スト云フニ在リ(因テ案スルニ人ノ疾病ヲ治療スルハ醫ノ行為ニシテ之ヲ常業トスルハ醫業ナリ故ニ診察シテ治療スルハ固ヨリ醫ノ行為ニシテ診察セシテ治療スルモ亦醫ノ行為ニアラスト云フヘカラス(醫師法第五條參照)然リ而シテ醫師法ニ於テ無免許醫業ヲ禁止シ之ニ違反スル者ヲ處罰スル所以ハ之ニ依テ一般ノ危險ヲ防止スルヲ趣旨トスルモノナレハ一ノ行為カ無免許醫業ナルヲ否ヤオ定ムルニ及之ヲ標準トスルニ至當トス蓋シ患者ニ對シ處方ヲ

授ケ又ハ切開チ行フカ如キ治療行為ハ醫師自ラ之ヲ爲スヘキモノニシテ醫師ニアラサル他人チシテ代ツテ之ヲ爲サシムルヲ得サルハ論チ俟タスト雖モ醫師カ自ラ治療行為ヲ爲スニ當リ醫師ノ免許チ有セサルモノヲ使役シ其指揮監督ノ下ニ治療行為ヲ補助セシムルコトアリトスルモ補助者ハ單ニ醫師ノ手足トシテ行動スルニ止マリモ患者ニ對シテ危険ヲ生スルノ虞アルコトナク醫師ノ意思ニ因リ治療行為カ行ハルルニ於テハ其治療行為ハ即チ醫師ノ治療行為ニシテ醫師ノ治療行為以外ニ無免許醫業ノ行為アルモノト云フヲ得ス從テ醫師カ其面前ニ於テ補助者ヲ使役スル場合ニ限ラヌ其他一時外出スルニ當リ補助者ヲ指揮監督シテ不在中自己ノ從來診察セル患者ニ對シテ前ニ掲ケルカ如ク危険ヲ生スル虞ナキ治療ノ事ニ關與セシメ補助者カ單ニ醫師ノ手足トシテ行動シタルニ止マル場合ノ如キハ之ヲ面前ニ於テ使役スル場合ト同視シ其治療行為ハ即チ醫師ノ治療行為ニシテ醫師ノ治療行為以外ニ無免許醫業ノ行為ナキモノト認ムルヲ妨ケス要スルニ治療ニ關シ一般ノ患者チシテ醫師ノ指圖ニ從ヒ自ラ取扱ハシムルカ又ハ通常ノ人チシテ醫師ノ指圖ニ從ヒ取扱ハシムルニ於テモ危險ヲ生スルノ虞ナキ事項ニ在テハ醫師カ醫師ノ免許チ有セサル者ヲ使役シ其指揮監督ノ下ニ之ヲ取扱ハシムルモ此場合ニハ無免許醫業ノ犯罪ヲ構成スルコトナシ故ニ治療行為中ニハ常ニ診察行為ヲ包含ストノ上告論旨ハ理由ナキト共ニ診察ヲ缺キタル治療行為ハ醫業ニアラスト認メタル原判決ノ判示ハ違法ナルヲ以テ原判決ヲ違法トスル點ニ於テ上告論旨ハ理由アリ（大審院大正二年（レ）第一七三一號同年一月一八日刑二判決）

【參照判例】

醫師法第十一條ハ醫業ノ目的ヲ以テ免許ヲ受ケス擅ニ醫術ヲ行ヒタル者ヲ處罰スルノ法置ナリ（大審院刑事判決錄四〇年一三三八頁）

實際ニ適セル好判決タルヲ失ハス

（七一）

衆議院選舉法八七 選舉ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓

- 一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢物品手形其他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與セシムルコトヲ申込ミタル者又ハ供與者ハ申込テ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並供與者若ハ申込テ承諾シタル者
  - 二 選舉ニ關シ酒食遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ應接待シ又ハ應接待ヲ受ケタル者又ハ選舉會場開票所若ハ投票所ニ往復スル爲船車馬ノ類ヲ供與シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ沐浴料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ沐浴料ノ類ヲ代辨シ選舉ニ關シ選舉人又ハ其關係アル社寺學校會社組合市町村等ニ對スル用水小作債權寄附其他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ誘導シタル者及其誘導ニ應シタル者
  - 三 選舉人ヲ誘導シタル者及其誘導ニ應シタル者
- 前項ノ場合ニ於テ其收受シタル物件ハ之ヲ沒收シ既ニ費用シタルモノハ其ノ價チ追徴ス

苟モ選舉ニ關シテ衆議院議員選舉法第八七條各號ニ該ル應應其他ノ行為ヲ爲シタル以上ハ選舉ノ前後ヲ問ハス其豫約ノ有無ヲ論セス本罪ノ成立アルモノトス

衆議院議員選舉法第八七條各號ノ犯罪行為ハ選舉ノ前ニ在ルト其後ニ在ルトヲ問ハヌ又選舉後ニ在リタル場合ニ於テハ當事者間ニ其行為ニ關シテ選舉前ノ豫約アリタルト否トヲ論セス苟モ選舉ニ關シテ行ハレタル以上ハ一律ニ之ヲ處罰スヘキコトハ法文上炳然トシテ疑ナク蓋シ同條ノ規定ハ選舉ニ關スル陋弊ヲ廓清シ其公正ヲ

保持スルコトヲ以テ目的ト爲スモノニ外ナラス而シテ法ノ虞ル弊害ハ往往濫脱スヘ  
カヲサル權限ノ間ニ發生シ當事者間ニ在テモ事前ニ於テ默契暗約スル所アルハ多數  
ノ事例ナルヲ以テ苟モ弊害ノ發生ニ機會ヲ與フヘキ行爲ハ其實害ノ有無ヲ問ハス結  
算ニ之ヲ禁止セルモノト解スヘク從テ前掲各行爲力選舉ノ後ニ在ルカ爲メニ又選舉  
ノ前ニ於テ當事者間ニ豫約ナキカ爲メニ選舉法違反ノ罪ヲ構成スルコトヲ妨クヘキ  
ニ非ス原判決ノ認定セル事實ハ被告慶次郎ハ慶次ノ選舉ニ關シ運動シタル被告  
太平等一名ニ對シ其勞ニ酬ユル爲ニ酒宴ヲ張リ之ヲ饗應シ被告太平等ハ饗應ヲ受  
ケタリト云フニ在リテ右行爲ハ選舉後ニ在リタリト雖選舉ニ關シ行ハレタルコト洵  
ニ明瞭ナレハ衆議院議員選舉法第八七條ノ違犯ニ該當スルヤ論ナシ而シテ夫ノ選舉  
後ニ於テ當選者力祝意ヲ表スルカ爲メニ選舉人選舉運動者等ニ非サル選舉ニ關係ナ  
キ親族親舊ヲ招待シテ賀進ヲ張ルカ如キハ選舉ニ關シ人ヲ饗應スル者ニ非レハ選舉  
ヲ構成セスト雖モ本件ノ場合ハ之ト同一例ニ論斷スルヲ容サス故ニ選舉後ニ於テ選  
舉運動者ノ努力ニ對スル報酬トシテ之ヲ饗應シ選舉運動者モ其意ヲ諒トシテ之ヲ受  
ケタルトキハ選舉前ニ於テ當事者間ニ豫約ナキモ衆議院議員選舉法第八七  
條ノ違犯行爲トシテ之ヲ論スルニ妨クナケレハ原判決ニ於テ特ニ選舉前ニ約束存在  
セル事實ヲ判示セスシテ直チニ土敘ノ事實ヲ認定シ之ヲ處罰シタルハ所論ノ如ク擬  
律錯誤若クハ理由不備ノ違法アルモノニ非ラス(大審院大正二年(レ)第二二七六號同年  
一二度二三番第一判決)

至當ノ判決ナリ

衆議院議員選舉法第八七條ノ罰則ハ選舉權ノ行使ヲ安全公平ヲラシメンカ爲メニ設ケラレタルモノトス從テ議員候補者ニ被選  
舉權ノ有無ヲ犯罪ノ構成ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ  
衆議院議員選舉法第八七條第一號ニ所謂選舉運動者トハ金品手形其他ノ利益若クハ公私ノ職務ノ供與ノ申込當時現ニ運動行爲  
ヲ行フノミニ限ラス未タ其實行前ト雖モ既ニ他人ノ依頼ニ應ジ運動ニ從事セント承諾シタル者ヲ指稱スルモノトス(大審  
院刑事判決像四一年一二九頁)

至當ノ判決ナリ

森林法八三 森林ニ於テ其產物ヲ窃取シタル者ハ森林窃盜トシテ三年以下ノ「重禁錮」又ハ贖額以上贖額二倍以下ノ  
罰金ニ處ス其產物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ  
刑罰二〇三 刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪トナルヘキ事實及ヒ證據ニヨリテ之ヲ認メタル理由ヲ明示シ且法律ヲ適用シ其理  
由ヲ付スヘシ

森林窃盜ノ如キ贖額ヲ以テ科刑ノ標準ト爲ス犯罪ヲ連續シテ數回ニ實行シタル  
場合ニ於テ各行爲ノ日時及ヒ其贖物ノ數額カ明カナラサルトキハ裁判所ノ自由  
ナル裁量ヲ以テ起頭ヨリ終局ニ至ル犯行ノ時期及ヒ贖物ノ總額ヲ判示スルヲ以  
テ足ルモノトス

森林窃盜ノ如キ贖額ヲ以テ科刑ノ標準ト爲ス犯罪ニ在テハ贖額ヲ確定スルコトヲ要  
ス而シテ有贖額ハ犯時ニ於ケル贖物ノ價格ヲ以テ之ヲ判定スルヲ相當トスト雖竊盜  
行爲カ數回ニ亘リ連續シテ數回ニ實行セラレタル場合ニ於テ各行爲ノ日時及ヒ其贖  
物ノ數額ヲ明確ニ認定シ能ハサルトキハ起頭ヨリ終局ニ至ル犯行爲ノ行ハレタル  
時期及ヒ贖物ノ總額ヲ判示スルヲ以テ足ル何トナレハ數個ノ連續セル行爲カ一個ノ

犯罪ヲ構成スルニ過キサレハナリ而シテ右贓額ハ裁判所ノ自由ナル裁量ヲ以テ犯罪  
ノ實行セラレタル時間内ニ於ケル贓物ノ總額ニ對當スル價格ヲ平均ニ若クハ其他ノ  
方法ヲ以テ之ヲ評定スヘキモノトス故ニ原判決カ其採用セル各被害物件調査ニ表  
示セル贓物ノ價格ヲ以テ贓物タル盜伐木五五本ノ被害當時ニ於ケル價格ニ相當スル  
モノト判斷シ其總計額三圓一九錢一厘ヲ以テ本件ノ贓額ト判示シタルモノナルヲ以  
テ各行爲ノ當時ニ於ケル盜伐木ノ數量ニ對スル價格幾何ナルヤナリ一明示セサルモ  
違法ニ非ス(大審院大正二年(れ)第二〇二二號同年一月五日刑一判決)

【參照判例】

森林盜竊ニシテ其贓額ヲ確定セザレハ罰金ノ範圍ヲ定ムルコト能ハサル案件ナルニ贓物ノ價格ヲ明示セスシテ罰金ヲ言渡シタ  
ル判決ハ不法ナリ(大審院刑事判決錄三五年二卷九五頁)

至當ノ判決ナリ

(七三)

商標法一九 審判ノ審決又ハ再審査ノ査定ニ不服アル者ハ審決又ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審  
判ヲ請求スルコトヲ得

同二一 特許法：第八三條第一項第二項：ノ規定ハ商標ニ關シテ之ヲ準用ス

特許法八一 審判ノ審決、權利確認ノ査定又ハ再審査ノ査定ニ不服アル者ハ審決又ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六  
十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ審決ニ依ル補償金額ニ付テハ此限ニ在ラス

同八三 抗告審判ニ於テハ其ノ事件ニ付キ審決ヲ爲スヘシ

再審査ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テハ單ニ其ノ査定ヲ破毀シ更ニ審査ニ付スヘシトノ審決ヲ爲スコトヲ得其ノ破  
毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ審査官ヲ囑束ス(後略)

裁判所構成法四九 大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付會テ一若クハ二以上ノ部ニ於テ爲

特許法及ヒ商標法ニ於ケル抗告審判ノ請求ハ單ニ初審判ノ審決ニ對シテノミナ  
ラス審査ノ査定ニ對シ不服アル場合ニ於テモ亦之ヲ許スヘキモノトス  
我特許法ニ於テハ査定ニ對スル抗告ト審決ニ對スル抗告トハ其抗告審判手續ニ  
區別ヲ設クヘキモノニアラス寧ろ審決ニ對スル抗告審判ノ場合ニ於テモ査定ニ  
對スル抗告審判ノ場合ノ如ク當事者ハ新事實ヲ提出シ得ヘキモノトス

シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其ノ部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其ノ報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ  
民事ノ總部若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

商標登錄無効審判請求事件ニ關シ審判請求人ハ抗告審判ニ於テ初審判ニ提出セザリ  
シ事實ヲ抗告理由トシテ提出スルコトヲ得ルヤ否ヤノ點ニ付テハ商標法及同法ニ依  
リ準用セララル特許法中直接ニ明文ヲ以テ規定シタル所ナシ然レトモ商標法第一九  
條ニハ審判ノ審決又ハ再審査ノ査定ニ不服アル者ハ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得ル  
旨ノ規定アリ又特許法第八一條ニハ審判ノ審決、權利確認ノ査定又ハ再審査ノ査定ニ  
不服アル者ハ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得ル旨ノ規定アリ故ニ我特許法及商標法等  
ニ依レハ抗告審判ノ請求ハ本件ノ如ク單ニ初審判ノ審決ニ對シテノミナラス審査ノ  
査定ニ對シ不服アル場合ニ於テモ亦之ヲ許スヘキモノトス仍テ先ツ其審査ノ査定ニ  
對スル抗告審判ノ場合ニ付キ考フルニ商標法第二一條ニ依リ商標ニ關シ準用セラ  
ル特許法第八三條第一項ニハ抗告審判ニ於テハ其事件ニ付審決ヲ爲スヘシト規定シ  
同第二項ニハ再審査ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テハ單ニ其査定ヲ破毀シ更ニ審査

審判官ノ職權ニ關シテハ  
審判官ノ職權ニ關シテハ  
審判官ノ職權ニ關シテハ

付スヘシトシテ審決ヲ爲スコトヲ得、其ノ破毀ノ基本ト爲シテ其ノ理由ハ其ノ事件ニ付  
テハ審判官ヲ驅逐スルト規定スルニ依テ看レハ抗告審判ノ場合ニ於テ若シ審判官カ  
ニ抗告審判請求人ノ提出シタル不服ノ理由ニ付テハ其當否ヲ調査スルニ止マリ審  
判ノ場合ノ如ク更ニ進テ職權ヲ以テ出願ノ實體的要件全部ニ亙リ調査スルコトヲ得  
サルモノトセンカ再調査ヲ不當ト認メタル場合ニ於テハ直チニ出願許可ノ審決ヲ爲  
スモト能ハサルヲ以テ常ニ必ラス更ニ審査ニ付スヘキ旨ノ審決ヲ爲シ再調査ヲ爲サ  
シメサルヘカラサルコトト爲リ其手續ナシテ甚シク煩雜ナラシメ之カ爲メ事件ノ終  
結ヲ著シク遅延セシムルノ恐アルヲ以テ立法者ハ此弊害ヲ避クル爲メ抗告審判ニ於  
テモ原則トシテ審判官ハ單ニ査定ヲ破毀スルニ止マラス審査ノ場合ト同シク職權ヲ  
以テ出願ノ實體的要件全部ヲ調査シ出願事件ノ本體ニ付キ審決ヲ爲スヘク例外トシ  
テ審判官カ必要ト認メタル場合ニ於テノミ單ニ査定ヲ破毀シ更ニ審査ニ付スヘキ旨  
ノ審決ヲ爲スヘキモノト爲シタル法意ナルコトヲ推測スルニ足ル立法ノ趣旨既ニ叙  
上ノ如ク審判官ハ抗告審判ニ於テ職權ヲ以テ自由ニ事實ヲ調査シ得ルモノトセハ當  
事者モ亦新事實ヲ提出スルコトヲ得ヘキハ自ラ明カナルヘシ然レハ査定ニ對スル抗  
告審判ニ於テ當事者ハ新ナル事實ヲ抗告理由トシテ提出スルコトヲ得ルモノト謂ハ  
ルニ付テハ得ルニ直接ニ本件ノ問題タル初審判ノ審決ニ對スル抗告審判ノ場合ヲ考  
テ得ルニ我特許法ニ於テハ特ニ査定ニ對スル不服申立ノ場合ト審決ニ對スル不服申立ノ  
場合トナ區別セズ之ヲ一括シテ抗告審判ト名ケ其手續ニ付テモ僅少ノ例外ヲ除ク外  
共ニ同一ナル規定ニ從ハシメタルヲ以テ我國法ノ解釋トシテハ査定ニ對スル抗告審

審決ニ對スル抗告  
申立ニ對シテハ  
新事實ノ提出  
モトメテ許ス

【反對判例】

判ニ於テハ新事實ノ提出ヲ許シ審決ニ對スル抗告審判ニ於テハ之ヲ許ササルモノト  
シ殆ント同一ノ規定ノ下ニ行ハルル抗告審判手續中ニ區別ヲ設クヘキモノニアラス  
寧ロ審決ニ對スル抗告審判ノ場合ニ於テモ査定ニ對スル抗告審判ノ場合ノ如ク當事  
者ハ新事實ヲ提出シ得ヘキモノト一様ニ解スルヲ相償トス故ニ商標登録無効審判請  
求事件ニ付キ審判請求人ハ抗告審判ニ於テ初審判ニ提出セザリシ新ナル事實ヲ抗告  
理由トシテ提出スルコトヲ得ルモノト判定ス然レニ本件ニ付キ上告人カ原審ニ於テ  
提出シタル事實上ノ主張ハ第一點乃至第四點ナルニ拘ハラヌ原審ハ其第一點ノミニ  
付キ判斷ヲ與ヘ第二點乃至第四點ニ付テハ初審判ニ於テ其主張ヲ放棄シタリシ所ナ  
ルヲ以テ抗告審判ニ於テ之ヲ審理スヘキ限ニアラスト説明シ之カ判斷ヲ爲サザリシ  
ハ商標法ニ依リ商標ニ關シ準用セラレタル特許法ノ解釋ヲ誤リ抗告審判ニ於テハ當  
事者ハ新事實ヲ提出スルコトヲ得スト爲シタル不法アルヲ以テ原審決ハ此點ニ於テ  
破毀ヲ免レス叙上ノ判斷ハ從前ノ判例(明治四三年)第三五二同年一月二六日判決  
及ヒ明治四五年(オ)第八一號同年六月二七日判決參照)ニ反スルモノト認ムルヲ以テ裁  
判所構成法第四九條ニ依リ民事ノ總部聯合ノ上審問判決スルモノトト(大審院大正二  
年(オ)第三八號同年一月二五号民事聯合部判決)

- 一 實用新案ノ無効審判ヲ請求シタル者カ抗告審ニ至リ其請求ノ理由タル無効原因ヲ變更スルハ前審ノ審決ヲ經サル事件ニ付  
キ新ニ審判ヲ求ムルモノニシテ法律ノ許ササル所ナリ(大審院民事判決錄四三年一〇〇七頁)
- 二 同趣旨(大審院民事判決錄四五年六六一頁)



假登記ハ單ニ順位保全ノ效力ヲ有スルニ止マリ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコト能ハス從テ競賣申立ノ登記以後ニ本登記アルモ競賣期日公告ニ之ヲ掲載スルヲ要セス

本件抗告ノ要旨ハ東京區裁判所ハ債權者大久保ヤサノ申立ニ因リ同座大正二年(卯)第五四九號不動産競賣事件ニ付同年一月八日競落許可決定ヲ爲シ債務者タル抗告人岩本鶴之助所有ノ東京市豊多摩郡澁谷町大字中澁谷字道支坂三〇六番地木造瓦葺三階家一棟建坪二〇坪一合一勺階上一九坪五合六勺三階一九坪二合五勺ノ競落ヲ許可セラレタル處本件建物ニ付テハ大正二年五月一日付賃借權設定ノ假登記ヲ爲シテ同年九月五日其本登記ヲ爲シタルカ同年一〇月一六日同廳力爲シタル競賣期日公告ニ該賃借權ニ付何等ノ掲載ナキハ不當ニシテ從テ本件競賣許可決定ハ違法ノ手續ニ依リテ爲サレタルモノナリト云フニ在リ仍テ接スルニ抗告人主張ノ如ク本件不動産ニ對シ賃借權設定ノ假登記ハ大正二年五月一日附テ以テ其本登記ハ同年九月五日附テ以テ孰レモ之ヲ了シ而シテ同年一〇月一六日ニ爲シタル原裁判所ノ競賣期日公告ニハ右賃借權ニ關シ何等掲載スルコトコトナキハ本件記録ニ依リ之ヲ認メ得ヘキモ登記簿謄本ニ依リ明カナル如ク本件競賣申立ノ登記ハ同年八月二八日ノ受付ヲ以

不動産登記法七(前略)假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登記ノ順位ハ假登記ノ順位ニ依ル  
 競賣法二七 裁判所カ開始決定ヲ爲シタルトキハ競賣期日及競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

假登記ノ效力

假登記以後ニ於テ本登記ヲ得ルニシテハ其效力ニ關シテハ本登記ノ效力ニ同シ

【參照學說】

テ之ヲ爲シアルヲ以テ前記賃借權設定ノ本登記ハ競賣申立ノ登記後ニ爲シタルモノナルコト明カナリ然リ而シテ假登記ハ單ニ順位保全ノ效力ヲ有スルニ止マリ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコト能ハサルヲ以テ假登記ヲ爲シタル一事ヲ以テハ未ダ對抗力ヲ缺クモノト云フヘク又抵當權者カ抵當權ノ實行ニ著手シ競賣申立ノ登記ヲ爲シタル以後ニ於テ其抵當權ノ目的タル不動産ノ所有者ハ右抵當權者ノ權利ノ實行ヲ妨クルヘキ行爲ヲ爲ス能ハス然ルニ本件ニ於ケルカ如キ縱令義ニ賃借權設定ノ假登記アリトモ競賣申立ノ登記以後ニ於テ賃借權設定行爲ニ完全ナル對抗力ヲ賦與スル本登記ヲ爲スカ如キハ固ヨリ抵當權者ノ權利ノ實行ヲ妨クルモノナルヤ勿論ナルヲ以テ大正二年九月五日ニ爲シタル本件不動産ニ對スル賃借權設定ノ本登記ハ本件競賣ニ關シテハ無効ノモノト認メサルヘカラス然レハ原裁判所カ競賣期日公告ニ右ノ賃借權ヲ掲載セザリシハ相當ニシテ原決定ハ此點ニ於テ何等違法アルコトナシ仍テ本件抗告ハ其理由ナキモノトシ主文ノ如ク決定シタリ(東京地方二年(ツ)第二一七號民二岩本裁判長、菊地、早坂各判事決定)

一 本書第一條諸法二七頁四八頁五八頁  
 二 登記權利者カ假登記ヲ爲シテ自己ノ權利ヲ保全シタル以上ハ何人ニ對シテモ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘク敢テ本登記ヲ爲スコトヲ必要トセス故ニ第三者ハ未ダ登記ナキナ理由トシテ假登記ヲ爲シタル權利者ノ權利ヲ無視スル事ヲ得ス斯クストキハ假登記ト本登記トハ何等ノ差異ナク別ニ本登記ト爲スノ必要ナキモノノ如シ然レトモ余ノ信スル所ニ依レハ登記ト本登記トノ間ニハ一ノ重要ナル差異アリ他ナシ本登記ヲ爲シタル權利者ハ登記簿上其權利ノ主體トシテ之ニ關スル登記行爲ヲ爲スコトヲ得ルモ假登記ヲ爲シタルニ過キサル者ハ未ダ確定的ニ登記名義人トナリタルモノニアラサルヲ以テ登記行爲ヲ爲スコトヲ得サルコト即是ナリ(法學大家論文彙編田博士論文民法ノ部六四四頁以下)

三 假登記ノ效力ハ後ニ本登記カ爲サレタル場合其登記ノ順位ヲ假登記ノ順位ニ依ラシムルニ在リトス（三宅法學士不動産登記法正解八七頁）

四 登記ナルモノハ本登記ト假登記トナ間ハス總テ第三者ニ對抗スルノ效力ヲ有ス隨テ民法施行法第三七條ニ所謂登記ナル文字ニハ本登記ノ外尙假登記ヲモ包含スルモノト解釋スルヲ相當トス（大審院民事判決錄三三年九卷九七頁）

五 假登記ハ後日本登記ヲ爲ス場合ニ於テ既往ニ遡リ其本登記ノ順位ヲ保ツヘキ效力アルモノトス故ニ本登記ヲナスヘキ權利ノ存在セザルコトヲ確定スルニ非サレハ假登記ハ職ク之ヲ取消シ得ヘキモノニ非ス（大審院民事判決錄三七年一四八三頁）

六 假登記ハ不動産ニ關スル權利ノ得喪變更ニ付登記義務者カ登記ヲ爲スコトヲ承諾セサル場合ニ於テ登記權利者單獨ノ申請ニテ之ヲスコトヲ得ヘキモノナレハ不動産登記法第七條第二項ハ假登記ノ後本登記ノ爲サレタル場合ニ於テ本登記ノ順位ヲ假登記ノ位ニ依ラシムルハ勿論登記權利者カ後ニ本登記ヲ爲サシメントスル場合ニ於テモ苟モ登記義務者トノ法律關係確定シテ正當ノ登記原因存在スルモノト認メラルル以上ハ第三者ニ對シ假登記ノ順位ニ於テ登記ノ效力ヲ發現セシムルモノト解釋スルヲ相當トス（大審院民事判決錄四二年二九二頁）

吾人ハ嘗テ假登記ニ付キ其效力ハ單ニ順位保全ノ效アルニ過キササルヤ將タ第三者ニモ一定ノ對抗力ヲ認ム可キヤニ付キ詳説シタリ若シ前者ニ從ヘハ本判旨ハ相當ナルコト論ヲ待タス後者ニ從ヘハ競落後ニ於テ貸賃借ノ存否ノ問題ヲ生ス思フニ事案ノ場合ニ假ニ本登記カ抵當權者ニ對抗スルヲ得ストスルモ假登記ヲ無視シテ單ニ順位ノ保全ニ止マリ本登記ト相待ツテノミ假登記ハ第三者ニ對抗力ヲ認ムルモノナリト論決シテ何等ノ疑問ナキヤ若シ如斯ンハ假登記ハ登記タル本質ニ反シ法律カ假登記ヲ認メタル趣旨ヲ没却スルニハ非ラサルカ吾人ハ寧ロ假登記モ登記トシテ第三者ニ對抗力ヲ認メ只登記名義人トシテ登記行為ヲ爲シ得サルニ過キスト解スルヲ相當ナルカ如ク思考ス

兩建トハ定期米取引ノ同一注文者カ同數ノ賣建及ヒ買建ヲナシ同時ニ之ヲ存在セシムルヲ云フモノニシテ双方ノ取引ヲ同時ニ手仕舞ト爲スモ亦其一方ヲ存シ他ノ一方ヲ手仕舞トナスモ注文者ノ隨意ナリトス

上告趣意原判決ハ「被告カ兩建名義ノ下ニ自己ニ於テ證據金ヲ差入ルル事ナク定期米ノ取引ヲ爲サンコトヲ企テ云云ト認定シタルハ理由ニ錯誤矛盾アル不法ノ判決ナリ何トナレハ田内權太郎ノ賣建ニ對シ更ニ同額ノ買建ヲ爲シテ兩建ト爲シタル事ニ付後ノ買建行為ハ自己ノ爲メ定期米取引ナリト云フ意味ナランモ抑モ自己ノ爲メ定期米取引ヲナシタルトスレハ相場ノ上下ニ伴ヒテ自己ニ利益又ハ損害ノ及フヘキモノナラサル可カラス然ルニ本件ノ如ク兩建トナス時ハ如何ニ相場ニ昂騰又ハ下落ヲ來スモ一錢一厘ノ利益又ハ損害ノ來ルヘキコトナキハ自明ノ理ナリ即チ兩建トハ所謂轉賣買戻ノ意義ニシテ新ニ取引ヲ爲スニ非ス前ニ賣建又ハ買建タルモノヲ轉賣又ハ買戻ニ依リ取引ヲ消滅セシムルモノナリ之レヲ以テ兩建トスルニハ證據金ヲ要セザルト同時ニ仲買人ノ手元ニ於テハ建玉ノ消滅スルモノナリ上述ノ如クナルヲ以テ原列決ハ兩建ノ性質ヲ誤解シタル結果兩建ノ名義ニ於テハ不能事タル自己ノ取引ヲナサント企テ云云ト認定シタルモノナレハ理由ノ矛盾ヲ免レスト云フニ在レトモ兩建トハ定期米取引ノ同一注文者カ同數ノ賣建及買建ヲナシ同時ニ之ヲ存在セシムルヲ云フモノニシテ双方ノ取引ヲ同時ニ手仕舞ト爲スモ亦其一方ヲ存シ他ノ一方ヲ手仕舞

トナスモ注文者ノ隨筆ナリトス而シテ他人ノ取引ニ對シ其名義ヲ以テ反對ノ取引ヲ爲シ之ヲ兩建ト爲シタル場合ニ於テ若シ双方ノ取引ヲ同時ニ手仕舞ト爲ストキハ双方ノ取引ハ相殺消滅スルヲ以テ他人名義ヲ利用シタル者ハ其取引ヲ以テ自己ノ取引ト爲サントスルモ全ク不能ニ屬シ徒ラニ他人ノ取引ヲ消滅セシムル結果ニ了ハルト雖モ兩建ノ一方ヲ存シ他ノ一方ヲ手仕舞ト爲スナ得ルヲ以テ他人ノ爲シタル取引ハ之ヲ存シ自己カ爲シタル取引ノミ手仕舞ト爲シ損益ノ計算ヲ爲スコトヲ得ヘキカ故ニ他人ノ名義ヲ利用シタルモノハ兩建名義ノ下ニ自己ノ取引ヲ爲スコトハ必スシモ不能ニ非ラス原判決ノ認定ニ依レハ被告ハ田内權太郎カ爲シタル賣建ニ對シ同人ノ符牒ヲ以テ買建ヲ爲シ之ヲ兩建ト爲シタリト云フニ在レハ被告ハ時機ヲ見テ權太郎ノ爲シタル賣建ヲ存シ自己ノ爲シタル買建ノミ手仕舞ト爲スコトヲ得ルモノナレハ原審カ兩建名義ノ下ニ被告自ラ定期米ノ取引ヲ爲サント企テタルモノト説示シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ(大審院大正二年(レ)第一八七〇號同年一月二十九日刑三判決)

(七六)

新聞紙法一九 新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ内容其ノ他檢事ノ差止メタル捜査又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公判ヲ止メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得ス

全三六 第一九條第二〇條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞紙法第一九條ニ據リ命令ヲ以テ新聞紙上ニ或事項ノ掲載ヲ差止メタル以上ハ縱令捜索ノ目的タリシ犯人死亡スルモ其效力ニ影響ヲ及ホス可キモノニアラ

七

苟モ檢事ニ於テ判示ノ如ク新聞紙法第一九條ニ據リ命令ヲ以テ新聞紙上ニ或事項ノ掲載ヲ差止メタル以上之レカ解除ノ命令ニ接セサル以前ニ在リテハ右被差止人タル新聞編輯人ハ該差止事項ヲ新聞紙上ニ掲載スルコトヲ得可カラサル筋合ナレハ原審カ右被告ノ所爲ニ對シ新聞紙法第三六條ヲ適用處斷シタリシハ相當ナリ被告ハ已ニ目的タル犯人ノ死去シタルコト明確ナル本案ノ如キ場合ニ於テハ公訴權ハ茲ニ全ク消滅シ檢事ニ於テハ復タ捜査ヲ爲スノ必要ナキニ至ルト同時ニ之レカ禁止命令亦從テ當然其效力ヲ喪失ス可キモノト論スルモ一旦當該官憲ニ於テ其必要ヲ認メ適式ニ判示ノ如キ禁止命令ヲ發シタル以上期限若クハ條件ノ存スル場合ハ格別其他ノ場合ニ於テハ更ニ該官憲ニ於テ之レカ取消ヲ爲ササル限り該命令ノ效力ハ法律上儼然存シ事實上捜査ノ目的タリシ犯人ノ死亡シタルト否トハ毫モ其效力ニ影響ヲ及ホス可キモノニアラサルコトハ此種ノ命令ニ伴フ當然ノ性質ナレハ原判決ハ何等所論ノ如キ違法アルコトナシ何トナレハ如何ナル時期ニ到ル迄右事項ノ掲載禁止ヲ必要トスルカハ當該官憲ニ非サル以上何人モ他ヨリ之レヲ竊知スルコトヲ得可キモノニアラサレハナリ(大審院大正二年(レ)第二一七八號向年一月二十五日刑二判決)

(七七)

新聞紙法一九 新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ内容其ノ他檢事ノ差止メタル捜査又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公判ヲ止メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得ス

全三六 第一九條第二〇條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 六 公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス
  - 第一 被告人ノ死亡
  - 第二 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄
  - 第三 確定判決
  - 第四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止
  - 第五 大赦
  - 第六 時效

公訴權消滅ノ原因タル事實發生スルモ犯罪事實ヲ消滅セシムルコトナキカ故ニ犯人又ハ嫌疑者死亡シ又ハ其犯罪ニ對シ大赦アリタルトキト雖モ檢事ノ差止命令解除前ニ於テ之ニ違反シ其差止ニ係ル事項ヲ掲載スルハ新聞紙法違反ナリトス

大赦ノ如キハ犯罪事實ヲ消滅セシムルコトナキカ故ニ  
 大赦ノ如キハ犯罪事實ヲ消滅セシムルコトナキカ故ニ  
 大赦ノ如キハ犯罪事實ヲ消滅セシムルコトナキカ故ニ

犯罪人ノ死亡又ハ大赦ノ如キ公訴權消滅ノ原因タル事實發生スレハ犯罪人ニ對シテ刑事法上ノ效果ヲ生セシムルコト能ハサルニ止マリ之カ爲メニ犯罪事實ヲ消滅セシムルコトナケレハ檢事カ新聞紙法ニ依リ犯罪人又ハ犯罪嫌疑者ノ氏名其他ニ關スル事項及ヒ是等ヲ推知シ得ヘキ事項ノ掲載ヲ差止メタル場合ニ於テ其犯罪人又ハ犯罪嫌疑者死亡シ若クハ其犯罪ニ對シテ大赦アリタルトキト雖モ其者ヲ指シテ犯罪人又ハ犯罪嫌疑者ト呼フニ妨ナク又右差止命令ノ解除アラサル限りハ新聞紙ニ差止ニ係ル事項ヲ掲載スルヲ得サルヤ勿論ニシテ其命令ニ違反シテ掲載シタルトキハ新聞紙法違反ナリテ論スルハ當然ナリ(大審院大正二年(レ)第二三二二號同三年一月二〇日刑一判決)

【參照判例】

本書第二卷諸法第五九頁

【參照學說】

- 一 大赦ハ刑法上ノ效果ヲ全滅スルノミニシテ犯罪ニ依ル被告事實ヲ消滅セシムルコト能ハサルカ故ニ被害者ノ損害賠償權ヲ害スルモノニアラス(泉二學士著日本刑法論第一五版五三六頁)
- 二 犯人ノ死去ハ死去者ニ對シ公訴權消滅スルニ止マル既生ノ犯罪事實ヲ消滅セシムルモノニアラス(豊島博士著刑事訴訟法新論第二版二四〇頁)
- 三 大赦ハ科刑權アルコトヲ前提トシテ爲スモノナレハ犯罪事實ヲ消滅セシムル效力アルニアラス(同書二六七頁)
- 四 大赦ハ刑罰權ヲ消滅セシムルニ止マルモノナルヲ以テ其原因タル事實ニ基ク民事上ノ損害賠償請求ニ影響ヲ與フルコトナシ(山岡トクトル著刑法原理三二二三頁)
- 五 大赦ニヨリテ公訴權ノ消滅スル場合ニ於テモ亦大赦若クハ特赦ニヨリテ刑ノ言渡カ其效力ヲ失フ場合ニ於テモ犯罪テフ一般ノ事實ハ之ニ因リテ消滅セサルカ故ニ之ニ因リテ生シタル損害ニ對スル民事賠償ノ請求ハ之ヲ妨クルモノニアラス(藤本博士刑法要論總則六九五頁)
- 六 恩赦ハ犯罪ノ法律上ノ結果タル刑罰ヲ廢止スルモノニシテ既ニ發生シタル處罰行為ヲ消滅セシムルモノニアラス從シ恩赦アルモ處罰行為ハ將來ニ向テ猶其蹟ヲ殘ス(中略)恩赦ハ單ニ刑罰ヲ廢除スルニ止マリ民法上ノ結果タル損害賠償物品ノ返還其他ノ請求權ニ對シテ影響ナシ(小嶋學士著新刑法論八四九頁)

至當ノ判決ナリト信ス

(七八)

醫師法一 免許ヲ受ケシテ醫業ヲ爲シタル者停止中醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條第六條第七條若ハ第一三條第三項但書ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

接骨行為ハ人體ノ創傷ヲ治療スヘキ手術ノ一種ナレハ常藥トシテ之ヲ爲ストキハ醫業ノ範圍ニ屬ス

明治一八年三月内務省甲第七號達實施前ヨリ接骨業ヲ爲ス者ハ格別其他ノ者ハ  
總テ醫師ノ免許ヲ受クルニ非サレハ該業ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

上告趣意被告ハ柔道家ニシテ柔道師範ヲ以テ常業トナシ其傍ラ柔道ノ極意タル殺  
活整骨術ヲ依頼者ニ施シ居タリ之ニ對シ原院ニ於テハ醫師ノ免許ヲ有セスシテ醫業  
ヲ爲シタル者ト判定處罰セラレタレトモ柔道家カ施ストコロノ手術ハ醫業ト稱スヘ  
キモノニアラス柔道家ノ手術ニ對シテハ別ニ接骨業者取締規則ナル警察令アリ之  
レカ免許ヲ有セスシテ手術ヲ爲シタル者ニ對シテハ輕微ナル警察令ヲ以テ處罰スヘ  
キヲ相當トス警察令ニ罰則ノ規定無キノ故ヲ以テ醫師法所犯トシテ罰スルハ所謂比  
附援引ヲ爲スモノニシテ刑罰法ノ許ササルトコロナリト云フニ在レトモ「接骨行爲ハ  
人體ノ創傷ヲ治療スヘキ手術ノ一種ナレハ常業トシテ之ヲ爲スコトカ醫業ノ範圍ニ  
屬スルハ勿論明治一八年三月内務省甲第七號達「入齒齒拔口中治療接骨等營業ノ者ハ  
明治一六年(一〇月)第三四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相  
成候條從來ノ營業者ハ此際各地方廳ニ於テ「鑑札ヲ附與シ相當ノ取締法相立可申此旨  
相達候但既ニ取締法相設居候向ハ本文手續ヲ爲スニ及ハス」トアリテ右達實施前ヨリ  
既ニ接骨業ヲ爲ス者ハ格別其他ノ者ハ總テ醫師ノ免許ヲ受クルニ非サレハ該業ヲ爲  
スヲ得サルモノトス而シテ東京府ニ於テハ明治二四年七月東京府令第五八號ヲ以テ  
入齒齒拔口中治療接骨營業者取締規則ナルモノヲ設ケタレトモ右取締規則ハ從來ノ  
營業者ヲ取締ル爲メノ規定ナルコト其條文中上詢ニ明白ナレハ明治四三年頃ヨリ大正

二年七月一日迄ノ間新ニ行ハレタル本件被告ノ行爲ニ對シ原裁判所カ右取締規則ヲ  
適用セス醫師法第一一條ヲ適用處罰シタルハ正當ニシテ不法ニ非ス故ニ本論旨ハ理  
由ナシ(大審院大正二年(レ)第二三二六號同三年一月二二日刑二判決)  
至當ノ判決ト信ス

(七九)

酒精及酒精含有飲料稅法一六 酒精又ハ酒精含有飲料製造スル者詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ其製造石數ノ  
査定ヲ免カレ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三〇圓ナドコトヲ得ス

酒精及酒精含有飲料稅法第一六條ノ違反罪ノ成立ニハ單ニ其製造石數ノ査定ヲ  
免レタル事實アルヲ以テ足レリトセス更ニ其ノ査定ヲ免ルルニ至リタルハ其免  
許ヲ受ケタル者ノ詐僞其他ノ不正所爲ニ原因スルコトヲ要スルモノトス

酒精及酒精含有飲料稅法第一六條ノ違反罪ノ成立スルニハ酒精含有飲料製造ノ免許  
ヲ受ケタル者カ單ニ其製造石數ノ査定ヲ免レタル事實アルヲ以テ足レリトセス更ニ  
其製造石數ノ査定ヲ免ルルニ至リタルハ其免許ヲ受ケタル者ノ詐僞其他ノ不正所爲  
ニ原因スルコトヲ要ス可キヤ勿論ナリ而シテ原判決ノ判示スルトコロニ依レハ「被告  
人松太郎ハ酒精含有飲料ノ製造及販賣ノ免許ヲ受ケ居ルモノナルカ(中略)犯意ヲ繼  
續シ(中略)製造場ニ於テ一石ニ付キ生葡萄酒五斗砂糖液三斗五升酒精一斗五升單寧酸  
二〇如ボルトエツキス一封度芳香丁幾一〇如ノ割合ヲ以テ二〇回ニ甘葡萄酒二〇石(一  
石ニ付キ純酒精ノ容量二〇圓)ヲ製造シ之ニ割水ヲ爲シテ販賣シ右造石數ノ査定ヲ免

レタルモノナリト云フニ在リテ被告人松太郎カ其製造ニ係ル甘葡萄酒二〇石ノ査定  
ヲ免レタル事實ハ之ヲ認ムルニ足ルモ其製造石數ノ査定ヲ免レタル被告人松太郎ノ  
詐偽其他不正ノ所爲ニ原因シタル事實ハ判文上不明瞭ナルヲ以テ原判決カ前記判示  
事實ニ對シ直ニ酒精及酒精含有飲料稅法第一六條ヲ適用シテ處斷シタルハ失當ニシ  
テ原判決ニハ被告人松太郎カ酒精及酒精含有飲料稅法第一六條ニ違反シタル事實ノ  
確定不充ナル違法アリ(大審院大正二年(レ)第二三三一號同三年一月二三日刑一判決)

(八〇)

新聞紙法四一 安寧秩序ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又  
ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞ノ記事カ言語文章ノ上ニ於テ直接又ハ間接ニ安寧秩序ヲ害スヘキ事項ヲ表  
明シタルモノニ非サルトキハ起草者ノ眞意如何ニ拘ハラズ新聞紙法第四一條ニ  
抵觸スルコトナキモノトス  
人ノ惡事醜行ヲ摘發シテ之ヲ罵倒シ其逮捕ヲ求ムルカ如キハ他ノ犯罪ヲ構成ス  
ルコトアリトスルモ安寧秩序ヲ害スヘキ記事ヲ掲ケタルモノトシテ新聞紙法ノ  
制裁ヲ受クヘキモノニ非ス

新聞紙法  
第四一條  
ノ意義  
事ヲ安  
寧秩序  
ヲ害ス  
ル事項  
ニ依リテ  
之ヲ推知  
シ得ヘキ  
場合ヲ包  
含スト雖  
モ其記事  
カ言語文  
章

新聞紙法第四一條ニ所謂安寧秩序ヲ害スヘキ記事トハ其言語文章カ直接ニ安寧秩序  
ヲ害スヘキ事項ヲ表明シタル場合ハ勿論安寧秩序ヲ害スヘキ事項ヲ言外ニ包藏スル  
ニトカ其言語文章ニ依リテ之ヲ推知シ得ヘキ場合ヲ包含スト雖モ其記事カ言語文章

ノ上ニ於テ直接又ハ間接ニ安寧秩序ヲ害スヘキ事項ヲ表明シタルモノニアラサルト  
キハ起草者ノ眞意如何ニ拘ハラズ第四一條ノ法規ニ抵觸スルコトナシ又新聞紙上ニ  
於テ人ノ身體財產ニ重大ナル危害ヲ加フヘキコトヲ以テ公衆ヲ煽動スルハ新聞紙法  
第四一條ノ意義ニ於テ安寧秩序ヲ害スヘキ事項タルヤ明カナリト雖モ人ノ惡事醜行  
ヲ摘發シテ之ヲ罵倒シ其逮捕ヲ求ムルカ如キハ其社會ニ及ホス危害深甚ナラサルヲ  
以テ縱ヒ他ノ犯罪ヲ構成スルコトアリトスルモ安寧秩序ヲ害スヘキ記事ヲ掲ケタル  
モノトシテ新聞紙法ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラス今原判決ニ認ムル事實ニ依リ被  
告等ノ行爲カ安寧秩序ヲ害スヘキ事實ヲ新聞紙ニ掲載シタルモノトシテ新聞紙法第  
四一條ノ犯罪ヲ構成スルヤ否ヤヲ審案スルニ原院カ被告昌夫ノ發行兼編輯人タル新  
聞不ニ第二三號ニ四日馬將軍(五)美人繪ノ衝立ト題シ原審相被告宮武外骨ノ署名ヲ  
以テ掲載セラレタリト認メタル記事ハ讀者ノ一人ト外骨トノ間ニ交換セラレタル問  
答體ノ談話ヲ内容トシ續續數百言ニ渉ルモ其要旨トスル所ハ「被告外骨ノ主宰スル不  
二新聞ハ他ノ新聞ト其撰ナ異ニシ桂太郎ヲ暗殺セサルヘカラス高崎親章ハ賄賂取惡  
者ナリト云フカ如キ記事カ每號掲載セラレハシト期待セルニ其記事溫和ニ失スルハ  
社員ノ活氣ニ乏シキノ致ス所ニアラスヤト思惟シ云々」トノ質問ニ對シ外骨カ「ハラツ  
ク」内ニ於テ新聞紙ヲ創ムルハ奇矯ヲ街フカ爲メニアラス小資本ヲ以テ成功セントス  
ルニ在リ云々不ニ新聞ハ潤澤ナル資本ハ勿論必要ナル資本タモ有セサルヲ以テ社員  
ノ給料ノ支拂並ニ紙代ノ支拂ニスラ窮スル狀態ナレハ桂太郎ノ首ヲ斬レ高崎親章ヲ  
捕縛セヨト云フカ如キ記事ヲ每號掲載シ得ヘント思惟スルハ迂濶ニ失セスヤ」ト反問

シタルニ在リ其桂太郎ヲ暗殺セサルヘカラスト云ヒ高崎親章ハ賄賂取悪者ナリト云ヒ又桂太郎ノ首ヲ斬レト云ヒ高崎親章ヲ捕縛セヨト云フ言語ハ極メテ不謹慎ニシテ矯激ニ涉ルト雖モ其記事ノ全體ヲ熟讀玩味スルトキハ是人ノ好奇心ヲ挑發セントスル一種ノ大言壯語ニシテ問ヲ發シタル讀者ハ被告外骨ノ主宰スル新聞タル以上ハ人ノ耳目ヲ聳動スヘキ奇抜ナル記事ナカルヘカラストシ叙上不穩ノ言語ニ借リ來リテ外骨ヲ擲論シ外骨之ニ對シ不二新聞ハ其經營ニ必要ナル資本ヲ欲クテ以テ斯ル大言壯語ヲ爲シテ奇矯ヲ街フノ餘裕ヲ有セサルコトヲ辯解シタルニ外ナラスシテ該記事ハ其言語文章ノ上ニ於テ直接又ハ間接ニ桂太郎ノ斬首高崎親章ノ捕縛ヲ眞面目ニ煽動又ハ獎勵シタルモノト認ムルヲ得サルノミナラス寧ロ言語ヲ誇張シ徒ラ二人ノ好奇心ニ投セント試ミタル一種ノ諧謔的問答ヲ掲載シタルニ過キササルヲ以テ斯ル記事ハ讀者ヲ挑發シテ何等危險ナル思想ヲ懷カシムヘキモノニアラス從テ我國ノ安寧秩序ハ之レカ爲メ毫モ紊サレヘキモノニアラス況ンヤ高崎親章ヲ賄賂取悪者ト云ヒ之ヲ捕縛セヨトイフカ如キハ安寧秩序ニ何等ノ關係ヲ有セサルコトハ前段説明ノ如クナルニ於テオヤ故ニ本件被告ノ所爲ハ新聞紙法第四一條ノ犯罪ヲ構成セサルモノナレハ被告ニ對シテハ無罪ヲ言渡スヘキモノナルニ原院力之ニ據スルニ同條ノ刑ヲ以テシ第一審判決ヲ是認シ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ失當ナリ(大審院大正二年(レ)第二〇八六號同年一月一三日刑三判決)

雇人口入業者ノ受クヘキ手数料ノ額ハ一ニ雇給額ノ如何ニ依テ定マルモノニシテ其以外ノ収入ノ多寡若クハ雇傭方法ノ複雑ナルト簡單ナルトニ依リ定マルモノニアラス」

雇給トハ雇主ヨリ受クヘキ給料ヲ謂フモノニシテ前借金又ハ纏頭ノ如キハ雇給以外ノ収入ニ屬スルモノトス」

明治三六年警視廳令第三一號雇人口入營業取締規則第一四條ニ雇給額ノ定マラサルモノトハ給料ノ全然定メナキカ又ハ假令定メアルモ極メテ僅少ニシテ定メナキト同視スヘキモノヲ指シタルモノトス」

明治三六年警視廳令第三一號雇人口入營業取締規則第一四條ニハ手数料ハ雇傭契約期間内ニ於テ受クヘキ雇給總額一〇分ノ一以內トス雇給額ノ定マラサルモノハ其所得チ一箇月二圓五〇錢以下ト見積ルコトヲ得トアルニ徴スレハ雇人口入業者ノ受クヘキ手数料ノ額ハ一ニ雇給額ノ如何ニ依テ定マルモノニシテ其以外ノ収入ノ多寡若クハ雇傭方法ノ複雑ナルト簡單ナルトニ依リ定マルモノニアラスト謂ハサルヲ得ス而シテ雇給トハ雇人口入業者ヨリ受クヘキ給料ヲ謂フモノニシテ前借金又ハ纏頭ノ如キハ雇給以外ノ収入ナルコト論テ俟タス從ツテ其額ハ手数料ヲ定ムルノ標準ト爲ルモノニ非ス上告人ハ雇人口入營業取締規則第一四條ニ依レハ雇給額ノ定マラサルモノトハ總テ所得極メテ僅少ナル雇人口入業者ヲ指スモノニシテ本件雇人口入業者ノ如キ多額ノ収入アルモノノ謂ニ非スト論スルモ同條ニハ雇給額ノ定マラサルモノトハ一定ノ給料ヲ

ク若ハ僅少ナル金品ノ給與ヲ受クル者等ヲ謂フトアリテ給料ノ全然定メナキカ又ハ  
假令定メアルモ極メテ僅少ニシテ定メナキト同視スヘキモノヲ指シタルモノニシテ  
給料以外ノ收入ニ付テハ毫モ問フ處ニ非ルカ故ニ到底所論ノ如ク解スルヲ得サルモ  
ノトス原判決イ認定ニ依レハ被告ハ淺井ムメチ島山ハル方ニ年期及ヒ給料共ニ未定  
ニテ雇人トシテ周旋ヲ爲シ右兩名ヨリ二圓五〇錢宛受取リタルモノナレハ雇人口入  
營業取締規則第一四條ニ依リ雇給額ノ一箇月二圓五〇錢以下ト見積リ同條所定ノ手  
數料ヲ申受クヘキ管ナルニ其額ヲ超過シタルモノヲ取得シタルハ同條ニ違背シタル  
モノナルコト明瞭ナリトス故ニ原審カ同條及同第二一條並ニ明治四一年同條令第五  
七號第二條ヲ適用處斷シタルハ相當ナリ(大審院大正二年(レ)第二〇四九號同年一二月  
一〇日刑三判決)

八二

裁判所構成法四八 大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其ノ訴訟一切ノ事ニ付下級裁判  
所ヲ羈束ス 民事訴訟法四五〇 事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ上告裁判所ノ爲シタル法律ニ係ル判斷ニシテ判決ヲ破  
毀スル基本トナシタルモノヲ以テ新ナル辯論及ヒ裁判ノ基本トナス義務アリ  
土地收用法四八 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ  
大審院カ上告事件ニ付キ判決ヲ爲スニ當リ控訴審ノ判決ヲ破毀シタル場合ニ於  
テハ其法律ノ點ニ關スル判斷ニシテ判決破毀ノ基本ト爲シタルモノニ限り下級  
裁判所ヲ羈束スルモノトス

裁判所構成法第四八條ニハ大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付キ表シタル  
意見ハ下級裁判所ヲ羈束ストアリテ其法律ノ點ニ關スル意見ニ付テハ制限アルコト  
ヲ明示セスト雖モ同法條ハ大審院カ裁判權ヲ有スル總般ノ事件ニ付キ爲ス裁判ニ關  
シ廣ク原則ヲ示シタルモノナレハ之レヲ以テ直ニ其法律ノ點ニ關スル一切ノ意見ニ  
羈束力アルコトヲ定メタルモノト解ス可キニ非ス而シテ民事訴訟法第四五〇條ニハ  
上告裁判所ノ爲シタル法律ニ係ル判斷ニシテ判決破毀ノ基本ト爲シタルモノヲ以テ  
新ナル辯論及ヒ裁判ノ基本ト爲スヘキ旨規定シアリテ此規定ハ前示裁判所構成法ノ  
規定ニ基キ之ヲ敷衍シタルモノト解ス可キヲ以テ兩法條ヲ參照スレハ大審院カ上告  
事件ニ付キ判決ヲ爲スニ當リ控訴審ノ判決ヲ破毀シタル場合ニ於テハ其法律ノ點ニ  
關スル判斷ニシテ判決破毀ノ基本ト爲シタルモノニ限り下級裁判所ヲ羈束スル法意  
ナルヲ疑フ容レズ本件ノ訴訟記録ヲ調査スルニ當院カ曩ニ本件ニ付キ與ヘタル判決  
ノ理由中原裁判所ノ判決ヲ破毀スル基本ト爲リタルモノハ土地收用ニ因ル損失補償  
ノ標準時期ニ關スル部分ニ非スシテ其損失補償ノ標準價格ニ關スル部分ナルコト明  
白ニシテ其損失補償ノ標準時期ニ關スル部分ニ付テハ原裁判所ヲ羈束セサルニ拘ハ  
ラス原裁判所カ之ニ羈束セラルルモノトシテ判決シタルハ上告人所論ノ如ク失當タ  
ルヲ免レス然レトモ土地收用ニ因ル損失ノ補償額ハ收用ノ時期ニ於ケル收用地ノ價  
格ヲ標準ト爲スヘキコトハ當院カ從來判例トシテ是認スル所ナリ故ニ原裁判所カ收  
用ノ時期ニ於ケル收用地ノ價格ヲ標準トシテ本件土地收用ニ因ル損失補償金額ヲ定  
メタルハ結局正當ナルニ歸スルヲ以テ上告論旨ハ原判決破毀ノ理由ト爲スニ足ラス



【參照學說】

(大審院大正二年(才)第三四一號同年一月一日民一判決)

一 訴訟事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所カ更ニ辯論及裁判ヲ爲スニ當リテハ上告裁判所ノ法律上ノ判斷ニシテ原判決ヲ破毀スルノ基礎ト爲リタルモノヲ以テ其基礎ト爲スヘキモノトス(四五〇)故ニ訴訟事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ上告裁判所ノ法律上ノ判斷ニ基キテ辯論ヲ爲シ且ツ裁判ヲ爲ササルヘカラサルナリ加之ナラス大審院カ上告裁判所タル場合ニ於テハ裁判ヲ爲スニ當リテ示シタル其法律上ノ意見ハ原判決破毀ノ基礎ト爲ラサルモノト雖モ訴訟事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ヲ羈束スルモノトス蓋シ大審院カ或訴訟事件ニ付キ裁判ヲ爲スニ當リテ示シタル法律上ノ意見ハ其訴訟事件ニ付キ總テ下級裁判所ヲ羈束スルモノナルヲ以テナリ(裁權四八)然レトモ上告裁判所カ大審院ニ非サルトキハ其法律上ノ意見ハ原判決破毀ノ基礎ト爲リタルモノノ外訴訟事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ヲ羈束スルコトナシト知ルヘシ(仁井田博士民事訴訟法要論中卷九二四頁)

二 差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ上告裁判所ノ爲シタル法律上ノ判斷ニシテ判決ヲ破毀スルノ基本ト爲シタルモノヲ以テ新ナル辯論及裁判ノ基礎ト爲スコトヲ要ス(四五〇)(岩田學士民事訴訟法原論八三七頁)

三 上告裁判所ノ法律上ノ判斷ハ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ヲ羈束スルモノトス(板倉學士民事訴訟法綱要四八〇頁)

四 又判決破毀ノ基礎トナリタル上告裁判所ノ法律上ノ判斷ヲ新ナル辯論及裁判ノ基本ト爲スノ義務アリ即チ該判斷ニ羈束セラルルモノナリ(民事訴訟法四八二第二項)法律上ノ判斷トハ上告裁判所カ判決ノ理由ニ於テ表示セル宣言ニシテ主トシテ控訴裁判所カ其確定シタル事實ニ付キ爲シタル規則ノ適用ノ不當ナルコト及ヒ如何ナルモノカ正當ノ法則ナルカチ明カニスル内容ヲ有スルモノニシテ其意義法律ヨリ博シ隨テ上告裁判所ノ證書ノ解釋ノ如キ事項ハ法律上ノ判斷ニ屬ス又判決破毀ノ基本トナリタル法律上ノ判斷ハ誤リタルト上告裁判所カ同一ノ事件ニ於テ改メタルト及ヒ法律ノ變更ニ依リ改ムヘキモノナルト否トナ間ハス控訴裁判所ヲ羈束ス然レトモ斯ル判斷ニアラシテ唯附加シタルニ過キサル法律上ノ見解ハ控訴裁判所ヲ羈束セス從テ此點ニ關シテハ控訴裁判所ハ自由ニ判斷ヲ爲ササルヘカラス(今村氏民事訴訟法第一編中央大學講義錄二五三頁)

舊漁業法三 漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區畫シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ントスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其免許ヲ受クヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

前項ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ必要ト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

舊漁業法施行規則三三 漁業權ノ相續讓渡若クハ共有アリタルトキハ相續人又ハ當事者双方ハ申請書ニ其事由ヲ證スヘキ書面及免許狀ヲ添附シ三十日以内ニ免許狀ノ書換ヲ行政官廳ニ申請スヘシ

同六五 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三三條第一項第五一條第五四條第五六條ノ規定ニ違背シ又ハ入漁者ノ權利ニ付相續讓渡若クハ共有アリタル場合ニ登錄證ノ書換ヲ申請セサルトキ(以下略)

漁業法施行規則六四 本則施行前漁業ニ關シ得務大臣又ハ地方長官ノ發シタル命令ノ規定ニシテ漁業法又ハ本則ノ規定ニ抵觸セサルモノハ漁業法及本則ニ依リ之ヲ發シタルモノト看做ス

民法九四 相手方ト通シテ爲シタル虛偽ノ意思表示ハ無効トス

前項ノ意思表示ノ無効ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

漁業權者カ其漁業權ヲ保有シナカラ單ニ之レカ名義ノミヲ他人ニ移シテ以テ債權ノ擔保ト爲ス契約ハ舊漁業法ノ許ササル事項ヲ目的トセルモノナルヲ以テ無効ナリトス

虛偽ノ意思表示ニ基ク漁業權ノ取得登錄ヲ恰モ正當ニ成立シタルモノノ如ク認メ債務ヲ辨濟スルニ非サレハ之ヲ抹消スルコトヲ得サルモノノ如ク判示シタルハ虛偽ノ意思表示ニ何等カノ效力アラシメタルモノナルヲ以テ其判決ハ理由齟齬ノ不法アルモノトス

舊漁業法第三條ニ依リ行政官廳ノ免許ヲ得テ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有スル者ハ同法又ハ同法ニ基キ發セラレタル命令ノ規定ヲ遵守セサル可カラサルト同時ニ行政官廳モ亦タ常ニ其遵守如何ヲ監視スルノ必要アリ是レ舊漁業法施行規則第二八條以下ニ於テ行政官廳ハ漁業ノ免許ヲ與フルトキハ漁業權者又ハ代表者ノ氏名若クハ名稱及住

所其他ノ事項ヲ記載シタル免許狀ヲ下付シ且免許漁業原簿ニ之カ登録ヲ爲シ又漁業權ノ相續讓渡若クハ共有アリタル場合ニ於テ相續人又ハ當事者双方ノ申請ニ因リ免許狀ノ書換ヲ許可シタルトキハ相續又ハ讓渡ニ關シテハ其事由年月日及相續人若クハ讓受人又ハ其代表者ノ氏名若クハ名稱及住所共有又ハ代表者ノ變更ニ關シテハ其事由年月日及代表者ノ氏名若クハ名稱及住所ヲ原簿ニ登録スル等漁業ニ關スル幾多ノ事項ヲ漁業原簿ニ登録スヘキコトヲ規定セル所以ニシテ漁業原簿ハ行政官廳力漁業ヲ監視スル上ニ於ケル便宜ノ爲メタルト同時ニ利害關係ヲ有スル第三者ノ便宜ノ爲メニ設備セラレタルモノナレハ之ニ登録スル事項ハ實際ノ事實ト符合スルナリ期スヘキコト至當ナルノミナラス舊漁業法施行規則第三三條ニ於テ漁業權ノ相續讓渡若クハ共有アリタルトキハ相續人又ハ當事者双方ハ申請書ニ其事由ヲ證スヘキ書面及免許狀ヲ添付シテ三〇日以内ニ免許狀ノ書換ヲ行政官廳ニ申請スヘキコトヲ規定シ而シテ同規則第六五條ニ於テ右ノ申請ヲ爲ササル者ハ二五圓以下ノ罰金ニ處セラルヘキコトヲ規定セリ此ノ如ク罰金ノ制裁ニ依リテ申請手續ヲ強ニルニ由テ之ヲ觀ルモ漁業原簿ニ登録スル事項ハ實際ノ事實ト符合スルナリ期シ漁業權ヲ有セシ者ト雖モ既ニ之ヲ失ヒタル以上ハ三〇日ノ期間後尙ホ漁業權者ノ名義ヲ保ツコトヲ許ササルト共ニ相續讓渡若クハ共有ニ因リ新ニ漁業權ヲ取得シタル者カ其前主ニ漁業權者ノ名義ヲ保タシムルコトヲ許ササル法意ナルコト寔ニ明白ナレハ現ニ漁業權ヲ有スル者カ其權利ヲ自己ニ保有シナカラ他人ヲシテ單ニ漁業權者ノ名義ノミヲ保タシムルコトハ目的ノ如何ニ拘ハラズ舊漁業法ノ許ササル所タルコト勿論ナリトス今本件ノ

ノ取ト基思慮  
殊得漁ク表偽  
情登業賣示ノ  
錄權買ニ意

事實ヲ考フルニ被上告人ハ樺太西海岸第二ロスポナイボ漁場會根地先第二〇八號定置漁業權ヲ有スルモノナルニ近藤孫三郎ニ對シ金四三三〇圓ノ債務ヲ負擔セシヨリ明治四一年二月二五日孫三郎トノ間ニ甲第九號證契約ノ成立シタルコト當事者間爭ナキ事實ナルモ被上告人ト孫三郎間ニハ漁業權ハ勿論之レカ占有ヲモ移轉スルノ意思アリタルニ非ス單ニ漁業權ヲ孫三郎ノ名義ニ移シ以テ同人ノ債權ヲ擔保スル爲メ名ヲ賣買ニ藉リ免許狀ノ書換ヲ受ケタルモノニテ甲第九號證ノ賣買及貸借借カ假裝ノモノナルコトハ原院ノ確定スル所ナリ果シテ然ラハ假令被上告人ト孫三郎トノ間ニハ被上告人ニ於テ漁業權ヲ保有シナカラ單ニ之レカ名義ノミヲ孫三郎ニ移シテ債權ノ擔保ト爲スノ契約締結セラレタルニセヨ其契約ハ舊漁業法ノ許ササル事項即チ法律上不能ノ事項ヲ目的トセルモノニシテ無効タルヲ免カレス然ルニ原院ハ斯ル契約ハ法律上ニ妨ケナキモノトシ之ヲ有效ト爲シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル不法アルモノト謂フヘシ加之ナラス原院ハ判決理由ノ第二ニ於テ甲第九號證ノ契約ハ真正ノ賣買ニ非ス單ニ名ヲ賣買ニ藉リ本權ハ勿論其占有ヲモ移轉スルノ意思ナクシテ之ヲ債務ノ擔保ニ供シ且同號證第一四條ニ於テ債務ノ辨濟期ヲ定メタルモ其期限ハ同時ニ近藤ノ取得セル漁業權ヲ被上告人ニ返還スル爲メノ期限ニ非スシテ該期限經過後ト雖モ債務ヲ辨濟スレハ何時ニテモ漁業權名義ヲ被上告人ニ回復スヘキ特約ノ存セシモノニシテ被上告人カ依然漁場ヲ占有シ漁業權ヲ行使スルノ必要上之レカ貸借借假裝セルモノト推認スルヲ妥當トスル旨判示シ又同理由第四ニ於テ上告人ハ當初ヨリ本訴ノ漁業權カ被上告人ノ權利ニシテ近藤孫三郎ニ對スル債務ノ擔保ニ

供セラレ只表面近藤名義ニ移轉セラレアルコト及讓受ノ際被上告人ト近藤間ニ現  
 其漁場ニ付キ争訟アルコトヲ熟知シナカラ近藤勝訴ノ結果ヲ萬一ニ憶望シテ明治四  
 二年一月二四日之ヲ買受ケ表面借受名義ニ登録シ暫ク形勢ヲ觀望シタリシカ被上  
 告人ヨリ和解ノ申出アルヤ返還ヲ困難ナラシメントシ僅カニ二旬ヲ出テサル間ニ急  
 遽漁業權ノ取得登録ヲ爲シタルモノト推斷セサルヘカラス即チ上告人ハ被上告人ト  
 近藤間ノ假裝買行爲ニ付惡意ノ第三者ニシテ該行爲ノ無効ヲ對抗セラルル地位ニ  
 在ルヲ以テ近藤ト上告人間ノ讓渡契約モ亦自ラ無効ニ歸シ漁業權上告人ニ移轉セサ  
 ルカ故ニ其取得登録ハ原因ナキモノナレハ之カ抹消ノ手續ヲ爲スヘキ義務アルヤ當  
 然ナル旨判示セリ此等判示ニ依レハ原院ハ甲第九號證動産不動産賣買及貸借契約  
 ハ當事者ノ相通シテ爲シタル虛偽ノ意思表示ナリト判定シタル者ナルコト疑ヲ容ル  
 ルノ餘地ナシ然レハ虛偽ノ意思表示ハ無効ナルカ故ニ假令被上告人ト近藤孫三郎ト  
 ノ間ニ於テハ漁業權者ノ名義ヲ以テ債務ノ擔保ト爲シタルニセヨ甲第九號證ニ基キ  
 爲サレタル孫三郎ノ漁業權取得登録ハ原因ナキモノニシテ當然抹消セララルヘキモノ  
 ナルコト勿論ノ筋合ナルニ理由ノ第三ニ於テ係争漁業權(名義)ノ謂ヒナルコト全體ノ  
 判示ニ依リ明カナリ)ヲ以テ擔保セラルル被上告人ノ債務ハ全部消滅シタルモノナレ  
 ハ近藤孫三郎ハ被上告人ニ對シ本訴漁業權ノ取得登録ヲ抹消シ其名義ヲ被上告人ニ  
 回復スルノ手續ヲ爲スヘキ義務アルヤ論ヲ俟タサル旨判示シ虛偽ノ意思表示ニ基ク  
 孫三郎ノ取得登録ヲ恰モ正當ニ成立シタルモノノ如ク認メ被上告人ニ於テ債務ヲ辨  
 済スルニ非サレハ之ヲ抹消スルコトヲ得サルモノノ如ク説明シタルハ即チ虛偽ノ意

【參照判例】

思表示ニ何等カノ效力アラシメタルモノニ外ナラサルヲ以テ原判決ハ理由頗爾ノ不  
 法アルモノト謂ハサルヲ得ス(大審院大正二年(オ)第五〇八號同年一月二六日民二判  
 決)

漁業權ハ行政官廳ノ免許ヲ得タル者ニ限り之ヲ有スヘキモノナレハ縱令其免許ヲ得タル者ト他人トノ間ニ如何ナル契約アリト  
 スルモ名義人以外ノ者ハ漁業權ヲ有スルモノト云フコトヲ得ス(大審院民事判決錄四〇年一二八五頁)

(八四)

出版法七 文書圖書ノ發行者ハ其ノ氏名住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載スヘシ  
 同二四 發行者自己ノ氏名住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖書  
 ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三〇圓以下ノ罰金ニ處ス  
 文書圖書ノ發行者ハ必ス文書圖書ノ末尾ニ其氏名ヲ記載スルコトヲ要スルモノ  
 ニシテ商號ヲ記載シテ其氏名ノ記載ニ代フルコトヲ得サルモノトス  
 出版法ハ會社其他ノ自然人ニ非サル者カ其資格ニ於テ文書圖書ヲ發行スルコト  
 ヲ認メサルモノトス

上告趣意商人カ其氏名ヲ使用スル代リニ商號ヲ以テスルコトハ公認ノ事實ナリ出版  
 法第二四條ニ所謂發行人ノ氏名中ニハ其商號ヲ包含スルモノナリト解ス然ラサレハ  
 氏名ナキ會社カ發行人トナル場合ノ如キハ常ニ該條ノ刑ニ觸ル可キニ至レハナリ本  
 件山内文賣堂カ山内由次郎ノ商號ナル以上ハ該條ヲ適用ス可キ限リニアラサルヤ明  
 カナリ然ルニ其商號ナルヤ否ヤニ審究セラレス漫然該條ヲ適用セラレタル原判決ハ

會社其他  
自自然人  
非法人者  
ハ文書圖  
畫ヲ發行  
スルコト  
ヲ得ス

不法ノ裁判ナリト云ハサル可カラスト云フニ在リ案スルニ明治三二年内務省告示第  
八〇號出版ニ關スル願肩書式ノ記載ノ趣意等ヨリ考察スレハ發行者ハ其發行ニ係ル  
文書圖畫ニ其氏名ノ外商號ヲ記載スルコトヲ妨ケサル可シト雖モ出版法第七條ニ依  
レハ發行者ハ其氏名ヲ文書圖畫ノ末尾ニ記載ス可キモノナルヲ以テ商號ヲ記載シテ  
其氏名ノ記載ニ代フルコトヲ得サルハ勿論ナルヲ以テ被告人由次郎カ判示アキレ申  
候ト題スル文書ニ單ニ山田文貢堂トノミ記載シ其名ヲ記載シ置カサリシハ明ニ出版  
法第二四條ノ規定ニ違反シタルモノトス論旨ニ依レハ前項法條ハ適法上若シ商號ヲ  
氏名ト同視スルコトヲ得サルモノトスレハ例之會社ノ如キハ其氏名ヲ有セサル結果  
發行者ト爲リタル場合ニ於テハ毎ニ同法條ニ違背スルモノト云ハサルヲ得スト推斷  
スト雖モ出版法ノ法意ハ會社其他自自然人ニ非サル者カ其資格ニ於テ文書圖畫ヲ發行  
スルコトヲ認メサルニ在リト解釋ス可キモノナリトス本論旨理由ナシ(大審院大正二  
年(九)第二一七七號同年一月十九日刑一判決)

【參照判例】

出版法第一五條ハ學校會社等團體ノ名義ヲ以テスル著作物ハ之ニ對シ責任ヲ負フ者及ヒ權利ヲ有スル者ノ團體全員ナリヤ否ヤ  
ヲ判定スルニ困難ナルヲ以テ一ノ撰制ニ依リ著作ニ關與ノ有無ヲ問ハス其團體ノ代表者ヲ著作者ト看做シタルモノトス從テ此  
等團體ノ代表者ハ著作ノ責任ヲ負擔スルト同時ニ著作權者トシテ行動スルコトヲ得(大審院刑事判決錄三七年一三五二頁)

(八五)

銀行條例一 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及ヒ貸付ヲ併セ  
爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用キルニ拘ハス總テ銀行トス

銀行條例第一條ノ行爲ヲ爲スモノハ縱令第二條第一項ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ  
受ケストスルモ仍ホ之ヲ銀行ト認ムヘキモノトス

貯蓄銀行條例第一條第二項ニ所謂銀行ニ於テトハ實質上銀行條例第一條ノ行爲  
ヲ爲スモノニ於テトノ意義ニ解スヘキモノトス

銀行事業ニ必要缺クヘカラスル事項ハ預金契約ノ趣意ニ從ヒ要求拂及ヒ定期拂  
等ノ債務ヲ負ヒ預金者ニ對シテ預金返還ノ責ニ任シ他ノ一面ニ於テハ貸付等ノ  
方法ニ依リテ資金ヲ運用スルニ在ルモノトス

公ニ開キタル店舗ニ於テ營業シタルヤ否ヤ積立金ニ付テハ果シテ要求拂及ヒ定  
期拂等ノ債務ヲ負擔シタルヤ否ヤ等不明ナル場合ハ未タ法律上銀行ナリト言フ  
ヲ得サルモノトス

銀行條例第一條ニ依レハ公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ  
爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及ヒ貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用キルニ拘ハラズ總  
テ銀行ト認ムヘキヲ以テ苟モ上叙ノ行爲ヲ爲スモノハ縱令同條例第二條第一項ニ依  
テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケストスルモ仍ホ之ヲ銀行ナリト云ハサルヲ得ス故ニ貯蓄銀

行條例第一條第二項ニ所謂銀行ニ於テトハ實質上叙ノ行爲ヲ爲ス者ニ於テノ意義  
ニ之ヲ解スヘク必スシモ銀行タルノ認可ヲ受ケタルモノナルコトヲ要セサルヲ以テ  
第二論旨ハ其理由ナシ而シテ原判決ハ論旨所掲ノ事實ヲ認定シ其法律適用ノ部ニ於  
テ直ニ判示共融株式會社カ多數ノ會員ヨリ預金ヲ爲サシメ之ヲ貸付ケタル行爲ハ銀  
行條例第一條所定ノ行爲ナルヲ以テ同會社ハ之ヲ銀行ト謂フヘク云云ト擬律シタリ  
ト雖トモ本院大正二年(ク)第二〇七號判例ノ趣旨ニ依レハ銀行事業ニ必要缺クヘカラ  
サル事項ハ預金契約ノ趣意ニ從ヒ要求拂及ヒ定期拂等ノ債務ヲ負ヒ預金者ニ對シテ  
預金返還ノ責ニ任シ他ノ一面ニ於テハ貸付等ノ方法ニ依リテ資金ヲ運用スルニ在リ  
テ本院大正元年(レ)第二〇九五號第一點ノ判示ハ其趣意ニ於テ多少ノ變改ヲ受ケタル  
ニ拘ハラズ原判決ノ確定シタル事實ニ依レハ判示會社ニ於テ會員ノ積立金ヲ收納シ  
タルコト及ヒ貸付ヲ爲シタルコトハ之ヲ認メ得ヘキモ判示會社ニ於テ公ニ開キタル  
店舗ニ於テ營業シタルヤ否ヤ積立金ニ付テハ果シテ要求拂及ヒ定期拂等ノ債務ヲ負  
擔シタルヤ否ヤ等ハ全然不明ニシテ未俄カニ該會社ヲ法律上銀行ナリト論斷スルコ  
トヲ得ス又該會社ニシテ若シ銀行ニ非ストセハ貯蓄銀行條例第一條第一項ニ規定ス  
ル如ク更ニ複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ミタル事實ヲ判示スルニ非  
サレハ之ヲ原判決ニ掲記スル處斷法條ニ觸ルルモノト爲スコトヲ得サルヲ以テ原判  
決ノ認定シタル事實ノミニ依リテハ被告人八男三カ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ貯  
蓄銀行ノ業ヲ營ミタリトノ罪責ヲ判定スルコトヲ得ス第一論旨ハ理由アリ(大審院大  
正二年(レ)第一八七四號同年一月二日刑一判決)

【參照學說判例】

本書第二卷商法二五七頁三五〇頁

農會令一四 總會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ召集スル暇ナシト認ムルトキハ會長ハ專決處分  
スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ總會ノ承認ヲ求ムヘシ  
同二〇 農會ノ經費ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員ノ負擔トシ其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ負擔  
トス

市町村農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ物件ヲ以テ經費ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得  
市町村ニ必要ト認ムルトキハ監督官廳ノ許可ヲ得テ市町村農會ニ補助ヲ爲スコトヲ得  
同二二 農會ハ毎年總會ニ於テ經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ議決シ二月末日迄ニ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ  
經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ變更セントスルトキハ總會ノ議決ヲ經テ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

明治三八年勅令第二二五號農會令第二〇條ハ單ニ農會經費ノ負擔者ヲ定メタル  
ニ過キサレハ同第二二條ノ手續ヲ履踐スルニ非サレハ各會員カ負擔スヘキ經費  
ノ存否及ヒ其數額并ニ支拂ノ時期等ハ確定セサルモノトス

明治三八年勅令第二二五號農會令第二〇條ニハ農會ノ經費ハ市町村農會ニ在リテハ  
其會員ノ負擔タルコトヲ規定スト雖モ之ヲ同第二二條ノ農會ハ毎年總會ニ於テ經費  
ノ豫算及ヒ分賦收入ノ方法ヲ議決シ二月末日迄ニ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシトノ規  
定ニ對照スルトキハ同第二〇條ハ單ニ農會經費ノ負擔者ヲ定メタルニ過キスシテ第  
二二條ノ手續ヲ履踐スルニ非サレハ各會員カ負擔スヘキ經費ノ存否其數額及ヒ支拂  
ノ時期等未タ確定メス即農會ヨリ各會員ニ對スル經費分擔請求權ノ存否未タ確定

セサルモノト解セサルヘカラス本件ニ於テ西嶽村農會カ其經費ニ付キ前示農會令第  
二二條ノ手續ヲ履踐セサルコトハ原判決ノ確定セル事實ナレハ被上告人等カ右農會  
ニ對シ納入スヘキ經費ノ負擔モ未タ確定セサルモノトシ從テ上告人ハ右農會ニ代位  
シテ本訴ノ請求權ヲ行使スルコト能ハサルモノト原審ニ於テ判定セルハ正當ナリ上  
告諭旨ハ農會令第一四條ノ規定ニ付云爲スル所アルモ之原判示ニ副ハサル不當ノ論  
難ヲ試ムルモノナレハ結局本論旨ハ理由ナシ(大審院大正二年(オ)第四六九號同年一  
月一三日民一判決)

(八七)

特許法七一

審判請求書ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被請求人ニ送達シ期間ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシメ其ノ答  
辯書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送達スヘシ

審判ニ關シテハ當事者ノ差出シタル書類ニ對シ相手方ナシテ答辯書ヲ差出サシメ又ハ當事者ニ訊問書ヲ發シテ之ニ  
對スル意見書ヲ差出サシムルコトヲ得

同八二

第七〇條乃至七九條ノ規定ハ抗告審判ニ之ヲ準用ス但シ審判官三人又ハ五人ノ合議ニ依ル  
審判ニ干與シタル審判官ハ同一事件ニ付抗告ニ干與スルコトヲ得ス

特許法第七一條ニ依リ相手方ニ送達スヘキ書類ハ其事件ノ判斷ノ憑據ト爲ルヘ  
キ事項ニ關スル書類ニ限ルヲ以テ其以外ノ書類ハ縱令當事者ヨリ提出アルモ之  
ヲ相手方ニ送達スルヲ要スルモノニ非ス

特許法第  
七一條ノ  
意義

特許法第八二條ニ於テ抗告審判ニ準用シタル同法第七一條ノ解釋ニ關シテハ是ニ上  
告人ノ所論ノ如シ然レトモ原審ニ於テ同條ニ依リ相手方ニ送達スヘキ書類ハ本件ノ  
判斷ノ憑據ト爲ルヘキ事項ニ關スル書類ニ限ルヲ以テ其以外ノ書類ハ縱令當事者ヨ

提出アリタレハトテ之ヲ相手方ニ送達スルヲ要スルモノニ非ス而シテ上告諭旨ニ  
所謂陳情書及其證據書類ナルモノナ見ルニ此等ノ書類ハ其名ノ如ク單ニ本件當事者  
ノ一身上ノ行動ニ關スル事情ノ陳述ト之カ證明ニ關スル書面タルニ止マリ何等前送  
シタル送達ヲ要スヘキ書類ニ該當スルモノニ非ス故ニ原審ニ於テ右陳情書等ヲ上告  
人ニ送達セサルモ之ヲ以テ前記法條ニ違背シタル不法アリト云フヲ得ス而シテ原審  
ニ於テ右陳情書等ノ記載ニ基キ本件ヲ判斷シタル事速ナキヲ以テ原審決ニハ何等ノ  
瑕疵ナシ(大審院大正二年(オ)第二三六號同年一〇月二〇日民判決)

(八八)

競賣法三二

競落期日ハ民事訴訟法第六六〇條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

競落ノ手續、競落ヲ許ササル場合ノ新競賣期日競賣ノ履行及競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民  
事訴訟法第六七一條乃至第六七四條第六七六條乃至第六八三條第六八七條及第六八八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之  
ヲ準用ス

民事訴訟法六七二

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ在ノ理由ニ基クコトヲ要ス

一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ナシテ許可カラサルコト

二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト

三 法律上ノ賣却條件ニ抵觸シテ競賣ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得シテ法律上ノ賣却條件ヲ  
變更シタルコト

四 競賣期日ノ公告ニ第六五八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト

五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リ之ヲ爲ササルコト

六 第六五九條ニ規定シタル期間ヲ存セザリシコト

七 第六六五條第二項及第六六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト

八 第六六四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

同六八〇 利害關係人ハ競落ノ許可ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲

競落許可  
決定ニ對  
スル抗告  
ノ要件

不動產競賣事件ノ競落許可決定ニ對スル抗告ハ民事訴訟法第六七二條ニ掲ケタル事由又ハ競落決定力競落期日ノ調書ノ旨趣ニ抵觸シタルコト又ハ取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲シ得ヘキモノナレハ單ニ不動產力詐僞ノ手段ニ罹リ格外ノ低價ニ競買セラレタリト云フニ過キサル場合ハ抗告理由トナラサルモノトス

不動產競賣事件ノ競落許可決定ニ對スル抗告ハ民事訴訟法第六七二條ニ掲ケタル事由ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定力競落期日ノ調書ノ旨趣ニ抵觸シタルコトヲ理由トスルトキ又ハ取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ競賣法第三二條民事訴訟法第六八〇條及第六八一條ノ規定ニ依リ明カナル所ナリ然ルニ抗告人カ原審ニ提出シタル抗告理由ハ抗告人ハ東京區裁判所ニ於テ債權者中島彦太郎ノ爲メ詐欺ノ手段ニ罹リ本件建物ヲ格外ノ低價ニ競買セラレタリト云フニ過キサレハ前段ニ掲ケタル競落許可決定ニ對スル抗告理由トシテ許サレタル理由ノ孰レニモ該當セサルコト明カナレハ原裁判所ニ於テ右抗告ナ不適法トシテ棄却シタルハ相當ニシテ本件抗告ハ理由ナキモノトス(大審院大正二年ク)第四六八號同三年一月一九日民二決定)

治安警察法  
第一八條  
違反

明治三三年内務省令第三六號ハ治安警察法一八條適用ノ一例ニシテ同省令但書ノ場合ニ該當セサル限り又法律上行爲ノ違法性ヲ阻却スル原因ノ存セサル限りハ止ムヲ得サル事情ノ下ニ在テモ右禁令違反ノ行爲ハ治安警察法第三一條ノ處罰ヲ免ルヘキニ非ス

治安警察法一八 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メ必要ト認ムルトキハ或器爆發物又ハ或器ヲ仕込ミタル物件ノ攜帶ヲ禁スルコトヲ得  
同三一 第一八條ノ禁ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ重禁錮ニ處ス  
明治三三年内務省令第三六號 炭鑛採人川崎採人石炭採人土方採人ハ福岡縣門司市、小倉市、及遠賀郡鞍手郡嘉穂郡田川郡企救郡ニ於テ或器爆發物又ハ或器ヲ仕込ミタル物件ヲ攜帶スルコトヲ得ス但シ職業ノ爲メ監督者ノ指揮ニ依リ爆發物ヲ攜帶スルハ此ノ限ニ在ラス  
刑法六一 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

治安警察法ハ其第一八條ニ於テ行政官廳ニ附與スルニ安寧秩序ノ保持上必要ト認ムルトキハ命令ヲ以テ或器爆發物又ハ或器ヲ仕込ミタル物件ノ攜帶ヲ禁スルノ權能ヲ以テ全國ニ涉リ若クハ一定ノ地域ヲ局リ又ハ一般ノ人ニ對シ若クハ特殊ノ人ニ限リ又ハ永久ニ亘リ若クハ一定ノ時期ヲ劃シテ之ヲ發スルコトヲ得ヘキモノトス明治三三年内務省令第三六號ハ其適用ノ一例ニシテ永久ニ亘リ特殊ノ労働者(炭坑採人川崎採人、石炭採人、土方採人ヲ指ス)ニ對シ福岡縣内ノ特定ノ地域ニ限リテ治安警察法第一八條所定ノ物件ヲ攜帶スルコトヲ禁セリ其趣旨ハ固ヨリ安寧秩序ノ保持上必要ト認メタルモノニ外ナラサルヲ以テ同省令但書ノ場合ニ該當セサル限り又法律上行爲ノ違法性ヲ阻却スル原因ノ存セサル限りハ所論ノ如キ止ムヲ得サル事情ノ下ニ在

テモ右禁令違反ノ行為ハ治安警察法第三一條ノ處罰ヲ免ルヘキモノニ非ス蓋シ禁止物件携帶ノ行為自體カ直接ニ安寧秩序ヲ害セサル場合ニ於テモ既ニ法令カ安寧秩序ヲ害スル虞アリトシテ特殊ノ人ニ對シ特定ノ地域内ニ於テ特定物件ノ携帶ヲ禁止タル以上ハ他人ヲ敬唆シテ之ニ違反スル行為ヲ實行セシムルハ法令ノ威力ヲ侮蔑スルモノナレハ取締上之レヲ處罰セサルヘカラサレハナリ(大審院大正二年(レ)第二一一八號同年一月二日刑一判決)

(九〇)

競賣法二六 裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣ニ附スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託スヘシ

民事訴訟法第六五一條第二項第六五三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

民事訴訟法六五二條 登記簿ニ從ヒテ記入ヲ爲スヘシ

同六五二條 登記簿ニ從ヒテ其抄本ヲ送付スヘシ

競賣開始決定ノ效力ハ其以後ニ於ケル競賣手續ノ適否ニ依リ影響ヲ受クヘキモノニアラス(從テ決定後ノ登記簿ニ登記簿ノ原本送付ノ手續等ニ關シ)

本件抗告ノ要旨ハ原裁判所カ開始決定ニ對シテハ其決定後ノ手續ノ違法ヲ理由トシテ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノト爲シ抗告人ノ抗告ヲ棄却シタルハ不法ナリト謂フニ在レトモ一旦適法ニ成立シタル開始決定ノ效力カ其以後ニ於ケル競賣手續ノ適否ニ依リ影響ヲ受クヘキ理由ナキヲ以テ原裁判所カ競賣法第二六條ニ依リ裁判所カ競賣申立アリタルコトヲ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキコトヲ其管

競賣開始決定後ノ手續ノ適否

轄登記所ニ囑託スヘキコト並ニ該管轄登記所カ右登記ヲ爲シタル後登記簿ノ原本ヲ裁判所ニ送付スヘキコトハ競賣手續開始決定ヲ爲スト同時若クハ其後ニ於テ爲スヘキ手續ニ屬シ其適否カ直チニ競賣手續開始決定ノ當否ヲ決スヘキ性質ノモノニアラサルカ故ニ之ヲ以テ競賣手續開始決定ヲ非難スルハ失當ナリト判示シタルハ洵ニ相當ニシテ本件抗告ハ適法ノ理由ナキモノト認ム(大審院大正二年(ク)第四三〇號同年一月二日民二決定)

(九一)

競賣法二六第一項 裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託スヘシ

同三二第二項 競落ノ手續競落ヲ許ササル場合ノ新競賣期日競賣ノ履行及ヒ競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民事訴訟法第六七一條乃至第六七四條、第六七六條乃至第六八三條、第六八七條及ヒ六八八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス

民事訴訟法六七二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ置クコトヲ要ス

第一 強制執行ヲ許スヘカラサルコト又ハ執行ヲ續行シ可カラサルコト

同六八二第二項 競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調査ノ旨趣ニ抵触シタルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

競賣ノ申立ヲ登記簿ニ記入セシムルハ第三者ヲシテ手續ノ開始ヲ知ラシムル爲メナルヲ以テ申立人二名中ノ一名ノミヲ記入シタレハトテ之ヲ更正スルヲ以テ足り強制執行ヲ許スヘカラサルコト又ハ執行スヘカラサルコトト爲ラス從テ之ヲ以テ競落許可決定ニ對スル抗告ノ理由ト爲スコトヲ得ス



競賣法第三二條民事訴訟法第六八一條第六七二條第一號ニ依レハ強制執行ヲ許ス可  
カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコトヲ理由トスルトキハ競落許可ノ決定  
ニ對シテモ抗告ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナルモ競賣申立ヲ登記簿ニ記入セシムルハ  
第三者ヲシテ其不動産ニ對シテ競賣手續ノ開始セラレタルコトヲ知ラシムル爲メナ  
ルヲ以テ木件ニ於テ競賣申立人トシテ筒井龜吉松本由松二名ヲ登記簿ニ記入スヘキ  
コトヲ松本由松一名ノミヲ記入シタレハトテ之ヲ更正スルヲ以テ足り爲メニ強制執  
行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコトト爲ラス況ンヤ其後松本  
由松ノ外筒井龜吉ヲ競賣申立人ト爲シ競賣申立ノ登記簿更正シタルコトハ記録中ニ  
存スル登記簿原本ニ依リテ明ナルニ於テオヤ原決定ハ相當ニシテ本抗告ハ理由ナシ  
（大審院大正二年（ク）第四七四號同三年一月一二日民二決定）  
然リ競賣法カ競賣申立ヲ登記簿ニ記入セシムルハ第三者ヲシテ其不動産ニ對シ  
テ競賣手續ノ開始セラレタルコトヲ知ラシムルニ存シ競落許可決定ノ有效條件  
タルモノニ非ス故ニ事案ノ場合ノ如キ申立人二名ナルニ拘ハラズ其一名ノミヲ  
記入シタリトスルモ是レ單ニ之ヲ更正スルヲ以テ足り爲メニ強制執行ヲ許ス可  
カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコトト爲ルモノニアラサルナリ況ン  
ヤ後日其競賣申立ノ登記簿更正シタル事業ノ場合ニ於テ之ニ對スル抗告ノ理由  
ナキ勿論ナレハナリ

（九二）

齒科醫師法一 免許ヲ受ケシテ齒科醫業ヲ爲シタル者停止中齒科醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條第六條若ハ第七  
條ニ違背シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
普通醫ハ齒科醫業ヲ營ム當然ノ資格ヲ有セサルモノトス（故ニ齒科ニ關シ特別ノ免  
カ齒牙ニ關スル補綴充填等事務モ齒科ノ技工ニ屬スル）  
行爲ヲナスカ如キハ背法ノ行爲タルヲ免レサルモノトス

我邦ニ於テ齒科醫ナルモノノ特別存在ヲ法制ノ上ニ認メシハ明治十六年十月二十三  
日本政官布達第三十四號醫術開業試驗規則ノ發布ニ由ル其以前ニ在テハ普通醫ノ口  
中科ト稱スルモノ并ニ入齒齒抜口中療治者ト稱スルモノトニヨリ辛フシテ齒牙ノ保  
護治療補綴ヲ爲シ來リシモノニシテ前者ハ口腔治療ヲ主トシテ齒牙ノ保護補綴ニ就  
テハ殆ント其知識ヲ缺キ後者ハ齒牙ノ保護補綴ヲ主トシテ口腔ノ治療ニ就テハ是亦  
全ク其知識ノ缺ケタルカ故ニ所謂齒牙ノ病理及衛生ニ關シテハ何レモ片輪者タルヲ  
免レサリシナリ而モ此片輪同志ハ互ニ領分ヲ區劃シテ少シモ其間ニ知識ノ交換ニ最  
メニ特ニ普通醫ハ自ら高フリテ一方ヲ入齒師ト侮リ之ト伍スルモ耻ツルカ如キ慮ヲ  
採リシ爲メ自然齒牙ノ衛生并ニ病理ヲ疎ニスル結果此機會ヲ利用シテ所謂入齒師ナ  
ルモノハ其技工ニ獨特ナルモノアリトシテ跳梁跋扈盛ンニ口中療治ヲモ營ミシ事實  
ハ蓋シ想像ニ難カラス唯如何ニセン病理生理藥劑等ノ知識ノ缺乏ハ惹テ公衆衛生又  
ハ醫事行政ノ上ヨリ其儘看過スルニ忍ヒス茲ニ齒科醫ナルモノヲ普通醫以外又入齒

師以外特ニ其存在ヲ法律カ要求スルニ至リタルモノニシテ續テ明治十八年三月二十三日内務省達甲第七號入齒拔齒口中療治等營業者取締方ト爲リシモノタルニ外ナラ

二

斯ノ如ク普通醫ハ齒牙ノ保護、治療、補綴等ニ關スル智識ヲ缺キ入齒師ハ病理、生理、藥劑等ニ關スル智識ヲ缺キシコトカ則チ今日ノ齒科醫ノ特別ニ存在スル所以タルヲ知ラハ本題目ノ解決ハ甚タ容易タルヲ得ヘシ換言スレハ今日ノ齒科醫ナルモノハ由來我邦ニ於ケル齒牙衛生ニ付キ普通醫ノ缺點并ニ入齒師ノ無識トナ補綴スヘク雙方ノ弱所ヲ剷去シテ合一的ニ固メテ獨立セシモノニシテ此獨立ノ保障ハ明治三十九年齒科醫師法カ醫師法ト獨立シテ制定セラレシニヨリ益々明瞭ト爲レルモノト云フ可シ

三

會テ埃太利及匈牙利國ニ於テ普通醫ト入齒師トノ悶着(同國ハ我邦ノ如キ純粹ノ齒科醫ナク普通醫カ大學在學中齒科ノ講義ヲ聞キ僅カニ實習ヲ爲シテ齒科ヲ開業ス)ヲ惹起セシ以來今尙盛ンニ是等兩者ノ間ニ其領域ノ爭奪カ年々政府及議會ヲ煩ハスカ如キモ畢竟同國ノ普通醫ハ口腔ノ衛生齒牙ノ治術ニ付キ所謂入齒師ノ業ナリトシテ輕蔑セス普通醫ノ領域ヲ保守スルノ熱心ナリシカ爲メ國家ハ所謂入齒師ヲ齒科技術師トシテ其間ノ調和ヲ保ツニ勵メタルモ我邦ノ普通醫ハ前陳ノ如ク口中衛生齒科治術ヲ以テ永井兵助流ナリトシテ之ヲ疎外シタル爲メ是等衛生治術ニ付テハ普通醫ノ職掌ヨリ敬シテ遠ケラレ全ク棚ノ上ニ祭ラレタルノミナラス終ニ齒科醫ニヨリ其領域

ヲ劃取セラレタルノ感ナキ能ハス而シテ是レ實ニ齒科醫ノ普通醫外ニ其獨立ヲ開拓シタル所以トス

四

我邦ノ普通醫カ自然ニ口腔齒牙ノ衛生治術ノ智識ニ付キ敬遠セラレタルハ一世感ノ傾向ニヨル處ナルヘシト雖モ他ニ大ナル原因ハ政府ノ醫事教育カ此點ニ於テ全ク普通醫ノ感情其像ニ支配セラレタルコト是ナリ明治六年文部省達第八十九號ヲ以テ現時ノ醫術開業者ノ明細書及醫師ノ人員等ヲ申達セシメタル際ハ特ニ醫ノ明細ヲ別チテ内科外科眼科産科口中科ト爲シ普通醫口中科ノ專門醫ヲ認メシモ當時ノ醫事教育ニ於テハ其教課目ヨリ全然口中科ヲ除外シ内科外科産科眼科婦人科ニ限リ特別練習ノ途ヲ開キシニ過キス(明治六年文部省第三十六號參照)試ミニ當時第一大學區醫學校卒業證狀ヲ看ルモ當時口中科ナル專門醫アリシニ拘ラフ其科ノ存在ヲ認メス唯外科ノ内ニ包含セシメ一般ノ智識ヲ授クルニ過キスシテ其口腔齒牙ノ生理病理手術等ニ付テハ全ク専門的智識ヲ教授セサリシ事實ヲ確ムルニ足ル

其後明治八年内務省火災ニ罹リ義ニ文部省ヨリ引續ケル醫術開業者ノ明細書ヲ檢失スルヤ同年七月二十五日内務省乙第九十八號ヲ以テ更ニ右開業醫ノ履歷明細ヲ徵スルニ當テハ全ク口中科ノ存在ヲ忘レタル如ク内科外科眼科産科而已ヲ表示シ政府自ラ之レヲ除外シ之レヲ疎シタルハ一方ニ於テ入齒師ノ跳梁ヲ助長セシメタルト共ニ醫ヲ學フ者ノ益々之ヲ輕蔑シテ全ク其領域ヲ放却シタルノ感ナキ能ハス而シテ是レ實ニ齒科醫獨立ノ存在ヲ促進シタルモノト云ハサルヲ得ス

普通醫カ何等檢定ヲ受ケヌシテ自然齒科醫術ヲ開業シ得ヘキヤ否ヤニ付テハ法律上ノ問題トシテ大審院明治四十四年(レ)第五〇六號事件ヲ論評スルノ適當ナルヲ信ス同案件ニ依レハ被告人ハ普通醫ニシテ外來齒痛患者ヲ診察シ其患者ノ齒齲ヲ切開治療シテ其治療費ヲ領收シ以テ齒科醫業ヲ爲シタリト云フニ在リ而シテ橫濱地方裁判所ハ右ノ如キ診察治療ハ一般醫師ノ爲シ得ル處ナルヲ以テ罪ト爲ラスト判決シタルニ據事控訴ノ結果控訴院ハ之レヲ以テ齒科醫師法第十一條ニ違反シタルモノトシテ之ニ有罪ノ判決ヲ下シタリ

大審院ハ被告人ノ上告論旨ニ對シ判決シテ曰ク

案スルニ齒科ハ醫學上口腔外科ノ一部ニシテ眼科耳鼻咽喉科ト同シク醫科ノ範圍ニ屬ス醫術開業試驗規則第六條第七條ニ定ムル齒科醫ノ試驗科目ヲ以テ其普通醫ノ試驗科目ニ對照スルニ齒科解剖及生理學ハ解剖學生理學ニ齒科病理及治療學ハ內科學外科學ニ實地試驗ハ臨床實驗ニ包含セラル約言スレハ齒科醫ノ試驗科目ハ普通醫師試驗科目ノ一部分ニ過キササルヲ以テ該規定ハ醫科全部ヲ學習セストモ齒科ヲ學習シタル者ニハ特ニ齒科醫術ノミニ付キ開業ノ免許ヲ與フルカ爲ニ設ケタル者ニシテ齒科ヲ以テ普通ノ醫學ト全ク異ル專門ノ學科ト認メタル者ニ非ス云々ト其要旨ハ試驗科目對照ノ結果齒科醫ノ受驗科目中ニ存在スルカ故普通醫ハ齒科醫トシテ檢定セラレタルモノナリト云ブニアリ

六

之レカ解説ノ當否ヲ判斷スルニ先チ余輩ハ醫術開業試驗ノ變遷ヲ見ルチ便宜ナリト信ス

明治九年內務省乙第六號ノ開業醫試驗科目ヲ見ルニ當時未ダ齒科醫ノ分立ヲ見ス從前ノ口中科カ入齒師ト併存セシ時代ニ在ツテハ僅カニ口中科ナルモノノ分科的專門ヲ認メ之レヲ產科眼科ト同一ノ取扱ヲ爲シ其分科專門ノ免狀ヲ允許セシモノナルカ普通醫トシテ

第一 物理學化學      第二 解剖學大意      第三 生理學大意

第四 動物學大      第五 藥劑學大意      第六 內外科大意

ノ試驗科目ヲ受ケタルニ過キス而シテ口中科ヲ專ラ修ムルモノハ其局部ノ解剖生理病理ノ大意及手術ヲ檢メ免狀ヲ授クヘキ規定タリ是レニ因テ之ヲ見レハ當時口中科ノ特別檢定ヲ受ケルモノハ口腔齒牙ニ關スル特別智識ヲ學習スルニアラサレハ縱令普通醫ノ學習アルモ其免狀ヲ下附セサル趣旨明白ナルヘシ

次テ明治十二年內務省甲第三號ヲ以テ該試驗規則ノ改定セララルルキ其試驗科目

第一 理學      第二 化學      第三 解剖學      第四 生理學

第四 病理學      第六 藥物學      第七 內科學或ハ專門各科

第八 外科學

ト爲シ其專門科中專門內科、專門外科、產科、眼科、齒科トナシ、何レノ專門モ選擇ニヨリ其科ノ特別智識ヲ檢定シタルモノニシテ當時齒科ヲ選擇セシモノニ就テハ齲齲ノ口中科同様ニ其局部ノ解剖、生理、病理及手術ヲ檢メ來リタルハ毫モ疑ヲ容レヌ

然ルニ降テ現行醫術開業試驗規則ノ制定セララルヤ普通醫術ノ專門科タリシ齒科ヲ  
特ニ分離シ所謂齒科試驗ナルモノヲ新ニ開始シ從來眼科產科或ハ專門内科專門外科  
ナルモノハ一般醫ノ領域ニ屬セシメテ其自由ノ診療ニ任セ從來一般醫ノ領域タリシ  
齒科ヲ分設シテ一般醫ヨリ獨立セシメタルハ沿革上明白ナル事實ナリトス

八

普通醫ノ受驗科目中ニ果シテ齒科醫ノ受驗科目ヲ包含スルヤ否ヤ此點ニ付テハ明治  
九年ノ試驗規則ハ最モ其實際ヲ表明スルモノニシテ口中科ノ免狀ヲ受タルニハ特ニ  
其局部ノ生理病理手術ニ就キ之レカ檢定ヲ受クヘキノ趣旨明瞭ナルト共ニ普通醫ハ  
此特別専門ノ知識ヲ缺如セルモノタルヲ示シテ憚ラス而シテ明治十二年ノ規則ニ所  
謂齒科ナルモノニ付テモ亦然リ故ニ現行法上齒科ノ受驗スヘキ齒科解剖及生理齒科  
病理及治療カ所謂普通醫ノ受驗科目タル解剖學生理學又ハ內科學外科學ニ含有スト  
爲スハ其沿革及實際ヲ顧ミサル空論ノミ

九

若シ夫レ大審院ノ云フカ如ク如上齒科醫受驗科目カ如上ノ普通醫受驗科目ニ包含ス  
ト爲ストセハ規則第六條第四眼科學、第五產科學ノ受驗科目ヲ特設セル趣旨ヲ全ク没  
却スルニ非スヤ何トナレハ是等ノ科目ハ、解剖學、生理學、外科學、內科學ニ包含スヘキ  
カ故ニ特ニ受驗科目トシテ設クルノ必要ナケレハナリ法律ノ趣旨ハ此第四第五ノ科  
ニ付テハ特ニ其局部ニ關スル生理、病理、手術即チ特別ノ智能ト技能トヲ必要トスルカ  
故ニ其範圍ニ涉リテ檢定スルノ例アルヲ以テ普通ノ解剖學、生理學、外科學、內科學以外

ニ特設科目ト課スル所以タルハ極メテ明白ナリト云ハサル可ラス是ト等シク齒科ニ  
付テモ一層其局部の智識ノ開發ヲ必要トスルカ故ニ別ニ獨立の試驗ヲ規定セルニ外  
ナラス而シテ此獨立専門ノ試驗ヲ特設シタルハ一方ニ於テ普通醫カ其受驗ヲ經ルニ  
アラサレハ其局部ニ關スル智識技能ノ保障ヲ缺クモノタルヲ公認セルニアラスシテ  
何ソヤ其局部ニ關スル智識ナクシテ其診察ヲ爲シ得ルト爲スハ醫事行政ヲ根本ニ於  
テ破壞スルモノナリ

一〇

齒科カ普通醫ト異ルヘキ著シキ特別技能ハ充實、補綴等所謂技工ノ點ニアリトス夫レ  
技工ハ齒科醫ニ伴フ獨特ノ職業的技能ニシテ實地試驗ナルモノモ亦其點ニ關スル檢  
定ヲ忽諸ニ付スヘカラサルヤ言テ俟タス而シテ普通醫ノ臨床實驗ハ病理ノ發見並ニ  
其ノ對症治療ノ究明ニ重キヲ要スヘキモ是等齒科醫ノ實地試驗ハ寧ロ病理ニ對シテ  
對症療法ヲ究明スル以外尙進ンテ補綴充實ニ關スル技工ノ完足ヲ期スルニアリ之レ  
實ニ我邦ニ於ケル齒科醫ノ沿革上然ラサルヲ得サル處トス加之普通ハ前項所論ノ如  
ク齒牙ニ關スル局部の智識ノ完全ヲ期シ難ク而シテ更ニ補綴充實ニ關スル技能ニ付  
テハ全クノ外門漢ナルヘク而シテ此ノ普通醫ノ點カ齒科醫ノ獨立存在ヲ促進シタリ  
シ事情ヨリスルモ今ニ於テ普通醫カ齒科醫タルコトヲ得ト爲スハ醫事行政ノ完カラ  
サリシ舊態ニ復古セシムルモノニシテ勢ヒ別ニ入齒師ノ復活ヲ喚起スルモノト云ハ  
以上余輩ノ見ヲ以テスレハ普通醫ハ當然齒科醫ヲ兼ムヲ得ス但普通醫カ口腔内ノ對  
サルヲ得ス

症療法ヲ施行スルハ固ヨリ差支ナシト雖モ是レ齒科醫トシテニアラス唯夫レ齒牙ニ  
關スル補綴充填等事務クモ技工ニ屬スル領域ニ立入り齒科爲ノ醫スヘキ範圍ニ步  
進ムルハ斷シテ背法ノ行爲タルヲ免レスト信ス前掲大審院判決ハ其趣旨ニ於テ醫師  
ノ領域ヲ誤ルノ太甚シキモノナリ(辯護士川島仔司氏法律評論第二卷第五號論說四一  
頁以下)

至當ノ見解ナリ

（以下は非常に小さい文字で印刷された文章が続きます。内容は主に法律論議に関するものです。）

司法省訓令回答要旨  
行政裁判所判決要旨

大正二年三月中旬  
至大正三年三月初旬

症療法ヲ施行スルハ因ヨリ差支ナシト雖モ是レ齒科醫トシテニアラス唯夫レ齒牙ニ  
關スル補綴・充填等事尙クモ技工ニ屬スル領域ニ立入り齒科爲ノ醫スヘキ範圍ニ步ヲ  
進ムルハ斷シテ普通法ノ行爲クシテ免レスト信ス前掲大審院判決ハ其趣旨ニ於テ醫師  
ノ權域ヲ誤ルノ太甚シキモノナリ(辯護士川島信司氏法律評論第二卷第五論說四一  
頁以下)

至當ノ見解ナリ

司法省訓令回答要旨  
行政裁判所判決要旨

(自大正二年三月中旬  
至大正三年三月初旬)

# 附 錄

## 司法省訓令回答索引

○賣藥規則	.....	一五
○保管物取扱規則	.....	一五
○登録稅法	.....	一四、一五
○町村制	.....	一五、一五
○陸軍軍人服役令施行細則	.....	一三
○官吏遺族扶助料法	.....	一五
○郡制	.....	一五
○刑法	.....	一四
○刑法施行法	.....	一四
○刑事訴訟法	.....	一六、一四
○刑事略式手續法	.....	一三、一三、一六
○不動産登記法	.....	二、三、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一四、一五
○不動産登記法施行細則	.....	一二
○戶籍法	.....	一三、一五、九、一三、一四
○國稅徵收法	.....	一四
○國有林野下戻法	.....	一五

司法省訓令回答索引

- 耕地整理登記令.....一、二
- 鑛業法.....一六
- 鑛業法施行細則.....一五
- 公證人法.....二
- 裁判所構成法.....一、三、七、一〇
- 產業組合法.....六
- 行政裁判法.....一六
- 寄留ニ關スル規定.....一四
- 民法.....四、六、七、一、一三、一四、一五
- 民事訴訟法.....一、一六
- 商法.....一、一六
- 舊商法破産編.....六
- 執達吏手數料規則.....三、七
- 非訟事件手續法.....一、一六

司法省訓令回答要旨

●相續後ノ相續ノ承認、拋棄ニ關スル件  
選定、指定又ハ民九八四條ノ家督相續人ハ單純又ハ限定承認ヲ爲  
スニ先チ家督相續ノ届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ後ニ至リ  
民一〇一七條ノ期間内ニ單純承認又ハ限定承認ヲ爲スコトヲ得ヘ  
ク相續ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス(大正二年二月二六日民事第八九  
號民事局長回答)

●嫡母ノ件  
庶子甲チ有スル乙ガ入夫婚姻ニ因リ他家ニ入りタルトキ乙ノ妻ハ  
乙ノ實家ニアル甲ノ嫡母ニアラス(大正二年二月二六日民事第八  
九號民事局長回答ノ内)

●女戸主ト入夫ノ庶子トノ關係ノ件  
女戸主ノ入夫(戸主トナラス)ノ庶子ニ付テハ戸籍面ノ戸主トノ續  
柄ハ單ニ庶子ト記載スヘキモノトス(大正二年二月二六日民事第  
八九號民事局長回答ノ内)

●恩赦ヲ受ケタル者ニ係ル別箇ノ刑執行方ノ件  
刑ノ執行中ノ者大正元年一〇月一二日附ニテ特赦セラレ該特赦狀  
ハ同月一六日本人ニ於テ下附ヲ受ケタリ然ルニ餘罪發覺ノ爲メ同  
年一〇月四日懲役三月ニ處セラレ居ル爲メ前發刑ニ引續キ執行ス  
ヘキトキハ右刑期ヲ特赦狀下附ノ日ヨリ起算スヘキモノトス(大  
正元年一〇月三〇日刑事第九三號刑事局長回答)

司法省訓令回答要旨

●大正二年法律第六號附則第二項ノ解釋並支部ノ事  
件ノ引續ニ關スル件  
本法施行以前地方裁判所支部トシテ受種シタル民事刑事非訟事件  
ハ同法律ニ依リ區裁判所ニ屬スヘキモノト雖モ同法律附則第二項  
本文ニ依リ依然地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニシテ從テ大正二  
年司法省令第七號ニ依リ豫審事務ノミヲ取扱フヘキ地方裁判所支  
部ニ於テ右省令施行以前支部トシテ受種シタル事件ハ總テ之本  
廳ニ引續クヘキモノニシテ之ヲ支部設置ノ區裁判所ニ於テ處理ス  
ヘキモノニ非ス而シテ右法律附則第二項但書ハ同法律施行以前地  
方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ヲ限ツテ區裁判所ニ於テ受種シタ  
ル場合ニ該事件方同法律ニ依リ其區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノ  
ナルトキハ當然新法ノ規定ヲ適用シ其區裁判所ノ管轄ニ屬スルモ  
ノト爲ス趣旨ナルニ支部ニ於テ受種シタル事件ニシテ新法ニ依リ  
區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノノ處理ニ關シ實然スル向モアルヲ  
以テ爲念通牒ス(大正二年四月一七日民事第四八六號司法次官通  
牒)

●大正二年法律第六號附則第二項ノ解釋ニ關スル件  
現ニ或裁判所ニ屬セル事件ハ其審級ヲ限リ舊法ヲ適用スヘシト  
ノ趣旨ナルカ故ニ一旦屬セル脫離セシ以上ハ新法ニ依リ其上訴訟  
判所力定マルヘシ即チ現ニ控訴院ニ屬セル上告事件ハ大審院ニ

一



遺失スルヲ要セス又地方裁判所カ本法施行以前ニ受理シタル控訴事件ト雖モ其判決ニ對シ施行後上告ヲ爲ス場合ニハ大審院之ヲ管轄スヘシ(大正二年四月一七日民事第四八七號司法次官回答)

●未成年ノ夫ノ財産管理ニ關スル件

未成年ノ夫カ未成年ノ妻ノ爲メニ民八〇二條本文ニ掲クル行爲ノ公正適當作爲ヲ囑託セントスル場合ニハ民八八五條ニ依リ未成年ノ夫ノ親權ヲ行フ父又ハ母カ其夫タル未成年ノ子ニ代ハリ囑託スヘキモノトス(大正二年四月一〇日民事第四二五號民事局長回答)

●十五年未滿ノ者ノ養子縁組届書ノ記載方ニ關スル件

養子カ十五年未滿ノ者ナル場合ニ於テ之ニ代ハリ縁組ノ承諾ヲ爲ス父母ニ付テハ戶籍法第四五條第二項ニ依リ記載ヲ爲サシムルノ要ナキモノトス(大正二年四月八日民事第一一五號民事局長回答)

●實家ニ復籍後生レタル子ノ入籍ニ關スル件

父母共ニ養子ニシテ子ノ出生前ニ離婚縁組ニ因リ相前後シテ養家ヲ去リタルトキハ出生子ハ父ノ家ニ入ルヘキモノトス(大正二年四月八日民事第三五五號民事局長回答)

●本籍地ノ記載方ニ關スル件

轉籍分家ノ外廢絶家再興、一家創立ノ場合ニ於テモ別ニ本籍地ヲ定メテ之ヲ届書ニ記載セシムルコトヲ要ス若シ其記載ナキ届書ヲ受理シタルトキハ分家一家創立ノ場合ニハ届出地ヲ以テ本籍地トシ廢絶家再興ノ場合ニハ廢絶シタル家ノ本籍地ヲ以テ再興者ノ本籍地トスヘシ然レトモ家督相續ノ場合ニ於テハ前戶主ノ戶籍ニ基キ新戶籍ヲ編製シ得ルカ故ニ假令本籍地ノ記載ナキモ届書ヲ受理シ

●改正裁判所構成法施行前ニ爲シタル判決ノ執行方ニ關スル件

已済事件ノ執行處分(罰金徴收處分等)ノ未完結ノモノニシテ裁判所構成法改正ノ結果區裁判所ノ所管タルヘキ罪質ノモノト雖モ之カ執行處分ハ依然判決裁判所檢事ノ主管ニ屬ス

支部ニ於テ豫審事務ノミヲ取扱フコトトナリタル場合ニ於テ從前支部トシテ判決ヲ爲シタル已済事件ノ執行未了ノモノノ處分ハ地方裁判所檢事ノ處分ニ移屬ス但シ緊急ノ事件ニ付檢事正ヨリ裁判所構成法第八三條ニ依リ支部檢事ニ處分ヲ命スルモ差支ナシ(大正二年四月一九日刑事甲第七一號刑事局長回答)

●刑事略式手續法ニ關スル件

懲役ト罰金又ハ拘留ト科料ノ選擇刑ヲ科スル犯罪ニ付テモ裁判所構成法上區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ナル以上ハ檢事ニ於テ罰金又ハ科料ヲ相當ト思料スルコトキハ略式命令ノ請求ヲ爲シ得ヘシ(大正二年四月一九日刑事甲第六八號刑事局長回答)

●改正裁判所構成法第一五條ノ解釋ニ關スル件

改正構成法第一五條第二項ニ非訟事件中登記事務ハ裁判所書記トシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得トアルモ右ハ地方裁判所長之ヲ命スヘキモノニシテ區裁判所判事ノ見込ヲ以テ取扱ハシムルコトヲ得ス(大正二年五月一日民事第六〇〇號司法次官回答)

●出生、死亡、家督相續ノ届出方ニ關スル件

私生子其他ノ出生届ノ如キハ戶籍法第四六條ノ適用ナク未成年者

ヲ差支ナキモノトス(大正二年四月一四日民事第三五四號民事局長回答)

●續柄ノ訂正ニ關スル件

申請ニ依リテ戶籍ニ虚子トアリテ長女ト變更セザル場合ニ於テ妹數人アルトキハ其領書ハ申請ヲ待タズ戶籍吏ニ於テ順次訂正ヲ爲シ差支ナク此場合ニハ其事由ヲ戶籍簿ノ欄外ニ記載スヘキモノトス(大正二年四月一〇日民事第一六七號民事局長回答)

●登記公告ノ新聞紙ニ關スル件

大正二年法律第八號ニ依リ廢止セラルヘキ區裁判所ノ管轄内ノ商業其他ノ登記公告ハ同法施行後其裁判所ノ管轄區域ヲ管轄スル區裁判所ノ選任シタル新聞紙ニ之ヲ爲スヘキモノトス(大正二年四月一五號民事第四八一號民事局長回答)

●國稅徵收法第二三條ノ三第二項ノ變更登記ノ囑託ニ關スル件

國稅徵收法第二三條ノ三第二項ニ依リテ差押ノ爲メニ不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官吏ハ分割又ハ區分ノ登記ノ所轄登記所ニ囑託スヘシトアリ此規定ハ既登記ノ土地ニシテ其後或原因ニ依リ分割シ稅務署ヨリ所轄登記所ヘ其通知ヲ爲シタル土地所有權者ヨリ未タ變更登記ノ申請ヲ爲ササル土地ニ對シ國稅帶納ノ爲メ差押ノ必要ヲ生シタル場合ニ於テモ仍右ノ條項ニ依リ收稅官吏ハ分割登記ヲ囑託スルコトヲ得(大正二年四月二日民事第一八一號民事局長回答)

●行政區畫變更ノ場合ニ於ケル戶籍簿ノ取扱方ニ關スル件

自ラ届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ親權者又ハ後見人ヨリモ届出アリタルトキハ却下スルニ及ハス之ヲ受理シテ差支ナキモノトス(大正二年五月六日民事第二五四號司法次官回答)

●不動産登記法第一〇五條ノ解釋ニ關スル件

國有土地森林原野下戻法第六條ニ基キ行政裁判所ニ提起セシ訴訟事件ニ付裁判所ハ前處分ヲ取消シ更ニ一定土地下戻ヲ爲スヘキ旨ノ判決ハ不動産登記法第一〇五條第二號ノ所謂判決ニ該當セス(大正二年五月一二日民事第五九七號司法次官通牒)

●執達吏手数料規則中疑義ノ件

(イ) 假差押ニ係ル物ト假差押ニ係ラサル物トナシテ差押ナシタル場合ニハ執達吏ノ長短又ハ差押物見積價格ノ多寡ナクハス假差押ニ係ル物アルモ之ヲ眼中ニ置カス全部假差押ニ係ラサルモノトシテ取扱ヒ規則第三條第一項及ヒ同第三項ニ依リ其手数料ヲ受タヘキモノトス(大正二年五月一日民事第六〇〇號司法次官回答)

乙ニ對シテハ某月二日競賣場前競賣實施ノ猶豫

丙ニ對シテハ某月三日午前全上

丁ニ對シテハ某月三日午後全上

戊己ニ對シテハ某月四日同時ニ全上

庚辛ニ對シテハ某月五日競賣實施ノ爲メ其住所ニ臨場シタル所債權者ヨリ同時ニ庚辛ニ對シテ競賣實施猶豫ノ申出ヲ爲シタリ

某月六日ニ至リ乙丙丁戊己庚辛ニ對シテ委任解除ノ申出ヲ爲シタリ

右ノ場合ニ於ケル手数料左ノ如シ

一 甲ニ對スル委任解除及乙丙丁戊己ニ對スル競賣猶豫ニ付テハ何レモ一部ノ委任解除又ハ競賣猶豫ナルヲ以テ手数料ヲ徵收スヘキモノニ非ス

二 庚辛ニ對スル競賣猶豫ヲ爲スニ至リ全部ノ競賣猶豫アリタルモノナルニ付之ニ對シテ競賣手續料規則第一一條但書ノ手数料一個ヲ受ケテ丙丁戊己庚辛ノ全部ニ對スル委任解除ニ付更ニ同規則第一一條但書ノ手数料一個ヲ受ケヘキモノトス(大正二年五月二四日民事第五二三號司法次官回答)

有體動産競賣代金剩餘金ノ處理方ニ關スル件

執達吏カ有體動産ノ強制執行ヲ爲シ競賣代金債權額及執行費用ヲ支拂ヒ其剩餘金ヲ債務者ニ還付スヘキ場合ニ債務者ノ所在不明ナルトキハ右剩餘金ハ民法四九四條ニ依リ金庫ニ供託スヘク右供託金ニ對シテハ保管金規則第一條ヲ適用セラルモノトス(大正二年五月二六日民事第六九八號司法次官回答)

相姦者ノ婚姻ニ付キ刑法第二七條ノ適用ニ關スル件

繼親子ノ親族關係ニ關スル件

亡兄ノ遺妻ト戸内婚姻ヲ爲シタル弟ト亡兄ノ子トハ繼父ノ關係ヲ生ス(大正二年七月三日民第一〇三號法務局長回答)

民法施行前ニ相續人ヲ定メタル場合ノ效力ニ關スル件

被相續人カ民法施行前ニ其弟ヲ嗣子ト定メタル場合ニ於テハ爾後實子アルニ至ルモ之カ爲メ嗣子ノ定メハ其效力ヲ失ハス(大正二年七月一日民第一〇一號法務局長回答)

未成年者自ラ爲ス届出事件ニ關スル件

法定ノ推定家督相續人ノ相續届、身分登記變更ノ申請中法定代理人ノ同意ヲ得ヌシテ爲スコトヲ得ル行爲ニ關スルモノ及氏名變更届等ニ付テハ未成年者自ラ届出ヲ爲スコトヲ得然レトモ此ノ如キハ便宜上未成年者ノ届出ヲ認メタルニ過キスシテ法定代理人ニ届出義務ヲシト決定シタルモノニ非サルヲ以テ此趣旨ニ基キ罰則ヲ適用スヘキモノトス(大正二年六月二〇日民第六〇號法務局長回答)

離縁離婚届ヲ復籍地戸籍吏ニ届出タル場合ニ關スル件

離婚届ヲ復籍地戸籍吏ニ届出タル場合ハ本籍人身分登記簿ノミニ登記ヲ爲スヘシ(大正二年六月二五日民第八七號法務局長回答)

隱居ニ因ル相續登記ニ關スル件

司法省訓令回答要旨

件

姦通罪ニ付刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ヲ取消サルルコトヲクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキ雖民七六八條ノ適用アルモノトス(大正二年六月二日民事第七一六號司法次官回答)

登録税ノ徵否ニ關スル件

不動産登記法第二八條ノ二、第一〇二條ノ第三第二項、第一〇三條第二項ニ依リ官公署カ登記名義人又ハ相續人ニ代リテ囑託スル登記ニ付テハ登録税ヲ徵收セサルモノトス(大正二年六月二日民事第八〇二號司法次官通牒)

民法施行前ノ退隱者カ退隱當時自己名義ノ不動産ニ對シ何等ノ手續ヲ爲ササルトキハ其者カ尙生存セルト否トニ係ハラス若クハ其死亡カ民法施行ノ前ナルト後ナルトナ問ハス現今其相續人ハ遺產相續登記又ハ家督相續登記ヲ爲スヘキモノトス

二 民法施行前ニ於テモ戸主ハ隱居ヲ爲スニ當リ其財産ノ一部ヲ留保スルコトヲ得ルハ勿論ニシテ其留保ノ意思表示ニハ特別ノ形式ヲ要セス故ニ其意思表示ハ明示タルコトヲ要セサルモ留保カ如何ナル場合ニ於テ暗黙ニ表示セラレタルヤハ一概ニ決スルコトヲ得ス各場合ニ於ケル事實ヲ綜合シテ之ヲ認定スヘキ問題ナリ而シテ隱居者カ隱居後其財産ヲ自己ノ所有物トシテ使用、處分シタルノ事實ハ概シテ留保ノ意思表示ト認ムルコトヲ得ヘシト雖モ此ノ如キハ素ヨリ裁判ニ依リテ決スヘキモノニシテ登記官吏ニ於テ調査認定スヘキニ非ス

三 民法施行後ニ於ケル留保ハ民法第九八八條ノ手續ニ依ラサレハ無効タルハ勿論ナリ

四 或ル財産ニ付キ家督相續人ヨリ相續人トシテノ登記ノ申請アル場合タルト隱居者ヨリ其財産ニ付キ留保若クハ處分ニ關スル登記ノ申請アル場合タルトナ問ハス登記官吏ハ其申請カ形式上登記法ノ規定ニ反セサル以上ハ之ヲ受理スヘキモノトス

五 隱居者カ家督相續登記申請前目的タル不動産ニ付キ所有權ノ移轉登記又ハ保有登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ其登記ト相續人ノ相續登記トハ兩立スルコトヲ得サルヲ以テ隱居者ノ權利ト相續人ノ權利ノ實質上優劣ハ之ヲ裁判上ノ判定ニ委シ隱居者ノ登記ハ形ニ於テ相容ルヘカラサル相續登記ノ申請ハ許スヘカラサルモノト

五

不動産登記法第九條第二號ニ依リ一先ツ却下スヘキモノトス  
反之隠居者カ他物權設定ノ登記ヲ爲シタル後相續人ニ於テ相續登  
記ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テハ其物權登記ノ效力如何換言スレ  
ハ之ヲ以テ相續人ニ對抗スルコトヲ得ヘキヤ否ハ登記官吏ニ於テ  
判定スルヲ要セス其登記アルカ爲相續ニ因ル所有權取得ノ登記申  
請ヲ却下スルコトヲ得ス

六 相續ノ原因トスル登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ不動産登記  
法第四一條ニ依リ戸籍吏ノ書面等ニ依リ相續ノ家督ナルヤ將タ遺  
産相續ナルヤハ添付書面ニ就キ其相續關係ヲ調査セザルヘカラス  
(大正二年六月三〇日民第一三二號法務局長回答)

●不動産登記法第一〇二條ノ三ノ適用ニ關スル件  
不動産登記法第一〇二條ノ三ハ同法施行細則第四四條ノ三ニ依リ  
河川法ノ規定ニ依リタル場合ニ限り適用スヘキモノトス(大正二  
年六月二五日民第七三號法務局長通牒)

●産業組合法第四〇條第二項ノ解釋ニ關スル件

産業組合法第四〇條第二項ノ報告ハ知レタル債權者ナルト否トテ  
問ハス總テノ債權者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス隨テ若シ知レタル  
債權者ノミニ報告ヲ爲シ出資ノ減少ヲ決行シタル後他ノ債權者ノ  
顯ハルトキハ其減少ハ無効ニ歸スルノ虞アルヲ以テ清算ノ規定  
(産七五條民七九條)ニ準シ公告ヲ以テ報告ヲ爲シ尙ホ知レタル債  
權者ニハ各別ニ報告ヲ爲スヲ相當トス(大正二年七月四日民第一  
三一號法務局長回答)

●會社ノ破産宣告ニ因ル協議契約ノ確定ノ效力ニ關

ルモノニシテ又兩方轉付命令ヲ得タル後爲シタル丁ノ差押ハ何等  
ノ效力ヲ生ゼザルコト勿論トス(大正二年七月一〇日民第二〇四  
號法務局長回答)

●民事訴訟法及執達吏手數料規則ニ關スル疑義ノ件

民事訴訟法第五七八條ニ所謂債權者トハ執行力アル正本ニ因リ配  
當ヲ要求スル債權者及其他ノ配當加入債權者ヲモ包含ス(大正二  
年七月一六日民第二七七號法務局長回答)

●改正裁判所及檢事局事務章程ノ疑義ニ關スル件

一 司法大臣ニ爲スヘキ區裁判所檢事局ニ關スル稟何報告ハ別段  
ノ例規アルモノヲ除キ他ハ總テ區裁判所檢事局ノ長ノ名ヲ以テ爲  
スヘキモノトス  
二 區裁判所檢事局ニ於テ處分シタル犯罪事件ノ報告及恩赦出獄  
者ノ犯罪報告ハ所轄地方裁判所檢事正ニ於テ爲スヘキモノトス  
三 同章程第二六條第三號ノ場合ニ於ケル大臣又ハ檢事長ニ爲ス  
ヘキ區裁判所檢事ノ出張認可ハ其檢事局ノ長ノ名ヲ以テ爲スヘキ  
モノトス(大正二年七月二三日刑甲第四六號法務局長回答)

●不動産登記法中改正法律施行後ニ於ケル登記取扱  
方ニ關スル件

一 改正法施行後未登記不動産ノ保存登記ヲ爲スニハ改正法施行  
前調製シタル使用登記簿ニ登記スヘキモノトス  
二 従前ノ規定ニ依ル登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘ  
キ條白ナキニ至リタルトキハ改正法施行前ニ調製シタル未使用登  
記簿ニ繼續用紙ヲ設クヘキモノトス

スル件

協議契約ハ破産宣告ノ效力ヲ消滅セシムルモノナルカ故ニ協議契  
約確定シタルトキハ破産宣告前ノ狀態ニ於テ會社ヲ繼續スヘキモ  
ノトス(大正二年六月三〇日民第一三〇號法務局長回答)

●訴訟書類ノ郵便送達證書ニ關スル件

訴訟書類郵便送達ノ場合ニ於テ送達ヲ受クル者ニ交付スヘキ送達  
證書ハ之ヲ廢止セラレタリ(大正二年七月五日法務局長通牒)

●供託受領證ノ保管方ニ關スル件

民事事件ニ付當事者ヨリ裁判所ニ提出シタル供託受領證ハ裁判所  
ニ於テ保管スルヲ相當トス(大正二年六月二七日民第七八五法務  
局長通牒)

●供託金ニ對スル債權轉付命令競合ノ場合ノ效力ニ  
關スル件

甲ヨリ乙ニ對シテ強制執行ニ對シ乙カ民事訴訟法第五〇五條第二  
項第五四七條第二項又ハ第七四三條ニ據リ爲シタル供託金ニ對シ  
丙カ差押及轉付命令ヲ得タル後更ニ甲又ハ丁カ差押タルトキハ丙  
ハ轉付命令ニ依リ供託ノ原因消滅シタルトキハ供託金ノ拂戻ヲ受  
クヘキ乙ノ權利ヲ轉得シタルニ過キサルモノナルヲ以テ甲カ供託  
ノ原因タル事實ニ因リ生シタル損害ノ賠償ヲ求ムル債權名義ニ基  
キ右供託金ヲ差押ヘタルモノナルトキハ丙ノ差押命令及轉付命令  
ハ甲ニ對シ何等ノ效力ヲ生ゼザルモノトス反之若シ甲ノ差押力前  
陳ノ原因ヨリ生シタル債權ニ基クモノニ非サルトキハ丙ハ轉付命  
令ヲ得タル後ノ差押ニ係ルヲ以テ該差押物ハ何等ノ效力ヲ生ゼザ

●改正不動産登記法施行細則ノ疑義ニ關スル件

一 施行細則第三二條ノ二第一項ノ規定ハ際本請求者ニ於テ登記  
簿共同擔保目録ト同一様式ノ用紙ニ不動産ニ關スル權利ノ表示ヲ  
爲シ之ヲ提出シタルトキハ登記官吏ハ之ニ登記事項ヲ附記シ且認  
證文ヲ付シテ際本ト爲シ申請人ニ交付スルコトヲ得ヘキ趣旨ナル  
カ故ニ申請人カ登記簿ト同一様式ノ用紙ヲ用ユル場合ニ其用紙ニ  
不動産ノ表示ヲ附記シテ之ヲ目録ト爲シ共同擔保目録ト同一様式  
ノ用紙ヲ用ユル場合ハ其用紙ニ各不動産ニ關スル權利ノ表示ヲ附  
記シテ之ヲ目録ト爲スヘキモノトス  
二 前項ノ場合ニハ請求人ヨリ提出シタル目録ノミハ一枚五錢ノ  
手数料ヲ徴シ登記簿ヲ附記シタル部分ハ普通ノ手数料ヲ徴スヘキ  
モノトス  
三 改正法施行細則五七條ノ三ニ云云順位番號ヲ記載シタルハ登  
記後共同擔保目録ニ登記簿ノ冊數登記番號等ヲ各表示ノ上部ニ當  
ル欄外ニ之ヲ記載スヘキモノトス(大正二年五月三〇日民事第七  
一四號司法次官回答)

●不動産登記法中改正法律施行上ノ疑義ニ關スル件

一 法第六三條ノ二ニ依リ爲シタル更正登記ハ登記統計年表ニ掲  
記スヘキモノトス

二 施行細則第六一條ノ二ハ第六一條ノ誤植ナリ(大正二年六月五日民事第七四〇號司法官回答)

●共同擔保目錄ヲ添付シタル場合ニ於ケル申請書ニ掲クヘキ不動産ノ表示ニ關スル件

申請書ニ共同擔保目錄ヲ添付シタル場合ニ於テ申請書ニ掲クヘキ不動産ノ表示ハ單ニ「別紙擔保目錄記載ノ通」ト記載セシムル趣旨ナリ(大正二年八月二日民事第三六一號法務局長回答)

●不動産登記事務取扱方ニ關スル件

一 神官カ神社ヲ代表シテ登記ヲ申請スル場合ニ其資格證明書ヲ要ス

二 甲カ自己ノ土地ヲ以テ自己及乙連帶ノ各債務ニ對シ抵當權ヲ設定シタル場合ニ乙ヲ登記簿ニ表示スヘキモノトス

三 差押又ハ豫告登記ノ記入アル土地ニ付キ分合若クハ地目變更ノ登記ヲ申請スルニハ差押ノ記入アル土地ニ付テハ不動産登記法第八一條ノ規定ニ依リ其登記名義人ノ承認ヲ要スルモ豫告登記ノ記入アル土地ニ付テハ此限ニ在ラス

四 公賣處分ニ因ル所有權移轉登記ヲ爲シタルニヨリ職權ヲ以テ其權利ヲ目的トセル抵當權ノ登記ヲ抹消シタルニ其後公賣處分ノ違法ナル原因トシ右移轉登記抹消ノ登記囑託アリタル場合先キ職權ヲ以テ抹消シタル抵當權登記ノ回復ヲ爲スニハ申請ニ依ルヘキモノトス

五 或ル株式會社カ電氣事業ノ爲メ多數ノ土地ヲ買収シ其移轉登記ノ申請書ヲ二十件或ハ三十件ツツ日提出セントスル場合ニ於

場合ニ於テハ登記税法第一九條第一號ニ該當セサルモ登録稅ヲ徵收セラル相當トス

三 同法附則第三條ニヨリ例ヘハ施行前ノ登記簿第十冊使用中繼續用紙ヲ設クル必要ヲ生シタルトキハ之ニ繼續用紙ヲ設クヘキモノトス

四 不動産登記法施行細則第五七條ノ六ニ依ル繼續用紙ハ共同擔保ト同一様式ノ用紙ヲ用ユヘキモノトス

五 不動産登記法施行細則第七一條第二項ノ規定ハ登記簿ノ分設區別タル町村大字其他從前ノ區別又ハ其名稱ノ變更アリタル場合ニ適用スヘキモノトス

六 勅令第九二號第八條ノ二ニヨリ登記ハ耕地整地法第一〇條ノ規定ニヨリ登記稅ヲ免除スヘキモノトス(大正二年六月二〇日民事第五九號及同年八月七日民事第一四三號法務局長回答)

●登記管轄區域並ニ廳名變更ニ付諸帳簿ノ取扱方ニ關スル件

裁判所並ニ登記簿管轄區域變更ノ爲メ登記簿其他ノ諸帳簿表紙ニ記載セル廳名ハ其記載ヲ改ムル外表紙ノ裏面ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス(大正二年六月二七日民事第六七號法務局長回答)

●土地變更登記ヲ官公署ヨリ囑託スル場合ノ取扱方ニ關スル件

土地變更ニ登錄セル都市町村有ノ土地ノ表示ノ變更登記ヲ其公署ヨリ又ハ官廳公署カ登記名義人若クハ相續人ニ代ハリ土地ノ表示ノ變更登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ不動産登記法第八〇

ヲハ其代表者タルコトノ資格ヲ證スル商業登記簿ノ謄本又ハ抄本ハ同日提出ノ分ニ限リ最初ノ一件ニノミ之ヲ附シ他ノ申請書ニ其寫ヲ添付セシムルモ差支ナシ(大正元年一月二〇日民事第八三一號民事局長回答及大正二年六月一四日民事第八〇五號司法官回答)

●不動産登記法中改正事項ニ關スル取扱方ニ關スル件

一 不動産登記法第二一條ノ二ニ依リ提出スヘキ不動産ノ目錄ニ關シ

(イ) 登記簿ノ謄本ナルトキハ請求者ニ於テ表題部ノ記載ヲ爲スヘキハ勿論若シ分合等ニヨリ變更ヲ生シタル場合ハ登記簿ニ基キ其登記ヲモ遺漏ナク記載提出スヘシ但不動産登記法施行細則第三五條ノ二但書ノ場合ニ於テハ抹消ニ係ラサル登記ノミ謄寫スルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ

(ロ) 右ノ外登記事項ハ請求者ニ於テ謄寫スヘキモノニアラスシテ甲區乙區ノ空白アル用紙ヲ提出シ登記官吏ハ登記簿ニヨリテ之ニ記入スヘキモノトス

(ハ) 省令第二五號ハ共同擔保目錄ニ提出シタル場合ノミニ限リ共同擔保目錄ヲ要セサル前項ノ場合ハ請求者目錄ヲ提出シタルトキト雖モ從前ノ通り手数料用紙一枚ニ付金十錢ヲ納ムヘキモノトス

(ニ) 同令「豫備欄ニ登記シタル事項ヲ謄寫セル用紙」トハ共同擔保目錄ノ豫備欄ニ登記アルニ拘ハラズ請求者ニ於テ謄寫セサル爲メ登記官吏其記入ヲ爲シタル場合ト解スヘシ

二 同法第二八條ノ二第一〇二條ノ三第二項第一〇三條第二項ノ條ノ規定ニ依リ囑託書ニ土地臺帳謄本ノ添附ヲ要ス(大正二年七月二二日民事第一七九號法務局長回答)

●土地臺帳謄本ニ關スル件

本年六月一日後發生シタル土地ノ表示變更ノ事由及年月日ハ土地臺帳ニ記載スヘキ旨大藏省ヨリ通知アリタリ(大正二年八月二二日民事第四七四號法務局長通牒)

●婚姻届ト同時ニ爲シタル嫡出子出生届出ニ關スル件

婚姻届ト同時ニ嫡出子出生ノ届出ヲ爲シタルトキハ婚姻届出ノ時ニ認知セラレタルモノトシテ取扱フヘク而シテ出生子ハ民法第八三六條第二項ニ依リ認知ノ時即チ婚姻届出ノ時ヨリ嫡出子ノ身分ヲ取得シ出生ノ時ニ遡ルモノニ非ス(大正二年七月二九日民事第一六〇號法務局長回答)

●未成年者ノ分家届出ノ同意ニ關スル件

戶籍法第一五四條ノ規定ニ依リ分家ヲ爲サント欲スル者カ未成年ナル場合ニ於テハ同法第四六條ニ依リ法定代理人カ届出ヲ爲スヘキモノナルモ果シテ本人ノ本意ニ因ルモノナルヤ否ヤハ單ニ届書ノ上ニ於テ認ムルコトヲ得サルカ故ニ届書ノ末尾ニ本人ノ求メニヨリ同意スル旨記載スルヲ相當トス(大正二年七月二九日民事第一六〇號法務局長回答)

●相續開始前ニ於ケル胎兒ノ相續順位並ニ繼親子關係ニ關スル件

一 戶主甲ノ妻乙懷胎中男子丙ヲ養子ト爲シタル後男子丁出生其

後遺事ヲ經テ甲死亡シタルトキハ丙ヲ以テ相續人トス蓋シ民法第九六八條ノ規定ハ胎兒ハ出生前ト雖モ既ニ生シタルモノト看做シ其利益ヲ爲メ家督相續ノ開始スヘキコトヲ定メタルモノニシテ家督相續ノ順位ニ付キ長幼ノ順序ヲ定ムル標準ヲ規定シタルモノニ非サルヲ以テナリ

二 繼親子ノ關係ハ家ヲ同フスル場合ニ於テハ後夫又ハ後妻カ前夫又ハ前妻ノ地位ヲ承繼シテ婚姻ヲ爲スコトヲ必要トセス從テ左ノ場合ニハ繼親子ノ關係ヲ生ス

四十年乙野花入夫離婚復籍  
戸主 甲 田 甲 郎  
二男 乙 郎

四十一年乙野花二男入籍  
孫 丙 郎  
二男乙郎妻 雪

(大正二年八月二二日民第四五二號法務局長回答)

登記事務取扱ニ關スル件

一 裁判所構成法第一五條第二項ハ裁判所構成法施行條例第一一條第二項ト趣旨ニ於テ異ナル處ナク唯其適用ノ範圍ヲ區裁判所ノ本廳ニマテ及ホシタルニ過キス故ニ從來既ニ登記官吏トシテ登記事務ヲ取扱ヒツツアル出張所ノ書記ニ對シテハ此際登記事務ノ取扱ヲ命スルノ必要ナキモ將來裁判所書記トシテ登記事務ヲ取扱ハシムル場合ニハ區裁判所ノ本廳タルト出張所タルトヲ問ハス裁判所構成法第一五條第二項ニ依リ登記事務ノ取扱ヲ命スヘキモノト

ノ登記ニモ關スル規定ナリ(大正二年八月一五日民第一九二號法務局長回答)

耕地整理登記令第八條ノ二、三ノ適用ニ關スル件

耕地整理登記令第八條ノ二及ヒ第八條ノ三ノ規定ハ舊耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行シタル土地ノ登記ニ關シテモ之ヲ適用スルコトヲ得(大正二年九月一八日法務局長通牒)

不動産登記簿中一部沒收ノ判決アリタル場合ノ執行處分方ニ關スル件

不動産登記簿中一部沒收ノ判決確定ノ場合ニ於ケル執行ハ檢事ヨリ其沒收スヘキ登記簿ヲ保管スル登記官吏ニ其旨ヲ通知スルニ止メ當該官吏チテ相當處理方取扱ハシムルヲ妥當ナリトス(大正二年九月三日刑甲第八七號法務局長回答)

皇族ノ不動産登記取扱方ニ關スル件

皇族ノ不動産登記法ニヨリ登記權利者トシテ不動産ノ登記ヲ囑託又ハ申請スル場合ニ於ケル登記取扱方左ノ如シ  
一、登記ノ手續人皇室財產令第二一條ニ掲ケタル皇族ニ付テハ明治四五年三月一一日當省民事第四七七號通牒御料地ニ關スル登記囑託書式ニ準シ宮内大臣又ハ大臣代理帝室林野局長官ヨリ登記ヲ囑託スヘシ  
二、其他ノ皇族ニ付テハ其皇族ニ附屬セシメラレタル宮内官(別當又ハ家令若シ別當及家令ナキトキハ其事務ヲ取扱フ家務監督又ハ御用掛)ノ官職氏名ヲ以テ登記ヲ申請スヘシ  
三、前項ノ登記ノ申請書ニ掲ケタル登記權利者ノ表示ハ何市何區何

二 裁判所書記ノ登記事務ニ關スル署名ニ付テハ裁判所構成法施行條例第一一條第二項ニ依リ區裁判所出張所ニ於テ登記事務ヲ取扱フ場合ト裁判所構成法第一五條第二項ニ依リ區裁判所ニ於テ登記事務ヲ取扱フ場合トヲ問ハス列事代理ノ肩書ヲ要セス

三 共同擔保目録若クハ共同人名簿ハ元來登記簿ノ一部ナルニ因リ之ヲ謄寫シタルモノニ付テハ登記簿ノ謄寫ノ後ニ連續シ其末尾ニ登記簿ニ依リ之ヲ作リタル旨ノ一箇ノ認證文ヲ附スヘキモノトス

四 共同人名簿又ハ共同擔保目録ノミノ全部又ハ一部ノ謄寫ハ之ヲ許サス登記簿ノ謄本又ハ抄本ハ登記簿自體ニ付キ之ヲ云フモノナルニ付キ申請人カ特ニ細則第三五條ノ三ノ記載ヲ爲ササル限りハ共同人名簿又ハ共同擔保目録ハ當然謄本又ハ抄本ニ連續セラレヘキモノトス

五 不動産共同擔保目録ノ權利ノ表示欄又ハ船舶共同擔保目録ノ船舶ノ表示欄記載方ハ左ノ通りトス

(イ) 土地ノ所有權ヲ擔保スルモノニ付テハ郡村大字地番地目反別坪數

(ロ) 土地ノ所有權以外ノ權利ヲ擔保スルモノニ付テハ(イ)ノ外區名順位番號及ヒ權利ノ種別

(ハ) 建物ノ所有權ヲ擔保スルモノニ付テハ郡村大字地番及ヒ建物ナルコト建物ノ種類構造建坪尙附屬建物

(ニ) 船舶ニ付テハ船舶登記規則第八條第一號及第二號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

六 不動産登記法施行細則第四條ノ六ハ法人又ハ外國會社以外

町何番地某親王(又ハ某王、某親王妃某、某王妃某其內親王、某女王)ト記載スヘシ

皇族カ登記權利者タル場合ハ總テ登錄費ヲ要セス

五、第一項及第二項ノ登記ノ囑託又ハ申請ニ付テハ不動産登記法第三五條第一項第五號ノ書面ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス

六、現在ノ登記名義人ノ表示カ第一項及第三項ニ掲ケタル表示ト符合セサルモ特ニ變更登記ヲ要セス不動産持下等ノ場合ニ於テ登記義務者ノ表示カ登記簿ト符合セサルトキ亦同シ(大正二年九月二七日法務局長第六八四號司法次官通牒)

商業登記取扱方ニ關スル件

株式會社ノ取締役任期滿了又ハ解任ヲ爲シタル場合ニ於ケル變更登記ハ商法第一六七條ノ二チ新ニ追加セラレタル結果取締役ハ任期滿了又ハ辭任等ニ依リ任務終了スト雖モ後任者ノ就職スルマテハ尙取締役トシテ其職務ヲ行フモノナルカ故ニ後任者就職ノ日ヨリ起算シテ二週間内ニ(前任者ノ退任及後任者ノ就職ニ因リ變更登記ヲ)爲セハ可ナリ但前任者ノ退任ノ登記ト後任者ノ就職ノ登記ト同一ノ申請書ヲ以テ申請スル場合ニ於テハ登錄費ハ一件トシテ之ヲ徵收スヘキモノトス(大正二年一〇月一四日民第八二三號法務局長回答)

不動産強制競賣事件ノ配當額ヲ供託シタル場合ニ關スル疑義ノ件

不動産強制競賣事件ニ付キ登記簿上抵當權利者ニ對シ配當期日呼

出狀郵便ニ依リ送達シタルニ同債権者ノ居所不明ノ爲メ其呼出  
狀返戻アリタルニヨリ其旨配當期日調書ニ記載シ配當實施ノ上右  
債権者ニ配當スヘキ金額ヲ民事訴訟法第六九七條同第六三九條第  
四項ニ依リ金庫ニ供託セル場合ニ於テハ該供託金ニ對シ保管金規  
則第一條ヲ適用シ政府ノ所得トスルコトヲ得ヘク滿五年ノ期間ハ  
同條ニ依リ配當期日ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス(大正二年一  
〇月一四日民第六五四號法務局長回答)

●犯罪捜査ニ關シ檢事ノ呼出シタル者ニ日常旅費等  
支給方ニ關スル件

一、本年九月司法省令第三三號ニ依リ日當其他ノ支給方請求ノ期  
限ハ刑法施行法第六五條ヲ準用シ起訴不起訴ノ決定前ニ呼出シタ  
ル者ニ付テハ其決定前請求アリタル場合ニ限リ又起訴不起訴ノ決  
定後呼出シタル者ニ付テハ取調終了ノ即日(若シ請求シ得サル事  
情存スルトキハ其翌日)請求アリタル場合ニ限リ支給スヘキモノ  
ニシテ會計法第一八條ニ依リヘキモノニ非ス  
二、同省令ニ依リ日當其他ノ支給ハ證人、鑑定人通事ニ準スヘキ  
者ニ爲スヘキモノナルカ故ニ被告人ニ準スヘキ犯罪嫌疑者ニハ之  
ヲ支給スヘキモノニ非ス(大正二年一〇月三日刑乙第一八二四號  
法務局長回答)

●登記ノ更正ニ關スル件

不動産登記法第二八條ノ二第一〇二條ノ三第二項第一〇三條第二  
項第三項及耕地整理登記令第八條ノ二ニ依リ不動産ノ表示及登記  
名義人ノ表示ノ變更ニハ登記ノ更正ヲモ包含ス(大正二年一〇月  
三日民第一〇一號法務局長通牒)

●單身戸主死亡ノ場合ニ於ケル取扱方ニ關スル件

單身戸主死亡シ相続人曠缺ノ場合ニ死亡後一ヶ月以上ヲ經過シ相  
續財産ナキトキハ直チニ戸籍法第一八三條ノ手續ヲ爲スヘキモノ  
トス(大正二年一〇月三日民第一〇〇七號法務局長通牒)

●債権ノ假差押ト轉付命令ト競合シタル場合ノ效力  
ニ關スル件

第三債務者ハ債権者ニ對シ金百圓ノ債務ヲ有セリ此中金參拾圓ニ  
對シ債権者甲ヨリノ債権假差押命令ノ送達アリ數日ヲ經テ右百圓  
ノ全部ニ對シ債権者乙ヨリ債権差押命令及轉付命令ノ送達アリタ  
ル場合ニ於テ轉付命令ハ實質上假差押ノ效力ニ制限セラルルニ過  
キスシテ其形式ノ效力ヲ妨ケラレヘキニ非ス假差押債権者甲ハ差  
押債権中三十圓ニ對シ配當要求ヲ爲シタルト同一ノ權利ヲ有スル  
モノナルヲ以テ(民事訴訟法第六三〇條三項參看)此部分ニ對ス  
ル轉付命令ハ差押債権者乙ノ債権力優先アル場合ノ外實質上轉  
付ノ效果發生セサルモノナルモ其餘ノ部分ニ付テハ轉付命令ハ完  
全ニ效力ヲ生スルモノトス又爾後假差押ノ取消アリタル場合ニ於  
テハ轉付命令ノ實質ノ效力ノ制限ハ技ニ除去セラレ命令ハ完全ニ  
其效果ヲ發生スヘキモノトス(大正二年一〇月三日民第九七六號  
法務局長回答)

●公示催告手續ノ管轄裁判所ニ關スル件

商業證券ノ無效宣言ノ爲メ公示催告手續ヲ爲ス場合ニ專屬管轄  
裁判所ハ民事訴訟法第七九條ノ規定ニ依リ定ムヘキモノトス  
(大正二年一〇月三日民第一〇一號法務局長通牒)

●印鑑證明ニ關スル件

二九日民九七五號法務局長回答)  
市區町村長カ不動産登記法施行細則第二五條第一項ニ依リ印鑑ノ  
證明ヲ爲ス場合ニ於テハ印鑑證明書ニ印鑑ヲ貼付シテ之ニ契印ヲ  
爲スノ例ナルモ近來犯罪豫防ノ目的ヲ以テ印鑑紙ノ表面ニ直チニ  
證明文ヲ記載スルノ様式ニ改ムル向モアリ其結果該印鑑ハ同細則  
第二六條ヲ以テ定メタル附録第九號雜形ノ書式ニ違フノ據アルモ  
規定ノ寸法ニ變更ナキ限り便宜之ヲ受領セラルヘシ(大正二年一  
一月一三日法務局長第一〇四六號法務局長通牒)

●登記簿中不實ノ記載ニ係ル部分沒收ノ確定判決ニ  
基ク登記ノ取扱方ニ關スル件

登記簿ノ記載ハ法律ニ別段ノ定アル場合ノ外加除修正ヲ爲シ若ク  
ハ補綴ヲ爲スコトヲ得サルモノトス而シテ登記簿ノ記載ノ不實ナ  
ルコトヲ理由トシテ其記載部分ヲ沒收スヘキ旨ノ判決確定シ檢事  
ヨリ沒收ノ旨ノ通知アルモ斯ノ如キ通知ニ依リテ登記簿ノ記載ヲ  
爲スコトハ法律ノ認メサル所ナルヲ以テ登記官吏ハ該通知書ニ基  
キ不動産登記法第六三條ノ手續ヲ爲ス外何等抹消其他ノ記載ヲ爲  
スヲ得ス(大正二年一〇月八日民第一〇五二號法務局長回答)

●船舶登記ノ登録稅徵否ニ關スル件

府費ヲ以テ新造シタル水上警察用船舶ノ所有權保存登記申請ハ登  
録稅法第一九條第一號及第二號ニ該當セサルニ付免稅スヘキモノ  
ニ非ス(大正二年一〇月一三日民第一〇六二號法務局長回答)

●刑事略式手續ニ於ケル豫告及命令ニ對スル疑議ノ  
件

刑事略式手續ニ於テ被告人カ豫メ司法警察官若クハ檢事ニ對シ異  
議ノ申立及ヒ正式裁判請求ヲ拋棄スル旨申立テ置クモ豫告若クハ  
命令ヲ發シタル後ニアラサレハ有效ニ拋棄シ得サルモノトス(大  
正二年五月二三日刑甲第一〇八號法務局長回答)

●陸軍軍人服役令施行規則第二條ノ公訴ノ時效起算  
方ノ件

明治四四年一二月陸軍省令第一六號陸軍軍人服役令施行規則第二  
條ノ前略一四日以上本籍地外ニ旅行云トアルハ旅行ヲ了リ本籍  
地ニ歸着シタル日ヨリ公訴時效ノ期間ヲ計算スヘキモノトス(大  
正二年一月一三日刑乙第二四〇八號法務局長回答)

●女婿ト爲ス爲メニスル縁組ニ關スル件

婚姻年齡ニ達セサル女子ニ配センカ爲メニスル縁組ハ普通ノ養子  
縁組ニシテ婿養子縁組ニ非ス隨テ推定家督相續人タル男子在ル場  
合ニ於テハ此縁組ヲ爲スヲ得サルモノトス(大正二年一月二日  
日民第一〇一號法務局長回答)

●續柄ノ訂正ニ關スル件

身分登記變更ニ因リ男女ニ改メタル結果他ノ者ノ續柄ニ變更ナ  
來スヘキ場合ニ於テハ戸籍カ戸籍法實施後ニ編製セラレタル否  
トニ拘ハラス同一戸籍内ノ者(抹消セラレタル者ヲ包含ス)及其家  
ヨリ同一戸籍吏管轄内ノ他家ニ入りタル者ノ續柄ハ其戸籍吏限リ

訂正スヘシ次ニ他家ニ入りタル者カ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ屬スルトキハ訂正シタル戸籍ノ謄本ヲ添へ續柄變更ノ旨ヲ他ノ戸籍吏ニ通知シ通知ヲ受ケタル戸籍吏ハ之ニ基キ續柄ヲ訂正スヘシ(大正二年一月二十七日民第一〇五七號法務局長回答)

●外國文ヲ以テ記載シタル診斷書ノ取扱方ニ關スル件

外國在留者死亡シタルトキハ死亡ノ事實確認ニ關シテハ在外公館ニ於テ錯誤ナキコトヲ認メテ屬書ヲ受理シ送付アル管轄ルヲ以テ戸籍吏ハ其儘之ヲ受理スヘシ(大正二年一月九日民第一一七同號法務局長回答)

●寄留ノ意義ニ關スル件

明治四年四月四日大政官布告寄留ニ關スル規定第一六則ニ依レハ逗留九十日以上ハ總テ寄留トシテ取扱フヘキモノナルカ故ニ現ニ居住セザル場所ニ於テ寄留ノ届出ヲ爲スコトヲ得サルモノトス從テ寄留ノ場所ハ一個所ニ限リ之ヲ定ムヘク假住所(民法第二四條民事訴訟法第一四三條、刑事訴訟法第一八條)ノ如キハ寄留ニ關スル規定ニ依リ之ヲ届出ツヘキモノニアラス而シテ寄留ノ届出ハ住所又ハ居所ノ存スル他ノ市町村ニ之ヲ爲スナ得ヘキモ寄留取扱上其届出ノ場所カ住所ナリヤ居所ナリヤチ區別スルノ必要ナシ(大正二年一月二〇日民第一一七七號法務局長回答)

●不動産登記申請書添附書類ノ原本還付ニ關スル件

不動産登記法施行細則第四四條ノ八ノ規定ニ依ル書類ノ原本中ニ

一、國稅徵收法第二三條ノ一ニ依リ中央金庫出納役ニ通知シタルモノノ謄本ヲ稅務署長ヨリ徵ス

二、保管物取扱規程第一〇條ノ例ニ依リ保管證書ニ拂戻ノ裏書ヲ爲シタル上之ヲ稅務署長ニ交付ス

三、右交付シタル保管證書ニ付稅務署長ヨリ受領證書徵ス

●轉付命令ニ依リ轉付セラレタル保釋保證金交付方ノ件

林侃ハ其債務者小長井壽太郎カ中央金庫ニ寄託シタル保釋保證金百圓ノ拂戻ヲ受ケヘキ債權ニ付支拂ニ換ヘ券面額ニテ之ヲ自己ニ轉付スルノ命令ヲ受ケ之ヲ債務者タル小長井壽太郎及第三債務者タル中央金庫ニ送達セラレシト共ニ該保釋保證金還付ノ場合ニハ(明治二七年大藏省令第二號第五條ニ因リ)右林侃ニ下付相成度旨ヲ申出テ然ルニ右保釋保證金ニ付事件主任官ヨリ納入ヘ還付スルノ通知アリタルヲ以テ右ノ手續ニ依リ保釋證書ヲ右林侃ニ交付ス

一、林侃ヲシテ保釋保證金下付願ヲ提出セシム但右下付願ニハ區長ノ印鑑證明書ヘ轉付命令謄本ヲ添附セシム

二、保管物取扱規程第一〇條ノ例ニ依リ保管證書ニ拂戻ノ裏書ヲ爲シタル上之ヲ林侃ニ交付ス

三、右交付シタル保管證書ニ付林侃ヨリ受領證書徵ス(大正二年一月二日司法大臣官廳會計課、大審院、東京控訴院、東京地方裁判所會計課通報)

●不動産登記取扱方ニ關スル件

司法省訓令回答要旨

ハ不動産登記法第三五條第一項第四號及第五號ノ書面ヲモ包含スルモノトス(大正二年一月二〇日民第一一一〇號法務局長回答)

●勞役場留置執行中假ニ其場ヲ許サレタル場合ニ關スル疑義之件

勞役場留置執行中假出場ヲ許サレタルトキハ出場ノ日ヲ以テ執行ハ終了スルモノニシテ執行未済ニ該當スル罰金科料ハ之ヲ徵收スルヲ得サルモノトス(大正二年二月二日刑乙第二七三七號法務局長回答)

●差押又ハ轉付セラレタル保釋保證無交付方ニ關スル件

國稅徵收法第二三條ノ一ニ依リ差押セラレ又ハ轉付命令ニ依リ轉付セラレタル保釋保證金交付方ニ關スル東京地方裁判所ノ實例

●國稅徵收法第二三條ノ一ニ依リ差押セラレタル保釋保證金交付方ノ件

稅務署長ハ滯納ニ係ル稅金額徵收ノ爲メ中央金庫ニ寄託シタル保釋保證金ニ付拂戻ヲ受ケヘキ債權ニ對シ差押ヲ爲シ中央金庫出納役ニ通知スルト同時ニ該保釋保證金還付決定ノ際ハ(明治二七年大藏省令第二號第五條ニ因リ)右稅務署長ニ交付相成度旨ノ通知アリタリ然ルニ右保釋保證金ニ付事件主任官ヨリ納入ヘ還付スルノ通知アリタルヲ以テ右ノ手續ニ依リ保釋證書ヲ右稅務署長ニ交付ス

一 耕地整理組合カ解散シタル後ニ於テ從前ノ既登記土地ニ對シ換地交付ノ登記手續ヲ遺脱シタルモノアルトキハ組合長ヲシテ證明書ヲ添付シ更正登記ヲ申請スヘキモノトス

二 登記簿通知書ト土地臺帳ト地目番別符合セザル旨ヲ以テ返戻セラレタル場合ニ於テハ所有權ノ登記名義人ニ對シテ登記カ土地臺帳ノ記載ト符合セザルコト並ニ其不適合カ登記ノ錯誤ニ原因スルカ又ハ登記事項ニ變更ヲ生シタルニ拘ハラズ變更登記ヲ爲サザリシニ原由スルトキハ遲滞ナク更正又ハ變更ノ登記ヲ申請スヘキ旨ヲ通知シ土地臺帳所管廳ニ對シテハ通知書カ登記簿ノ記載ト符合セザル旨及右ノ通知ヲ爲シタル旨ヲ付籤シ登記簿通知書ヲ再送シ置キ當事者ノ申請ニ因リ更正又ハ變更ノ登記ヲ爲シタルトキ更正ノ訂正ノ通知ヲ爲スナ相當トス

三 甲ヨリ乙乙ヨリ丙ニ土地所有權移轉シタルモ登記ヲ爲ササル内乙逃走行齋不明ト爲リタルトキ丙ハ甲乙及乙丙間ノ移轉原因ヲ疎明シテ二個ノ假登記ノ假處分命令ヲ申請スルコトヲ得ス蓋シ甲乙間ノ假登記ニ付テハ丙ハ登記權利者ニ非ラサルヲ以テナリ但シ甲乙間ノ移轉登記ニ付テハ丙ハ民法第四二三條及不動産登記法第四七條ノ二ニ依リ乙ニ代位シテ其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ得ヘク乙丙間ノ移轉登記ニ付テハ右ノ登記ヲ爲シタル後不動産登記法第二條及第三條ニ依リ假登記ヲ爲スコトヲ得ヘシ(大正二年一月二七日日民第一二九一號法務局長回答)

●賣藥規則第二〇條第二一條ノ適用ニ關スル疑義ノ件

一 賣藥規則第二〇條第一條ハ免許證札ヲ受ケタル賣藥ノ請賣又ハ行商ヲ爲シタル場合ニ限リ適用スヘキモノトス無免許ノ賣藥ヲ請賣又ハ行商シタル者ハ規則第二三條前段ニ依リ無鑑札營業者ノ共犯トシテ處分スヘキモノトス

二 他人ノ調製シタル無免除ノ賣藥ヲ其許諾ヲ得シテ效能用法ヲ口授シ販賣シタル者ハ獨立ノ無鑑札營業者トシテ第二三條ニ依リ處分スヘキモノトス(大正二年一月一六日刑乙第三一二九號 法務局長回答)

●商業登記ニ關スル疑義ノ件

一 監査役選任ノ場合ニ於ケル變更登記ノ法定期間ハ商法第一八九條ニ於テ準用シタル第一六四條第二項ニ依リ委任ニ關スル規定ニ從フヘキモノニ付株主總會ニ於テ選任セラレタル者カ之ヲ承認シタルニ因リテ(民法第六四三條參看)茲ニ始メテ其選任ノ效力ヲ生スルモノナルカ故ニ其效力ヲ生シタル日即就職ノ日ヨリ起算スルヲ相當トス又同法第一八九條ニ於テ準用シタル第一六七條ノ二ノ場合ナルニ於テハ監査役力任期滿了又ハ辭任等ニ因リ任務終了スト雖モ後任者ノ就職スルマテハ尙監査役トシテ其職務ヲ行フモノナルカ故ニ後任者就職ノ月ヨリ起算シテ法定期間ニ前任者ノ選任及後任者ノ就職ニ因リ變更登記ヲ爲スモ妨ケナシ尙ホ登記義務者カ登記ヲ爲スコトヲ怠リタル理由ヲ以テ之カ制裁ヲ加フルニハ其過失ニ因リ法定ノ期間内ニ登記ヲ爲サザリシ事實ノ存スルコトヲ要スルモノニ付假令法定期間經過後登記ノ申請ヲ爲スモ登記義務者ニ懈怠ノ事實ナキ限りハ之カ制裁ヲ受クヘキモノニ非ス

二 非訟事件手續法第一四八條ノ規定ハ當事者ノ錯誤又ハ遺漏ニ出テタルト時タ登記所ノ錯誤又ハ遺漏ニ出テタルト時問ハス總テ之ヲ更正登記トシテ同條ノ適用ヲ受クヘキモノトス而シテ更正登記ノ申請期間ニ付テハ別段ノ定ナキヲ以テ當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ何時ニテモ管轄登記所ニ其更正ヲ申請スルコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トス又支店ヲ出張所ト登記シ居リタル場合登記ノ錯誤ト見ルヘキニ付當事者カ之ヲ發見シタルトキハ非訟事件手續法第一四八條ノ規定ニ依リテ登記ノ更正ヲ申請スルコトヲ得ヘク登記所カ之ヲ發見シタルトキハ同法第一五一條ノ六ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スルヲ相當トス(大正三年一月三日同第一二一七號 法務局長通牒)

●刑事略式手續ニ於ケル略式命令豫告ニ對スル異議申立ノ取下ニ關スル件

略式命令ヲ發スルヤ又公判手續ヲ爲スヘキヤハ獨リ被告人ノ意思ノミニ一任シタルニ非スシテ裁判長ノ意見ニ依リテ亦略式命令ヲ發セサルコトアルハ刑事略式手續法中ノ規定ニ依リ明カナリ兩シテ異議ノ申出ニ因リテ裁判所カ呼出狀ヲ發シタルトキハ裁判所ハ之ニ依リ公判手續ヲ爲スヘキコトヲ表示シタルモノナレハ其以後ニ於テ被告人ノ爲シタル異議申出ノ取下ハ之ヲ許可シ得サルモノトス(大正三年一月二〇日刑乙第二六七號 法務局長回答)

附 錄

行政裁判所判決要旨索引

一 (附錄索引)

- 祿 制..... 七八、一二、一三、一四
- 賣藥規則..... 一〇
- 土地收用法..... 八
- 同業組合法..... 一五
- 町村制..... 一、二、三、四、五、六、七、一、一、二、一三、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四
- 舊町村制..... 三、一四、一五
- 地方稅規則..... 二、一〇、一四、一五、一八、二四
- 大藏省令第五二號..... 九
- 家祿賞典處分法..... 一、三、四、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、二〇、二三
- 間接國稅犯則者處分法..... 六、一九
- 官民有地境界査定ニ關スル件..... 三、五、七、二〇
- 宅地地價修正法..... 四
- 反別割條例..... 一、九
- 訴願法..... 三、二四
- 軍人恩給法..... 一
- 郡 制..... 二、三、五、六、七、九、一一、一二、一三、一四、一五、一七、二二、二四



行政裁判決要旨索引

- 府縣制.....一、三、四、一、一四、一六、一八、二一、二四
- 國稅徵收法.....二二
- 國有土地森林原野下戻法.....一、二、三、五、八、一、一七、二、三
- 鑛業法.....三、七、一八、二〇
- 鑛業法施行細則.....一七
- 營業税法.....四、五、六、七、二、三、二四
- 營業税法施行細則.....七
- 砂鑛法施行細則.....一六
- 行政裁判法.....二、七、八、一〇、一一、一四、一六、一八、一九、二〇、二二、二四
- 漁業法.....一四、一〇、一一、二二
- 明治二三年法律第一〇六號.....九、一八
- 明治三〇年法律第五〇號.....一〇、一三、二〇
- 明治三三年法律第七五號.....一七
- 市制.....一一、六、二三
- 酒造税法.....六、一、一四
- 所得税法.....一〇、一二、二二

附錄索引畢

行政判決要旨

●村稅賦課ニ關スル裁決取消請求ノ訴

- 一 所政處分ニシテ當該行政廳ノ職權ニ屬シ當時ノ法令ニ照シテ爲シ得ルモノナリ以上偶々行政廳ノ採用セル法令ノ誤謬アルモ之カ爲メ該處分ヲ違法ナリト云フヲ得ス
- 二 國稅府廳稅ノ附加稅ニ付テハ舊町村制中特別ノ名目ヲ定メタルモノナキナリ以テ地價割又ハ營業割ノ名目ヲ以テ地租又ハ縣稅雜稅ノ附加稅ヲ賦課スルモ適法ナリ
- 三 市町村稅地價割ノ課率ニシテ宅地地租ニ對スルモノト其他ノ土地ノ地租ニ對スルモノトノ間ニ明治四一年法律第三七號(明治四四年法律第三二號)ヲ以テ改正セラレタルニ於ケル附加稅制限課率(宅地租ニ付テハ本稅ノ百分ノ九其他ノ土地ノ地租ニ付テハ同百分ノ二)ノ割合ヲ保持セル以上其他價割ハ負擔ノ均衡ヲ保持セルモノナレハ舊市町村制ニ所謂均一ノ稅率ニ準據シタルモノトス
- 四 明治二二年內務省令第二號ニ據リタル處分ト同省令及ヒ之ニ基キ其範圍ニ於テ細目ヲ規定シタル岐阜縣訓令ニ據リタル處分トハ其性質内容ヲ異ニセス(明治四五年第一三九號大正元年一月二六日第二部宣言)

●村會議員選舉無效ノ訴願ニ付縣參事會ノ裁決ニ對スル訴

公告記載ノ議員數ヲ選舉スヘキ法定ノ議員數ニ改ムルモ單純ナル誤謬ノ訂正ニシテ公告事項ノ變更トナラス(明治四五年第一四六號大正元年一月二六日第二部宣言)

行政判決要旨

●國有林下戻請求ノ訴

- 一 御林ハ特種ノ官林ニ對スル稱呼ナリ故ニ御林ニアラザルノ故ニ以テ直ニ民有林ト云フヲ得ス
- 二 山主ナル語辭ハ毛上收益權ノ主體ヲ指シタルコトナキニアラザレハ之ヲ以テ土地所有ノ證據ト爲スニ足ラス(明治三七年第七三九號大正元年一月二一日第二部宣言)

●家祿不足額給與處分不服ノ訴

法令ニ依リテ爲シタル處分ニ錯誤アリト主張スル者ハ其事實ヲ立證セザルヘカラス(明治四二年一一〇號大正元年一月二一日第一二部宣言)

●軍人恩給支給請求ノ訴

軍人ニシテ恩給ヲ受クル者刑ノ首渡ヲ受ケ其執行ヲ猶豫セラレタルトキハ假令執行猶豫ノ首渡ヲ取消サルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過スルモ該期間内ハ軍人恩給法第二五條刑法施行法第三六條ニヨリ恩給ヲ停止セラルルモノトス(大正元年第二〇九號同年一月二一日第一二部宣言)

●專用漁業權違法處分取消ノ訴

- 一 出訴期限經過後ノ行政訴訟ハ受理セラル可キ限リニ非ス
- 二 入漁權ノ登錄處分ニ付テハ漁業法並ニ其他ノ法律勅令ニ於テ行政訴訟ヲ許ス可キ規定ナキヲ以テ受理ス可キ限リニアラス(大正元年第二三五號同年二月一四日第三部裁決)

●村會議員被選舉權ニ關スル訴

現行町村制施行以前ニ村ニ對シ工事ノ請負契約ヲ締結シタルモ其施行後ニ至ルマテ尙工事繼續中ナルトキハ其契約者ハ同法第一五條第三項ニ依リ村會議員ノ裁選舉權ヲ失フモノトス(大正元年第一六五號同年一月二六日第二部宣告)

●裁決取消請求ノ訴

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(行政裁判法第一七條第三項)トノ規定アレハ本件ノ如ク既ニ内務大臣ノ裁決ヲ經タルモノハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス(大正元年第二四四號同年一月二六日第一部裁決)

●國有林下戻ノ訴

一 御留山トハ樹木ノ伐採ヲ禁止シタル山ノ意ニシテ必スシモ官山ナリト稱スルヲ得ス  
二 請ナル文字ハ諸種ノ意ニ用キラレ其用法一定セザレハ請山ヲ以テ直ニ官有ナリト斷スルヲ得ス(明治三十七年第八六六號大正元年一月二三日第一二部宣告)

●縣會議員選舉ニ關スル當選無効ノ訴

一 「凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來」云々ト(舊町村制第七條第一項)アルハ二年以來獨立ノ男子タルヲ要スル趣旨ニアラス  
二 府縣制第六條第二項ノ規定ハ苟モ一年以上直接國稅年額十圓以上ヲ納ム可キ資格アレハ足ルトノ法意ニシテ納稅ノ時期如何ニ關セサルヲ以テ二年度分ノ税金ヲ一時ニ納付スルモ府縣會議員ノ被選舉資格ニ何等影響ヲ來タサス(明治四五年第一八號大正元年一月二三日第二部宣告)

●縣稅賦課ニ關スル縣參事會ニ對スル訴

縣令規定ノ議決期限ノ後ニ爲シタル戸數割毎等賦課額ノ議決ハ徵稅傳令書發布前ニ爲シタルトキト雖トモ違法ナリトス(大正元年第二一二號同年一月二五日第二部宣告)

●郡會議員選舉效力ニ關スル訴

郡制第一五條第四項ハ氏ト名トヲ併記スルニアラサレハ投票ヲ無效トナス法意ニアラサルニヨリ被選舉人ノ何人タルヤヲ確認シ得ル以上氏又ハ名ノミヲ記載シタル投票ト雖モ有效トス(大正元年第二一七號同年一月二五日第二部宣告)

●採掘出願却下處分ニ對スル訴

船積者トシテ陸揚ノ際海底ニ沈没シタル石炭ノ中ニハ其所有權ヲ拋棄セサルモノアルヲ以テ右石炭ハ礦業法第三條ニ所謂廢鐵ナリト云フヲ得ス(明治四五年第三六號大正元年一月二六日第三部宣告)

●國有土地林野引戻請求ノ訴

散野ハ普通民有ナリトス(明治三八年第一〇三號大正元年一月二七日第二部宣告)

●家祿返還請求ノ訴

舊藩士ノ子弟ニアリテ藩制施行後分家分祿シタルモノヲ藩制違背トシテ廢祿シタルハ違法トス(明治四二年第五四九號大正元年一月二七日第一二部宣告)

●境界査定ニ對スル不服ノ訴

地籍圖畫圖ハ主トシテ民有地整理ノ趣旨ヲ以テ調製セラレタルモノナルカ故ニ官民有境界ヲ定ムル唯一ノ根據ト爲シ難シ(明治四五年第一一號大正元年一月二七日第二部宣告)

●村稅戶別割賦課ニ關スル訴願裁決ニ對スル訴

行政判決要旨

●町會議員選舉ノ效力ニ關スル訴

一 町會議員選舉ノ投票力容易ニ其記載ヲ透見シ得ルモノハ舊町村制第二二條ニ所謂封緘ヲ具備セルモノト謂フヲ得ス從テ無効トス  
二 町會議員選舉ノ投票力全部無効タル以上其選舉ハ舊町村制第二九條第三項ニ所謂選舉ノ規定ニ違反スルモノナレハ取消サルヘキモノトス(大正元年第一七〇號同年一月二三日第二部宣告)

●不當地方稅戶數割取消及既納金還付請求ノ訴

明治一三年太政官布告第一六號地方稅規則ニ所謂戶數割ハ戶ヲ基礎トス故ニ之ヲ賦課スルニハ必スヤ一戶ヲ構フル者タルヲ要ス從テ何等構戶ノ事實ナキ者ニ對シ之ヲ賦課シタルハ違法ナリ(明治四五年第一號大正元年一月二五日第二部宣告)

●郡會議員資格消滅ノ決定ニ對スル不服ノ訴

衆議院議員選舉法附則ニ規定セル輕禁錮又ハ罰金ニ該罪罪ハ舊町村制ノ適用ニ對シテハ公權停止ヲ附加ス可キ輕罪ト看做ス可キモノトス  
二 舊町村制第九條第二項ニ所謂公判ニ付セラレタルトキハ檢事ノ起訴又ハ豫審判事若クハ上級裁判所ノ事件ヲ移シ裁判ニ因リ事件カ公判ニ繫屬セシトキ指シスモノニシテ公判開廷セラレタルトキノミヲ指シタルモノニアラス  
三 町村公民權ヲ停止セラレタル者カ郡會議員ニ當選シタルトキハ其當日ニ於テ其職ヲ失フヘキモノトス(明治四五年第一四四號大正元年一月二五日第二部宣告)

●訴願法第八條第三項ノ宥恕ス可キ事由ノ有無ニ關スル下級行政廳ノ認定ノ當否ハ上級行政廳ニ於テ之ヲ審查シ相當ノ處分ヲ爲スモノトス(明治四五年第四八號大正元年一月二七日第二部宣告)

●村會議員選舉效力ニ關スル裁決取消請求ノ訴

一 村會議員選舉ノ效力(町村制改正前ニ執行シタル)ハ舊町村制ノ規定ニ依ルヘキモノトス  
二 市町村制ハ一人ノ選舉人カ同一被選舉人カ記載セル投票用紙ニ枚ヲ提出シタルトキハ其一枚ヲ有效トスル法意ナリ  
三 町村制改正前ニ執行セル選舉ヲ取消スニハ舊制ニ依ルヘキモノトス  
四 町村制改正前執行セル村會議員選舉ノ效力ニ付キ該制改正前爲シタル村會ノ裁決ニ對シ該制改正後府縣參事會ニ提起セラレタル訴願ハ明治四四年勅令第二四三號第七條第二項及新制第三三條第二項ニ依リ之ヲ受理スヘキモノニシテ舊制第三七條ニ依リ之ヲ受理スヘキモノニ非ス(明治四五年第一一九號大正元年一月二七日第二部宣告)

●村稅賦課取消ノ訴

一 主稅カ特定行爲稅ノトキハ附加稅モ亦特定行爲稅ト認メザルヲ得ス從テ主稅タル縣稅雜稅漁業稅カ特定行爲稅タル場合ニ附加稅トシテ町村內ニ住居ヲ構ヘス又ハ滞在セサル者ノ特定行爲ニ對シ町村稅ヲ賦課スルハ舊制ニ照シテ違法ナリ  
二 漁場ハ單ニ漁獲ノ捕獲ヲ爲ス場所ニシテ舊町村制第九三條ニ所謂營業ヲ爲ス場所ニ非ルカ故ニ町村內ニ住居ヲ構ヘス又ハ三箇月以上滞在セサル者ニ漁場ノ收益ニ對スル所得稅ノ附加稅タル村稅所得稅割ヲ賦課スルハ違法トス(大正元年第一七三號同年一月二七日第二部宣告)

●郡會議員當選效力ニ關スル縣參事會裁決不服ノ訴

訴願者カ事由ヲ具シテ訴願期限經過ノ宥恕ヲ申請シタル場合ニハ行政廳ハ其實事ヲ調査スヘキハ勿論宥恕スヘキ事由アリト認メタ

行政判決要旨

● 市キハ當條其訴願ヲ受理スヘキモノトス(大正元年第一八六號同年一月二七日第二部宣告)

● 漁業免許取消請求ノ訴

● 舊漁業法第二四條ニ依リ他人ノ漁業免許ノ取消ヲ求ムル行政訴訟ノ同法施行規則第四九條ニヨリ告示ノ日ヨリ計算スヘキモノトス(明治四〇年第一六〇號大正元年一月二八日第三部宣告)

● 宅地地價修正ニ對スル不服ノ訴

● 市街宅地ノ賣買價格ノ一〇倍ヲ修正前ニ於ケル地價ノ一八倍ヲ超スルトキハ宅地地價修正法第三條第一項但書ノ規定ニ從ヒ修正前ノ地價ノ一八倍ヲ以テ修正地價ト定ムヘキナリ(明治四四年第一〇號大正元年一月二八日第三部宣告)

● 宅地地價修正ニ對スル不服ノ訴

● 宅地地價修正法ニ所謂賣買價格ノ現在ノ收益額ヲ指スモノニアラス(明治四四年第一〇六號大正元年一月二八日第三部宣告)

● 營業稅課稅標準額決定取消請求ノ訴

● 一 出版業ノ業城ハ印刷及販賣ニ在リテ出版ノ貯藏場販賣場ハ營業稅法施行規則第八條第二項ニ所謂直接營業ノ用ニ供スル土地建物ナリト云ハサルヲ得ス

● 二 營業稅法第二條第四項ハ只重複課稅ヲ制限シタルニ過キス從テ出版業者ノ出版物ノ貯藏及販賣ノ用ニ供スル土地建物ノ價格ヲ固定資本ニ算入スルカ如キハ同條ノ範圍外ナリトス

● 三 明治四三年ニ於ケル營業稅法ノ改正前ニハ同法中出版業ト稱スルモノナカリシ爲メ改正前ヨリ事實上出版業ヲ營ミツツアル者ニ對シ改正後ニ至リ猶出版業者トシテ課稅スルモ不當ニアラス(明治四五年第一一三號大正元年一月二八日第三部宣告)

● 營業稅賦課ニ對スル訴

● 營業稅法第二八條ノ四ノ規定ハ營業者カ同法第二八條ノ一ニ對シ

● 縣參事會不法裁決取消請求ノ訴

● 一 郡制第二七條ノ告示カ異議申立人ニ決定書交付以前ニ爲サレタルトキハ其效力ハ右交付ノ時期ヨリ發生ス

● 二 郡會議員當選ノ效力ニ關シ異議ノ申立アリタル場合ニ其決定上必要ナルトキハ郡參事會ハ選舉會ノ決定セル投票ニシテ當事者間ニ争ナキモノト雖モ尙ホ之ヲ審査スルコトヲ得(明治四五年第六號大正二年一月二五日第二部宣告)

● 村會議員選舉取消ニ關スル訴

● 町村制第二二條第五項但書ニ所謂選舉スヘキ議員數トハ每選舉ニ於テ選舉ス可キ議員ノ實數ヲ指示シタルモノニシテ議員ノ實數ヲ指示シタルモノニ非ス(明治四五年第一四九號大正二年一月二八日第二部宣告)

● 郡會議員失職ニ關スル訴

● 郡會議員失職決定ノ取消ヲ求ムル訴訟屬中原告カ該議員ノ職ヲ辭シタルトキハ請求ノ目的ハ消滅スルヲ以テ該請求ハ排斥ス可キモノナリ(明治四五年第一五二號大正二年一月二八日第二部宣告)

● 不當處分取消ノ訴

● 土地境界誤謬訂正願ノ却下處分ヲ取消シ更ニ査定ヲ求ムル事件ニ付テハ勅令中特ニ出訴ヲ許可シタル規定ナケレハ受理スルノ限ニテラス(大正元年第二一三號同二年一月二八日第二部裁決)

● 營業稅課稅標準額決定取消ノ訴

● 行政判決要旨

● 不服アル場合ハ稅務監督局長ニ訴願シ其裁決ヲ不服ニアラサレハ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノト解スルヲ至當トス(大正元年第二四九號同年一月二八日第三部裁決)

● 家祿處分錯誤引直請求ノ訴

● 明治七年九月二日巖手縣吏ノ違第ニ項ハ單ニ從來ノ過度額ノミナリ觀テ明治二年何出ノ祿制即チ特別俸祿ノ制アルコトヲ無視ス從テ該違ハ錯誤ニ出テタルモノトス(明治四二年第一五二號大正二年一月二五日第一一部宣告)

● 家祿給與ニ關スル訴

● 一 兇徒乘乘ノ罪ハ當事犯ナリ

● 二 大赦ハ犯罪ニ對スル法律上ノ效力ヲ全減スルノミニシテ既往ノ事實ヲ復舊スル效力ナシ

● 三 刑ノ效果ハ一身ニ止マルトノ思想發達セサル時代ニハ法令ノ規定上主人ノ犯罪行為ニ因リ家族ノ制裁ヲ受ケシ例少ナカラス

● 明治三〇年法律第五〇號ハ父ノ犯罪ニ座シテ正當ニ族祿ヲ沒收セザレタル者ヲ救濟スル趣旨ニ非ス(明治四二年第五八七號大正二年一月二二日第一一部宣告)

● 縣會議員當選效力不當裁決取消ノ訴

● 府縣制第六條第二項ニ「直接國稅年額一〇圓以上ヲ納ムル者」トアルハ地租ニ付テハ土地所有權ヲ有シテ納稅義務ヲ負フ者ヲ稱シ買權者トシテ單ニ納稅義務ヲ負フ者ノ如キハ之ヲ包含セス(明治四四年第二一〇號大正二年一月二三日第二部宣告)

● 村會議員失職ニ關スル訴

● 一 滯納處分ハ滯納者カ後日督促手數料滯納處分費並ニ税金ヲ完結スルモ之カ爲メニ既に在リ及シテ消滅セス

● 二 公民權停止ニ基ク村會議員失職決定ノ時期ニ關シテハ法上何等ノ制限ナキカ故ニ財產差押解除以後ニ於テ村會カ失職ノ決定ヲ爲スモ違法ニ非ス(大正元年第二一九號同二年一月二三日第二部宣告)

● 不當處分取消國有林野下戻請求ノ訴

● 小物成ハ多クノ場合ニ於テ毛上ノ收益稅ナルノミ必スシモ毛上ノ收益稅ニ限ルモノニアラサレハ單ニ小物成ナルコトヲ知ルモ之ヲ以テ高受トシテ所有ヲ推定スルノ事實ヲ妨クルニ足ラス(明治三七年第一二七一號大正二年一月二九日第一一部宣告)

● 縣會議員失職ニ關スル訴

● 町村制第九條第二項ニ「禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキ」トアルハ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキヲ指示ス(大正元年第一七八號同二年一三〇日第二部宣告)

● 不當裁決取消ノ訴

● 村長ハ滯納處分者又ハ第三者ヨリ督促手數料滯納處分費及ヒ税金ノ完納ナキ以上法律上ノ理由ナクシテ任意ニ財產ノ差押ヲ解除シ得サル者トス(大正元年第一八三號同二年一月三〇日第二部宣告)

● 官民有土地區分ノ査定ニ關スル不當處分取消ノ訴

● 土地官民有區分査定願ノ却下處分ヲ取消シ更ニ右境界査定ヲ求ムル事件ニ關シテハ法令中出訴ヲ許シタル條規ナシ從テ受理ス可キ限ニ非ス(大正二年第六號同年一月三〇日第二部裁決)

● 郡會議員當選取消及當選決定要求ノ訴

● 行政判決要旨

● 選挙区二區長十一名ノ選挙ノ行ヒシニ左記ノ者當選セリトアリ  
ア各大字ヲ掲ケ其下ニ各當選區長ノ氏名アルニ於テハ村會カ村  
ノ區域ヲ各大字ニ依リ數區ニ分チ之カ區長ヲ置クコトヲ議決シタ  
ルモノト認ム(大正元年第二二六號同二年二月一日第二部宣告)

● 縣參事會不當裁判取消ノ訴

投票ノ記載力運筆拙ナルモ文字タルヲ失ハス且誤字又ハ衍字アル  
モ被選舉人ヲ確認シ得ルトキハ其投票ハ郡制第一六條第三號ニ該  
當スル者ノ投票ナリト云フコトヲ得ス(大正元年第二二二號同二  
年二月四日第二部宣告)

● 不當裁判取消請求ノ訴

選舉人ハ普通候補ニ立チタル者ヲ選舉スルモノト認ムルヲ相當ト  
ス從テ同姓名ノ被選舉權者二人アルトキハ候補ニ立チタル者ノ氏  
名ヲ記入セル投票ハ候補者ヲ指示シタルモノト認ム可キモノトス  
(明治四五年第一四八號大正二年二月六日第二部宣告)

● 營業稅課稅標準額審査決定ニ對スル訴

稅務署長ノ審査決定ニ對シテハ地方上級行政廳タル稅務監督局長  
ニ對シテ訴願ヲ爲シ其裁決ヲ經タル後ニアラスンハ行政訴訟ヲ提  
起スルコトヲ得ス(大正二年第一五號同年二月六日第三部裁決)

● 東京稅務監督局ノ訴願却下ニ對スル訴

間接國稅則者處分法ニ依リ差押處分ニ付テハ明治三三年法律第  
一〇六號及ヒ其他ノ法令ニ行政訴訟ノ提起ヲ許可シタル規定ナシ  
(大正二年第一六號同年二月六日第三部宣告)

● 秩祿處分指令取消給與ノ訴

一 岸和田藩藩卒ノ奉公向差免處分ハ秩祿ノ支給停止ニシテ廢卒  
廢祿處分ニ非ス而シテ處分ノ原因藩債償却ノ爲メナル以上ハ明  
治五年第一二六號ニ依リ復祿セシム可キモノナリ  
二 藩卒ニ組換ヘラレタル舊階級ハ藩卒ト成リタル以後ニ代テ重  
スルニ非サレハ永世秩祿請求ノ權利ナシ(明治四二年第一〇七號  
大正二年二月一七日第一部宣告)

● 秩祿不足額請願ニ對スル不當處分不服ノ訴

一 明治三年一月一日〇日太政官布告秩祿ノ種類及科目ニ  
適用ス可キモノトス  
二 右秩祿但書ハ家祿ノ總計現米一石以下ノ者ニ限リ適用ス可  
キモノトス(明治四二年第一六七號大正二年二月一七日第一  
部宣告)

● 立證責任ノ件

法令ニ從ヒ爲シタル處分ニ錯誤アリト主張スル者ハ其事實ヲ立證  
セサル可ラス(明治四二年第三九〇號大正二年二月一七日第一  
部宣告)

● 家祿給與不足額請求ニ對スル不當處分取消ノ訴

明治三年一月一日〇日太政官布告秩祿ノ知行ニ依リ有祿者ニ付テ  
ハ其實收現米ヲ基トシ之ヲ四割物成ノ高ニ引直シ二分五厘ノ制ヲ  
適用ス可キモノトス(明治四二年第五七三號大正二年二月一七日  
第一部宣告)

● 境界査定取消請求ノ訴

大林區署カ境界判定ノ資料トナル可キ書類物件ノ調査、實地ノ觀  
察ヲ課リタルヲ理由トシテ一旦確定シタル境界査定處分ヲ取消ス  
如キハ境界査定ニ關スル制度ノ精神ニ違反セル違法處分ナリ(明  
治四五年第六四號大正二年二月一八日第二部宣告)

● 郡會議員失職裁決取消ノ訴

行政判決要旨

● 不當村稅賦課及不當裁決取消ノ訴

一 町村カ繼續費ヲ設定スルニハ繼續年期間及各年度ノ支出額ヲ  
定ムルコトヲ要ス  
二 町村ノ事務又ハ營造物ニ關スル規程ニシテ舊制施行中町村會  
ノ議決ヲ經テ公告セラレタルモノト雖モ町村條例又ハ町村規則ト  
シテ內務大臣又ハ郡參事會ノ許可ヲ受ケタルモノニ非サレハ町村  
ヲ羈束スル效力ナク有セズ  
三 明治三八年新潟縣令第二四號並明治四一年同縣令第一三號ハ  
工事ノ施行ニ關スル規定ニシテ工事費ノ豫算ニ關スル規定ニアラ  
ス故ニ該縣令ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケサルモ豫算ノ成立ヲ妨ケス  
四 町村豫算ノ歲出ニ掲ケラレタル費目カ町村費ヲ以テ支辨シ得  
可キモノニシテ且其豫算カ適法ニ成立セシ以上之ニ基キ村稅ヲ賦  
課スルハ適法ニ非ス(大正元年第一八〇號同年二月八日第二部宣  
告)

● 酒精造石稅免除取消處分ニ對スル裁決不服取消請  
求ノ訴

一 法令ニ特別ノ規定ナキ場合ハ行政官廳ハ自己ノ爲シタル不法  
處分ヲ取消ス可トナリ得  
二 酒精造石稅徵收證據及ヒ免除ニ關スル法律ニ依リテ造石稅ノ  
徵收ヲ證據セラレタル酒精力免稅セラレルニハ法律所定ノ事實ア  
ルコトヲ要ス故ニ其事實ノ證明書類カ不正ナルトキハ製造人カ其  
證據ノ不正ナルコトヲ知リテ免稅ヲ申請セルトモト拘ラス免稅  
處分ヲ取消スハ適法ニ非ス(明治四五年第一四二號大正二年二月  
一五日第三部宣告)

● 禁錮以上ノ刑ノ言渡アリタル以上假令執行猶豫ノ宣告アリタル場  
合ト雖モ町村制第九條第二項公民權停止ノ效力ナ生スルモノトス  
(大正二年第一號同年二月一八日第二部宣告)

● 鑛區稅減額請求ノ訴

鑛業法第八四條第三項ノ月割計算ノ規定ハ鑛業權者中隨意ニ其權  
利ノ拋棄ヲ爲シタル廢業ノ場合ニ適用ス可キモノニ非ス(大正元  
年第二四號同二年二月二五日第三部宣告)

● 營業稅課稅標準額審査決定取消請求ノ訴

一 營業稅法施行規則第七條ノ二ニ依リ營業稅法第一條ニ掲ケサ  
ル營業ニ對スル資本金額トシテ控除ス可キ見積資本金額ハ同施  
行規則第五條ニ依リ總資本額ニ計算セラレタルモノト同種目ヨ  
リ成ル可キモノトス  
二 株式會社ノ總資產額ニ對スル營業稅法第一條ニ掲ケサル營  
業ニ係ル資產金額ノ割合ト同割合ヲ總資本金額ニ對シテ保ツ  
金額ヲ控除ス可キ見積資本金額ト爲シタルハ違法ニ非ス(大正  
元年第二三八號同二年二月二七日第三部宣告)

● 家祿給與申請ニ對スル不當處分取消請求ノ訴

舊松山藩藩卒ハ他ノ藩卒ト共ニ明治五年八月大藏省指令ヲ以テ復  
舊ヲ命ゼラレタルモノトス(明治四二年第六二〇號大正二年三月  
三日第一部宣告)

● 違法處分取消試掘權許可請求ノ訴

鑛業法第三二條ニ所謂鑛業ノ出願カ公益ヲ害スルモノナリヤ否ヤ  
ハ行政廳カ漫然其欲スル儘ニ認定スルコトヲ許シタルモノニ非ス  
シテ相當ノ根據ト爲ル可キ事實ノ存在ヲ必要トス可キハ當然ナリ  
故ニ單ニ右認定ハ自由裁量ニ屬ストノ理由ノミニ依リ行政訴訟ヲ  
許ササルモノニ非ス(明治四五年第九〇號大正二年三月一日第  
三部宣告)

● 郡會議員選舉ノ件

投票ノ記載ニ多少ノ數字誤字アルモ文字ノ形ヲ成シ且其ヲ選舉シ

行政判決要旨

タルモノト確認シ得キトキハ之ヲ有效トス (大正元年第一六〇號同二年三月一日第二部宣告)

●國有林野下戻不當處分取消請求ノ訴

- 一 山役永カ正租ニテアラサル限リハ單ニ之ヲ納メタル事實ノミニ依リ直ニ民有地ナリトスルヲ得ス
- 二 田肥料取場ニ地代金ヲ徴收スルコトハ毛上收益權者モ亦爲シ得ルヲ以テ所有ノ證ト爲スニ足ラス
- 三 毛上採取ハ毛上ノ所有權ナキ者モ亦爲シ得ル場合アルヲ以テ單ニ其事實ノミニテ立竹木ノ所有權アリト云フコトヲ得ス (明治三八年第二〇一號大正二年三月一日第二部宣告)

●出訴期間後ノ行政訴訟提起ノ件

出訴期間經過後ノ提起ニ係ル行政訴訟ハ適法ノ手續ニ違反スルモノトシテ行政裁判法第二七條第一項ニ依リ却下ス可キモノトス (大正二年第三二號同年三月一日等三部裁決)

●土地收用裁決取消ノ訴

- 一 收用ヲ受ケ可キ土地ニ對シ其土地賃借及土石賣渡ノ契約ヲ締結シ之カ登記ヲ了シテ其土地ノ使用權者タルコト明ナル以上ハ土地收用法第五條第一項同第六二條同第八一條第二項等ノ各規定ニ照シ土地所有權者ノ受ケタル審査會ノ裁決ニ對シテ土地所有權者トシテ獨立シテ訴權ヲ實行スルモ妨ケナシ
- 二 又土地收用法第一八條ニハ收用ヲ適用ス可キ事業ニ關スル內閣認定ノ效力ヲ三個月內ニ規定シ然ルニ同法第三四條ニ於テ地方長官ノ公告又ハ通知ノ效力ヲ特ニ一箇年內ニ制限セル所以ハ同法第五條第三項第九條第三項第二〇條乃至第二二條第五六條第五八條等ノ各法文ニ於テ其公告又ハ通知ノ前後ヲ限リテ土地ノ收用又ハ損失ノ補償ニ關スル一定ノ權利關係ノ存在若クハ其作爲ノ效果ヲ確認スルノ規定ヲ成セルヲ以テ右等權利關係ノ確認ニ就テノ效力ヲ特ニ一箇年以内ノ限定ニ趣旨ニ他ナラサルモノトス而シテ同法第一四條ニ依リ內閣認定ノ公告ハ常ニ起業地ノ大體ヲ公告スルヲ例トシ同法第一九條ニ依リ地方

●不當裁決取消ノ訴

登記官吏ノ不動產ニ對スル課稅處分ハ明治三三年法律第一〇六號ニ所謂行政處分ノ處分ニ非ス (大正元年第二五五號同二年三月二日第三部裁決)

●郡會議員當選效力ニ關スルノ訴

「シヨロ」シヨロ「シヨロ」ト記載シタル各投票ノ清水周郎ヲ指シタルモノナレハ有效ナリ原告ハ氏又ハ名ノミヲ記載シタルモノハ無効ナリト云フモ郡制第一五條第四項ハ之ヲ第一六條ニ對照スルニ完全ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載セザルモ其何人タルヲ確認シ難キモノノ外ハ無効トセザル旨趣ナリト解ス可キモノトス (大正二年第八號同年三月二日第二部宣告)

●家祿給與不足額下渡請求ニ對スル不當處分取消ノ訴

- 一 明治三年九月一〇日布告藩制ニ依リ藩知事ハ經費ノ節約又ハ藩債償却ノ爲メ士族卒ノ家祿ヲ廢止シ又ハ削減シ得ルモノトス
- 二 家祿賞典處分法ニ依リ藩高整理公債ノ請求ヲ爲シ得ルモノハ藩制施行後遺法又ハ錯誤ノ處分ニ依リ藩高ヲ喪失シ又ハ減少セラレタルモノニ限リテ以テ藩制中家祿ヲ廢止セラレタルモノハ藩高復舊ヲ請求スルノ權利ナシ (明治四年第九九號大正二年三月二日第一號宣告)

●家祿不當處分取消ノ訴

- 一 舊仙臺藩士卒ノ家祿明治元年中封邑城地ヲ沒收セラレ之ト同時ニ消滅シタルモノナリ從テ新封後更ニ扶助米ノ支給ヲ受ケタル

行政判決要旨

長官ノ公告若クハ通知ニ依リ始メテ收用ス可キ土地ノ細目ヲ土地所有權者ト關係人ニ對シ告知スルノ規定ナルニヨリ地方長官ハ右內閣ノ認定公告ノ範圍ヲ超越セザル限リ起業者ノ申請ニ依リ事業ノ關係及ヒ進捗上必要アリト認ムル場合ハ三箇年以内何時ニテモ收用地ノ細目變更ヲ公告スルノ權能ヲ有ス可キニ依リ地方長官ノ最初爲シタル公告カ現ニ一箇年ノ有効期間ヲ過キテ同法第三四條ニ依リ全ク消滅ニ歸シタル場合ニ方リ同法第一九條ニ依リ更ニ再度ノ公告ヲ爲スモ違法ニ非

三 又土地收用法ニ依リ起業者カ審査會ノ裁決ヲ求メ或ニ審査會カ之ニ對シ裁決ヲ爲ス場合ニハ必スシモ事業ノ進行前又ハ完結以前ナルヲ要セス殊ニ起業者カ同法二二條ニ依リ土地ノ權利取得ノ協議ヲ爲スニ際シ土地所有權者及關係人ニ於テ一應之ヲ承諾シ又ハ強テ拒絕ノ意ヲ表示セザルニ依リ其事業ヲ進行シタル後個協議不調ニ歸スルカ爲メ遂ニ訴訟訴訟ニ至ルノ事例尠ナラサルニ依リ事業ノ進行中又ハ完結後ニ於テ裁決ヲ求メ又ハ之カ裁判ヲ爲スモ敢テ支障ナシトス

四 又起業者カ原告使用權利ノ存在セル土地物件ヲ無斷使用シタル事實アルハ同法第九條第一〇條第二〇條等ノ規定ニ照シテ聊カ不適法ノ行爲タルヲ免レトモ右等工事ノ進行カ原告ノ有ル權利ノ實行上ニ如何ナル程度ノ侵害ヲ被ラシムルニ至リタルヤハ全ク不明ニ屬スルニ依リ右起業者カ原告ニ對スル一時の錯誤ノ不作爲ハ偶之アリトスルモ審査會ノ裁決ヲ之カ爲メ全ク違法ナラシムル理由ト爲スニ足ラス (大正二年第四號同年三月一七日第一號宣告)

●家祿不足額請求ノ訴

- 一 舊福岡藩ニ於ケル切取取リ士卒ハ知行取り藩士ト同率ノ押米ヲ賦課セラレタルモノトス
- 二 押米ヲ控除セル殘高ヲ祿高トシテ其帳簿ニ記載シ届出ヲナセシハ錯誤ナリトス (明治四年第一六二號大正二年三月一日第一號宣告)

●家祿返還請求ノ訴

モノニ非サレハ公債證書ヲ支給ス可キ元祿ナキモノトス

- 一 福岡藩ニ於ケル押米ノ制度ハ其施行多年ニ涉ルト雖モ賦稅タルノ性質ヲ變セズ
- 二 藩制第二項及ヒ明治二年一二月布告ハ執レモ物成高ヲ以テ家祿ト爲スノ旨趣ニ非ス
- 三 祿高公債給與請求ニ關スル行政官廳ノ不許可處分ニ對シ出訴セル場合ニ於テ裁判所カ其事由ヲ相當ト認ムルトキハ之カ取消ヲ爲シ且ツ新ニ公債證書ヲ給與ス可キコトヲ命ジ得ルニ止マリ其不當處分ニ依リ蒙リタル損失ノ賠償又ハ之ニ均シキ處分ヲ命ジ得サルモノトス

四 家祿賞典處分法及同施行法ニハ祿高公債ノ利息起算點ニ付何等規定スル所ナキヲ以テ政府ニ於テ請願許可ノ指令ヲ爲シ又ハ裁判所ニ於テ判決ヲ爲シ其結果トシテ公債證書ヲ發行スル時ヨリ利息ヲ生スルモノト解ス可キモノトス

五 大藏省令第五二號ハ明治三九年度以後ニ公債證書請求權ノ發生シタルモノニ對シテハ適用ス可キ限ニ在ラス (明治四年第四五八號(第二回)大正二年三月二六日第一號宣告)

●損害金請求ノ訴

租稅滯納處分ヲ執行シタル際不正行爲ニ因リ原告カ損害ヲ蒙リタ

ルコトナ理由トスル損害賠償ノ訴訟ハ行政裁判所ニ於テ受理ス可キモノニ非サルコトハ行政裁判法第一六條ノ規定スル所ナルカ故ニ本訴ハ行政裁判所ニ提起スルコトヲ得ス(大正二年第四八號同年三月二七日第三部判決)

●地方稅戶數割ニ對スル訴

明治一三年太政官布告第一六號地方稅規則ノ戶數割ナルモノハ本來戶ヲ基礎トスルモノナレハ一戶ヲ構フル者ニ對スル外之ヲ賦課スルコトヲ得ス故ニ鐵道院職員合宿所ニ居住シ賄料ヲ支辨シ他ノ職員ト共ニ同居シテ食事ノ供給ヲ受クル者ハ一戶ヲ構フル者ト謂フヲ得ス從テ之ニ賦課シタルハ違法タルヲ免レス(大正元年第二二七號同年三月二九日第三部宣告)

●名古屋稅務監督局ノ裁決ニ對スル訴

一 一般醫藥ノ取締ニ關スル明治二二年法律第一〇號藥品營業法藥品取扱規則ノ外別ニ賣藥規則ノ設アリテ賣藥ニ對シ特別ノ取締ヲ加フル所以ノモノハ賣藥ハ公衆ヲシテ醫師ノ指揮ニ依ラス疾病治療ノ爲メニ使用セシムルヲ主タル目的トシテ販賣セラルルカ爲メナリ

二 醫藥ハ天然物タルヲ妨ケサルト同シク賣藥ニ於テモ天然物タルト人工品タルトハ如上ノ關係ニ於テ何等異ナル所ナキヲ以テ天然湧出ノ鐵泉ヲ採酌シ何等物質上ノ變化ヲ加フルコトナキモ前來ノ目的ニ應スル爲メ適當ナル狀態ニアルトキハ之ヲ賣藥トシテ課稅スルハ違法ニ非ス(大正二年第二號同年三月二九日第三部宣告)

●家祿處分不服ノ訴

定額爲スニ當リテハ宜シク賣上高商業ノ實況及ヒ營業名譽標準屬高等ヲ斟酌ス可キヤ論ヲ竣タス然ルニ單ニ營業名譽標準屬高コノミ基キ所得金額ヲ決定シタルハ失當ナリ

二 利益參合ハ地方ニ依リ又商業ノ種類ニ依リ異ナルヲ論テ竣タス從テ稅務署長カ所得調査委員ノ意見ヲ聽キ且ツ地方ノ商況ニ鑑ミ同管内ニ通シ適用スル爲メ即賣ヲ六分小賣ヲ二割ト定メタルハ相當ナリ

三 裁判所カ所得金額決定ノ當否ヲ評定スルニ當リ其決定内譯ニ誤謬アルコトヲ發見スルトキハ原決定金額ヲ超過セサル限度ニ於テ自由ニ取捨變更シ得可キハ當然ナリ(明治四四年第四六號大正二年四月一二日第三部宣告)

●不當處分取消官林下戻請求ノ訴

山主ナル語辭ハ毛上權者ヲ指稱スルコトアルヲ以テ必スシモ所有者ト認ムルコトヲ得ス(明治三七年第一七八號大正二年四月一七日第二部宣告)

●酒造稅賦課處分取消請求ノ訴

一 増差石數ヲ認定シ得ルニ於テハ改測ヲ爲サザレハトテ賦課處分ヲ爲スニ妨ナシ

二 原告ハ容器ノ増容アル點ヲ用キタル酒造稅免脫事件ニ付キ無罪ノ宣告ヲ受ケタリトスルモ果シテ増容アリシヤ否ヤ不明ナリト云フト雖モ司法裁判所ノ判決ハ行爲ノ犯則ナルヲ否ヤ決定セシムルニ止マルヲ以テ之カ爲メ直チニ増容ノ事實ヲ否認スルニ足ラズ(大正元年第二四八號同年四月一九日第三部宣告)

●町稅家屋稅割違法滯納處分訴願ニ關シ府參事會ノ行政判決要旨

行政判決要旨

一 明治三年九月一〇日布告藩制ニヨリ藩知事ハ經費節減ノ爲メ士族家祿ヲ廢止又ハ削減スルノ權限アリ

●鯨網漁業願ニ關スル不當處分取消ノ訴

北海道廳長官カ鯨ノ蕃殖ヲ保護シ併テ在來ノ定置漁業及特別漁業ノ存立ヲ保護スル爲メ鯨網漁業ニ關シ其網數ニ相當ノ制限ヲ加フルノ必要アリト認メ農商務大臣ノ認可ヲ得テ發布シタル漁業取締規則ヲ以テ該漁業ニ付殊ニ許可ヲ受ケシムルノ規定ヲ設ケタルハ即チ明治三四年法律第三四號漁業法第一三條ニ依リ蕃殖保護及漁業取締ノ爲メ廣汎ナル制限ノ命令ヲ設ケタルモノニシテ此規定ニ基キ許可ス可キ旋網ノ總數ニ相當ノ制限ヲ內定シ出願中確實經營ノ見込アル者ヲ順次選擇シテ出願ヲ許可スルノ方法ヲ採リタルハ相當ナリ(明治四四年第三九號大正二年四月四日第三部宣告)

●家祿未濟額請求ノ訴

明治三〇年法律第五〇號第二條ニ所謂相當額トハ家祿奉還規則ニ依リテ下付セラルヘキ資金額ヲ指稱シタルモノニシテ當時ノ下付資金額ニ不足アリタル場合ニ其不足額ヲ給與ス可キ旨ヲ規定シタルニ止リ奉還者ノ祿高ヲ金祿公債證書發行條例ノ規定ニ依リテ換算シ其不足額ヲ給與スルノ趣旨ニ非ス(明治四二年第二八三號大正二年四月七日第一部宣告)

●第三種所得金額決定ニ對スル訴

一 第三種所得金額ハ算年額ヲ以テ決定スルモノナレハ之カ決

●裁決ニ對スル訴

原告カ東京府參事會裁決書ノ交付ヲ受ケタルハ大正二年一月二四日ニシテ本訴ノ提起ハ同年三月二四日ナルカ故ニ町村制第一四〇條第二項所定ノ日數ヲ經過シタルヲ以テ本訴ハ受理スヘキニ非ス(大正二年第五六號同年四月一九日第三部判決)

●漁業免許違法取消處分取消請求ノ訴

漁業法第二二條ノ規定ハ行政廳ニ取消シ得ル職權ヲ付與シタルニ止マリ取消スヘキ義務ヲ負ハシメタルモノニ非サレハ官廳ノ認可ヲ經シテ引續キ二個年間漁具ヲ敷設セサル事實アリテ行政廳カ免許ヲ取消スル相違ト認メタル場合ニノミ取消處分ヲ爲スハ違法ニ非ス(明治四五年第一二五號大正二年四月二六日第三部宣告)

●郡會議員當選ノ效力ニ關スル訴

郡會議員ノ選舉區ニ同一氏名ノ者二人以上アル場合ニ村長ヨリ候補者トシテ郡役所ニ報告セサル者ハ之ヲ候補者ト認ムルヲ得ス從テ同一氏名ノ記載アル投票ハ之ヲ候補者タル者ノ投票トシテ無効トス可キモノニ非ス(大正二年第一八號同年四月二九日第二部宣告)

●府稅違法賦課ニ對スル訴

法定期間ヲ經過シタル行政訴訟ハ受理ス可キ限ニ非ス(大正二年第八三號同年五月一日第三部判決)

●市稅戶別割賦課處分縣參事會ノ裁決ニ對スル訴

辯護士カ其業務上受タル收入ハ其性質報酬ニ屬スルヲ以テ所得稅法ニ於ケル辯護士業務上ノ所得ハ總收入ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ決定ス可キモノナレハトテ高田市縣稅戶數割賦課細目中ニ所謂

行政判決要旨

報酬ハ辯護士業ニ依ル所得ヲ包含セザルモノト云フヲ得ス(大正元年第二二九號同二年五月六日第三部宣告)

所得金額決定取消ノ訴

一 會社成立前ニ於ケル額面以上ノ株式募集ハ發起人會社ノ爲メニ爲シタル行爲ナルノミナラス現ニ總會ノ議決ヲ經テ右ノ收入ヲ會社ノ準備金中ニ組入レタル以上ハ會社ノ營利的所得ナリト認メザルヲ得ス

二 株式募集ハ會社資本ノ調達ニシテ其調達ハ營業上必要缺ク可カラサル行爲ナレハ之ニ由テ得タル利益ハ營利ノ事業ニ屬セザル所得ナリト云フヲ得ス

三 所得税法ニハ營利ノ事業ニ屬セザル一時ノ所得ニ課税セザルコトヲ規定スルモ課税ノ目的タル可キ所得ハ繼續的ノ行爲ヨリ生スルモノナラザル可カラスト規定セザルニ依リ額面以上ノ株式募集行爲ニ因リ得タル收入ニ對シ課税スルモ違法ニ非ス

四 會社ノ純然タル利益ニシテ課税ノ目的物タルコト明ナルモノモ商法第一九四條第一項ニ依リ準備金中ニ組入ル可キモノナルヲ以テ同條第二項ハ利益配當ニ對シ制限ヲ設ケタルニ止リ所得税ノ課否ニ關シ何等關係ナキモノト云ハサルヲ得ス(大正二年第三號同年五月六日第三部宣告)

町會議員選舉ノ效力ニ關スル縣參事會ノ不法裁決取消ノ訴

選舉ノ效力如何ハ之ニ關係アル諸般ノ事項ヲ調査シタル上ニ非ザレハ之ヲ決スルコト能ハサルカ故ニ裁決廳又ハ決定廳ハ申立ノ有無ニ拘ハラス是等ノ事項ニ付審査ス可キモノトス從テ訴願人又ハ

異議申立人ハ裁決又ハ決定前ニ在リテハ選舉效力ニ關係アル一切ノ理由ヲ追加スルコトヲ得ルモノナルニ依リ追加シタル理由カ前ノ理由ト其性質ヲ異ニスレハトテ別箇ノ案件ヲ成スモノト謂フコトヲ得ス(大正二年第三號同年五月一〇日第二部宣告)

家祿給與不足額却下ニ對スル不服ノ訴

家祿賞典處分法中奉還資金受領済ノモノニ對シ更ニ金庫公債證書發行條例ノ率ヲ以テ追給ス可キ規定ナキニ依リ追給ヲ請求スル權利ナシ(明治四二年第四七四號大正二年五月一二日第一部宣告)

家祿ニ關スル不當處分取消ノ訴

一 舊藩中制定サレタル祿制ニシテ廢藩以後施行セラレタルモノハ舊藩中實施ナカリシモノトスルモ有效ナル祿制ナリ  
二 祿制中假制ナル文字アルモ祿制タル性質ヲ變更スルモノニラス  
三 祿制制定ハ朝裁ヲ經ス又届出ヲ爲サザルモ無効ニ非ス(明治四二年第四八三號大正二年五月一二日第一部宣告)

家祿給與請求ノ訴

新縣設置後ニ於テ廢藩解放ノ處分ヲ受ケタリトスルモ其處分ハ立藩中確定シタル者ヲ新縣ニ於テ傳達執行シタルニ止マリ新縣ニ於ケル新ナル違法越權ノ處分ト認ムル能ハスシテ各藩ニ於ケル最後ニ定メタル制度ニ依リ解放セラレタルモノト同一視ス可キモノナレハ該處分チ目シテ無權限ニ基ク違法ノ處分ナリト主張シ之ニ依リテ其請求ヲ維持セントスルモ家祿賞典處分以施行法ノ明文上之ヲ採用スルコトヲ得ス(明治四二年第二三四號大正二年五月一四日第一部宣告)

家祿處分不服ノ訴

一 明治三一年一二月一〇日太政官布告祿制ハ家祿外賜米等都テ四ツ物成ノ高ニ直シ二分五厘ノ制ヲ以テ算出ス可キ旨ヲ規定シ祿ノ種類及科目ノ如何ヲ問ハス等シク之ニ準據ス可キモノナルコトヲ定ムルヲ以テ該祿制ハ地方取有祿者ニミ適用ス可キモノニ非ス  
二 右祿制但書ハ總額高現米一二石以下ノ者ニ付テノミ適用ス可キモノトス(明治四二年二七八號大正二年五月一四日第一部宣告)

家祿賞典給與處分ニ對スル不服ノ訴

舊津藩局抱卒、局組立ニ兵卒ハ其身分卒族ニ非ス其給米ハ家祿ニ非ス(明治四二年第一一號大正二年五月一六日第一部宣告)

村稅滯納處分取消請求ノ訴

滯納處分チ爲スニ當リ一筆ノ土地ノ鑑定價格カ督促手数料延滞金滯納處分費及税金額ノ合計ニ著シク超過スルニ拘ハラス二筆ノ土地チ公賣シタルハ不當ナリ(大正二年第一二號同年五月一七日第三部宣告)

家祿給與申請ニ對スル不當處分取消請求ノ訴

舊松山藩銃卒ハ他ノ藩卒ト共ニ明治五年八月大藏省指令ニ依リ復舊命セラレタルモノトス(明治四二年六二〇號大正二年五月一九日第一部宣告)

郡會議員失職決定取消ノ訴

郡制第二六條第三項ニ依リ郡長ヨリ郡會ニ付議シタルニ基ツク失職決定書ハ之ヲ郡長ニ交付スルヲ以テ足り致テ失職者タル原告ニ

行政判決要旨

町公民權ノ有無ニ關スル訴

他人ト同居同炊セルモ自己ノ資力ニ依リ其家計ヲ支持セル者ハ町制第七條第一項ニ所謂獨立ノ生計ヲ營ム者トス(大正二年第六九號同年五月二二日第二部宣告)

村稅滯納處分取消請求ノ訴

滯納處分ニ依ル公賣ノ結果殘餘金トシテ滯納者ニ還付スヘキ通貨ニ付其滯納者ニ對スル他ノ滯納處分チ行ヒタルトキ前ノ滯納處分トシテ行ヒタル公賣取消サルトキハ後ノ滯納處分モ亦取消サルヘキモノトス(大正二年第一三號同年五月二四日第三部宣告)

郡會議員當選無効ノ訴

其記載ニ多少ノ誤字、脱字又ハ字畫ノ不明ナルモノアルモ其何人ナルカヲ認メ得ヘキ投票ハ無効ニ在ラス(大正二年第六二號同年五月二七日第二部宣告)

●村會議員被選舉權ニ關スル訴願ニ付縣參事會ノ裁決ニ對スル訴

裁判所構内ニ於テ代書業ニ從事シタル事實アリト雖モ唯書類ノ代書ヲ業ト爲スノミニテハ舊町村制第一五條第四項ニ所謂他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事務ヲ辨スルヲ以テ業ト爲ス者ニ該當セサルモノトス(大正二年第七二號同年五月二七日第二部宣告)

●地方稅戶數割賦課ニ對スル訴

明治一三年太政官布告第一六號地方稅規則ノ戶數割ナルモノハ本來戶ヲ基礎トスルモノナリ從テ一戶ヲ構フル者ニ對スル外之ヲ賦課スルコトヲ得ス故ニ一定ノ宿料ヲ支拂ヒ他人方ニ止宿シ居ル者ニ對シ之ヲ賦課シタルハ違法ナリトス(大正二年第九五號同年五月二七日第三部宣告)

●較高整理公債證書給與請求ノ訴

一 藩制施行ノ際舊藩知事カ經費節減ノ目的ヲ以テ士卒ノ冗員ヲ淘汰スル如キハ素ヨリ相當權限内ノ行爲ナリトス  
二 舊藩知事ノ相當權限内ノ行爲ニ基ク廢藩廳分ハ有效ニシテ縣高整理公債證書ヲ請求スル權利ナシ(四二年第四〇三號二年五月二八日第一二部宣告)

●郡會議員當選取消ニ關スル訴

一 選舉人名簿ノ確定ハ選舉權ナキ者ノ投票ヲ有效ナラシムルノ效力ヲ有スルモノニ非ス從テ事實選舉權ナキモノノ爲シタル投票ハ假令選舉人名簿ニ登載セラルルモ有效トナラス

●町村ノ贈與ニ關スル件

町村ノ委任又ハ囑託ニ依ラスシテ任意ニ町村ニ利益ヲ得セシメタル一私人ニ對シ贈與ヲナス如キハ法律上町村ノ義務ニ屬セサルハ勿論町村ノ公益上必要ト云フ得サルモノニシテ舊町村制ノ認ムル所ニアラス(元年一五六號二年六月七日第二部宣告)

●郡會選舉效力ニ關スル件

「吉」ノ一字ヲ除クノ外ハ字體頗ル不明ニシテ「佐々木」トモ「慶吉」トモ判シ得サルニヨリ佐々木慶吉カ候補者ニ立テタル事ヲ以テ之ヲ同人ノ得點ト認メ難シ即チ郡制第一六條ニ所謂被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノニ該當スルヲ以テ之ヲ無効トナササルヘカラス(二年第八五號二年六月一〇日第二部宣告)

●縣稅戶數割賦課ニ對スル訴

明治一三年太政官布告第一六號地方稅規則ノ戶數割ナルモノハ本來戶ヲ基礎トスルモノナレハ一戶ヲ構フル者ニ對スル外之ヲ賦課スルコトヲ得ス故ニ一定ノ宿料ヲ支拂ヒ他人方ニ止宿シ居ル者ニ對シ之ヲ賦課シタルハ違法ナリ(二年一〇四號二年六月一〇日第三部宣告)

●村會議員當選ノ訴

「桐島トク」トアル一票ニハ被選舉人ノ住所トシテ字相川ヲ記入セ

行政判決要旨

二 郡制第二四條ニ所謂選舉ノ無効トハ選舉全部ノ無効ヲ指シタルモノニシテ同條ハ選舉一部ノ無効ト認メタルモノニアラス假令選舉規定違背ノ爲メ一部無効トナル場合ト雖モ選舉全部ノ無効トスヘキモノトス(元年八二號二年五月二九日第二部宣告)

●沖繩縣出港稅賦課ニ關スル不服ノ訴

酒造稅法第一條ノ六第二項第四號ニハ單ニ「糖」トアリテ何等ノ制限ヲ加ヘサルヲ以テ種糖ハ該條ノ糖ニアラスト云フヲ得ス(元年第二一〇號二年五月二九日第三部宣告)

●行政訴訟ニ關スル妨訴抗辯

堀敷又ハ荒蕪地ノ如キ土地ノ官民有區分ノ査定處分ハ内務大臣ノ權限ニ屬シ内務大臣ハ其手足トシテ地方長官ヲシテ之カ手續ヲ爲サシムルモノトス(元年第二二二號二年五月二九日第二部宣告)

●家祿給與不足額請求ノ訴

明治四年一〇月届出タル舊秋月藩ノ祿制ハ明治三年一二月申制定サレ單ニ届出ノ翌年ニ遲延シタル秋月藩最後ノ祿制ト認ムヘキモノトス從ツテ之ニ基キ相當ノ奉還資金若クハ金庫公債ヲ受領シタルモノハ最早請求スヘキ何等ノ不足額ナキモノトス(四二年一六三號二年五月三〇日第一二部宣告)

●縣稅戶數割賦課不當處分取消請求ノ訴

府縣制第九條ニ基ク山梨縣稅賦課規則第一二條ニハ市町村會ハ市町村ニ於ケル縣稅戶數割一戶ノ平均課率ヲ總戶數ニ乘シタル總額ニ對シ其年四月三〇日限り等差ヲ付シテ各戶ノ賦課額ヲ議定スヘキ旨ヲ規定シアリテ各戶ニ等差ヲ付スル標準ノ定ナキカ故ニ各

●村會議員當選ニ關スル不當裁決取消ノ訴

氏ノミナ記載シテ名ノ記載ヲ缺キ若クハ氏名ノ記載ニ多少ノ誤アルカ如キハ自ら被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ノ投票ト謂フヲ得ス(二年第九〇號同年六月一九日第二部宣告)

●村稅戶別割賦課ニ關スル不當裁決取消ノ訴

村稅戶別割賦課稅戶數割ノ附加稅ナレハ本稅タル此戶數割ノ賦課カ既ニ取消サレタル以上附加稅ノヨ存スヘキ理由ナシ(二年九七號同年六月二八日第三部宣告)

●縣稅賦課取消請求ノ訴

同業組合ハ同業者ノ共同利益ヲ增進シ弊害ヲ矯正スル目的ヲ有スルモノ等公ノ權力ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ之ヲ公共團體ト認ムルコトヲ得ス(元年二五四號二年六月三〇日第三部宣告)

●家祿不足額給與ノ訴

明治五年四月太政官第一二六號布告ハ藩ノ負擔セル債務ヲ大藏省ニ引受ケタルニ依リ從來藩債支消ノ爲メ士族卒家祿ノ内ヨリ差出來リシモノヲ免除スル旨ヲ定メタルモノニシテ原告ノ如ク藩債ニ對シ債務ヲ負ヒ年々又ハ一時ニ其債務ヲ辨濟スル爲メ家祿ノ中ヨリ返納金ヲ差出セル者ニ付之カ返還金ヲ免除スルノ法意ニ非ス(四二年第一〇八號二年七月二日第一二部宣告)



砂鑛法施行細則ニ關スル件

砂鑛法施行細則第八條第九條ハ同則第一條所定ノ書面ヲ願書ニ全  
然添附セザルトキニ適用スヘキモノニテ其書面力單ニ不完全ニ止  
ル場合ハ先ツ修正補充命令ヲ發シ而シテ之ニ應セス若クハ之ニ應  
スルモ尙ホ不完全ナルトキハ同則第一〇條第三號ニ依リ願書ヲ知  
下スヘキモノトス(二年第一〇號同年七月八日第三部宣告)

村稅賦課ニ對スル訴

町村制第一一〇條第三項ノ決定ハ同制第一四〇條第五項ニ依リ異  
議申立人ニ交付スヘキモノナレハ其決定ノトキヨリ效力ヲ生スル  
モノトス從テ町村制第一四〇條第一項ノ訴願ノ期間ハ決定書交付  
ノ日ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス期間ヲ計算スルニ日ヲ以テス  
ルモノハ翌日ヨリ起算スルヲ通則トスルモノニシテ府縣制郡制ノ  
翌日ノ文字ハ之ヲ明ニシタルニ止レハ翌日ノ文字ナキ場合ハ總テ  
當日ヨリ起算スヘキモノナリト云フヲ得ス(二年第三六號同年七  
月八日第三部宣告)

縣稅戶數割賦課處分取消ノ訴

一 縣稅賦課ノ處分カ明治三三年勅令第八一號第四條ニ依リ縣知  
事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏員ノ發シタル徵令書ニ基キタルモノ  
トスルモ其處分ヲ爲シタル者カ町村長ナルトキハ其旨ハ該處分ノ  
取消ヲ求ムル對手タルノ責ヲ免レザルモノトス  
二 或市町村ニ執達吏役場ヲ設ケ居レル事實アルモ毎月一定ノ宿  
料ヲ支拂ヒテ旅人宿ニ止宿スル者ハ戶數割ノ賦課ヲ受クヘキ構戶  
者ト云フヲ得ス(二年第一一九號第一二〇號同年七月八日第三部  
宣告)

違法指令取消家祿ニ對スル公債證書請求ノ訴

一 明治元年一旦致仕シタル舊幕臣ニシテ同年七月雇士仰付ラレ  
月額給米八俵ヲ給與セラレタル者ニシテ此給米八俵ハ御雇タル職  
務ニ對スル俸給ニシテ家祿ノ性質ヲ存スルモノト認ムルヲ得ス從  
ツテ甲第六號證ノ如ク職務勉勵ノ爲年額百俵ニ増給セラレタリト  
スルモ之カ爲新ニ家祿ヲ給與セラレタルモノト認ムルコトヲ得ス  
二 辨官達ニ基キナシタル俸祿廢止ノ處分ハ政府ノ命令ニ出テ  
ルモノニシテ違法ニ非ス(四二年第一七六號二年七月九日第一部  
宣告)

拂下土地再調査ニ關スル訴

拂下チ受ケタル土地ヲ實測スルニ該土地ハ一筆ナルニ現地所ハ二  
筆トナリ且反別ニ於テ五反餘畝歩減少スルノミナラス何レノ箇所  
カ拂下ノ土地ナルヤ不明ナルヲ理由トシ之カ再調査ノ上引渡スヘ  
シトノ判決ヲ求ムル訴ハ法令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以  
テ受理スヘキ限ニ在ラス(二年第一四七號同年七月九日第一部裁  
決)

市會議員當選ノ效力ニ關スル縣參事會ノ決定ニ對  
スル不服ノ訴

法律ニ所謂住所トハ單純ナル寢食ノ事實ヲ指スモノニ非サルカ故  
ニ斯ル事實ノミヲ以テ直チニ之ヲ住所ト斷スルヲ得ス(二年第一  
〇三號同年七月一〇日第二部宣告)

村會議員選舉取消處分ニ關スル縣參事會裁決取消  
ノ訴

第二部宣告

村會決議取消ノ訴

一部所有財產ノ處分ニ關スル村會決議取消ニ付テハ町村制其他  
ノ法令中行政訴訟ノ提起ヲ許シタル規定ナシ(二年第一二八號同  
年七月二二日第二部裁決)

郡會議員補闕選舉ノ效力ニ關スル訴

選舉立會人ハ選舉ノ公正ナキ期スルカ爲メ設ケルモノナレハ資格ア  
ル定數ノ選舉立會人ノ立會ナキ間ニ爲シタル投票ハ無効タルヘキ  
モノトス(二年第八〇號同年七月二四日第二部宣告)

町會議員選舉人名簿修正ニ關スル不當裁決取消ノ  
訴

選舉人名簿調製期日ニ於テ町稅滯納處分中ニ在リ公民權ヲ停止セ  
ラレ居リタル者ハ後日ニ至リ滯納稅金ヲ完納シタルハトテ選舉人  
名簿調製期日ニ於テ選舉權ヲ有シタルモノト謂フコトヲ得ス從ツ  
テ人名簿ニ登錄スヘキモノニ非ス(二年一一三號同年七月二四日  
第二部宣告)

試掘願書却下ノ件

實地指示セル區域ト試掘願書ニ添附セル圖面ト著シク相違セルモ  
ノナルトキハ鑛業法施行細則第三九條第二號ニ依リ該願書ヲ却下  
スルモ不當ニ非ス(明治四四年第一七一號大正二年八月七日第三  
部宣告)

家祿全部給與未濟ニ依ル換算額給與請求ノ訴

相續人ノ納稅額計算方ノ件

法定ノ縱覽期日縱覽ニ供セザリシモ選舉人名簿確定ノ手續ニ違法  
アルモノナルカ故ニ適法ノ確定名簿ト謂フヲ得ス從ツテ之ニ基ツ  
キ執行シタル町村會議員選舉ハ違法ニシテ全部無効タルヘキモノ  
トス(二年第四五號同年七月一五二日第二部宣告)

官吏遺族扶助料ノ訴

明治三三年法律第七五號第三條ノ所謂病ニ罹リトハ發病ノ謂ニシ  
テ陽萎扶助ノ如キニ於テハ潜伏期ヲ包含セス既ニ發病カ任官前ニ  
在ル以上ハ同三條ノ規定ニ依リ扶助料請求ノ權利ヲ有セザルモノ  
トス(二年第九三號同年七月一九日第一部宣告)

國有林下戻請求ノ訴

民有ノ土地ニ藩ノ立木ヲ仕立ツルコト能ハサルモノト認ムヘカラ  
サルハ勿論民有ノ小林カ御林ニ編入セラレタル場合ニ其土地ニ對  
スル私人ノ權利カ必シモ總テ藩ニ歸屬スルモノト認ムヘカラサ  
ルニ依リ檢地帳ニ御立林トナルノ一事ヲ以テ土地其モノモ藩有ニ  
屬セシモノト謂フコトヲ得ス(三七年第二五二號二年七月二二日

土地開墾ノ養料トシテ幕府ヨリ受ケタル知行ハ當然家祿ト云フ  
ナ得ス若シ家祿ニ屬スルモノアリトスルモ任意ニ上知シテ之ニ對  
スル賞譽金ヲ受ケシトキハ家祿賞典處分法第一條ノ給與ヲ請求  
スル權利ナシトス(明治四二年第四二〇號大正二年八月二六日第  
一部宣言)

町會議員當選取消ニ關スル訴

町會議員當選ノ效力ニ付キ爲シタル縣參事會ノ裁決ニ對シテハ町  
村會ニ出訴ヲ許シタル規定ナシ故ニ行政裁判法第二七條ニ依リ却  
下ス(キモノトス)(大正二年第一六二號同年九月一三日第二部裁  
決)

縣稅戶數割賦課處分取消及町稅戶別割賦課處分取  
消請求等ノ訴

奈良縣縣稅賦課規則第二八條ハ戶數割賦課ノ爲各戶ノ資産ノ多寡  
及ヒ生活ノ程度ノ間ニ差異アルモノト爲スコトヲ得サルカ故ニ此  
ニ標準ニ付キ實際ニ適合スル調査ヲ爲シ其結果ニ基キ等級課額ヲ  
釐定セシムル趣旨ナリトス(大正元年第一六九、二〇〇、二〇一、  
二〇二、二四六號同二年九月一六日第三部宣言)

鑛業出願不許可ノ件

亞波嶺試驗出願區域カ陸軍ノ作業場ニ屬シ將來作業實施セラレハ  
キモノニ係ルトキハ鑛業法第三二條ニ所謂公益ヲ害スルモノト認  
ム(キモノトス)(明治四三年第一九八號大正二年九月二七日第三  
部宣言)

ノ變更ニ附隨シテ競願人ニ對スル處分ノ取消ヲ求ムルモ違法ニア  
ラス  
一 湯屋出願中法定ノ條件ニ適合サル點カ既設湯屋トノ距離ニ於  
テ僅少ノ不足アルニ過キサルトキハ之ニ對シテ許可ヲ與フルモ違  
法ニアラス  
二 湯屋新設ニ付キ甲乙ノ競願アリタル場合ニ於テ兩者ノ出願ヲ  
比較シ乙出願ノ分カ既設湯屋トノ距離ノ不足カ多キモノト認メ之  
ヲ却下シ其願書ニ訂正ヲ命ジタルニ其訂正終了前更ニ出願シタル  
モノナルトキハ是レ新ナル出願ナレト雖出願ト甲ノ出願トノ内容  
ヲ比較シ其優劣ヲ決定スヘキモノニアラス從テ甲ノ出願ニ許可ヲ  
與ヘ乙ノ出願ヲ却下スルモ違法ニアラス(大正二年第八一號同年  
九月二七日第三部宣言)

村稅賦課取消請求ノ訴

一 村稅反別割條例ノ許可稟請ノ際添附セル地益調ハ何等法令上  
ノ效力ヲ有スルモノニアラス  
二 反別割ハ明治四〇年法律第三一號ノ所謂地租ニアラサルハ勿  
論地租ノ附加税ニモアラサルヲ以テ同法第三條ノ規定ヲ準用スヘ  
キニアラス各地目毎ノ反別ニ所定ノ課率ヲ乘シ得タル金額ノ合計  
額ニ同法第一條ノ規定ヲ準用シ其稅額ヲ計算スヘキモノトス(大  
正元年第一九六、一九七號同二年第六七、一三二號同年九月三〇  
日第三部宣言)

行政裁判法及間接國稅犯則者處分法隨檢ノ件

一 行政裁判法第二二條ニ行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ

縣稅賦課ノ件

一 一定ノ年度ニ於テ船舶ヲ某縣沿岸ノ航行ニ配用シタルトキハ  
府縣制第一〇六條ニ所謂府縣内ニ於テ物件ヲ使用スルモノニ該當  
スルヲ以テ之ニ對シ縣稅船稅ヲ賦課シタルハ正當ナリ  
二 高知縣營業稅種稅取締規則第二條ニ所謂定額所ハ船舶航行  
ノ本據ヲ指スモノナルヲ以テ他ニ船籍港ヲ有スル船舶ニ付テモ亦  
其適用アルモノトス  
三 他府縣ニ於ケル納稅ノ事實ハ府縣制第一〇六條ニ基ク縣稅船  
稅ノ賦課ヲ違法ト爲スニ足ラス(大正元年第二四三號同二年九月  
二七日第三部宣言)

村稅賦課ノ件

村稅種割ハ縣稅ナル船稅ノ附加稅ナルヲ以テ本稅タル縣稅船稅  
ノ賦課力正當ナル以上ハ當該船舶ノ定額所所在村ニ於テ村稅種割  
額ヲ賦課徵收シタルハ違法ニアラス(大正二年第六三號同年九月  
二七日第三部宣言)

營業免許ニ關スル訴

一 大阪府湯屋營業取締規則ニ所謂湯屋ハ營業ニ供スルモノヲ指  
スモノナレハ其新設出願ニ對スル却下處分ハ明治二三年法律第一  
〇六號ノ營業免許ノ許否ニ該當シ之ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起ス  
ルコトヲ得ルモノトス  
二 湯屋營業取締規則ニ依レハ湯屋新設ノ距離ニ制限アルニ依リ  
湯屋新設ノ競願アリタル場合ニ於テ競願人ニ對スル許可ト自己ニ  
對スル許可ト兩立セサルトキハ行政訴訟ニ於テ自己ニ對スル處分

村會議員選舉人名簿ニ關スル裁決ニ對スル不服ノ  
訴

裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六〇日以内ニ提起スヘキ旨  
ヲ規定シタルモノニシテ此出訴期間ハ下級行政廳ヲ被告ト爲スト  
キト雖モ其適用ヲ異ニスヘキモノニアラス  
二 收稅官吏ニ於テ日出後ハ勿論證據湮滅ノ虞アルカ爲メ必要ア  
リト認メタル場合ニ於テハ日没後迄臨檢其他ノ取調ヲ續行スルモ  
違法ニアラス(大正二年第六一號同年九月三〇日第三部宣言)

公民權ニ關スル訴

一 行政訴訟ノ相手方ト爲スヘキ者ニ付テハ法律上何等ノ規定ナ  
キニ依リ選舉人名簿ノ調製者又ハ訴訟裁決者ノ何レヲ相手方ト爲  
スモ違法ニアラス  
二 町村會選舉人名簿變更期間經過後ニ異議申立ヲ爲シ而モ事由  
ヲ舉示シテ存続ヲ求メザリシ場合ニ村會ニ於テ期間經過ノ存続ヲ  
爲サス申立ヲ採用セザリシハ正當ナリトス(大正二年第一二五號  
同年一〇月四日第二部宣言)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル訴

同一被選舉人ノ氏名ヲ連記シタル投票ハ町村制第二五條第一項第三號ニ所謂一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノニ該當セス(大正二年第一五五號同年一〇月四日第二部宣告)

●當選ノ效力ニ關スル訴

投票ノ記載明確ナラスシテ果シテ何人ヲ選舉シタルモノナルカヲ確認スルヲ得サルトキハ町村制第二五條第一項第四號ニ依リ無効トスヘキモノトス(大正二年第一五二號同年一〇月二日第二部宣告)

●村會議員ノ當選ノ效力ニ關スル訴

型ヲ置キ之ヲ塗布シタルモノナルヤ又ハ型ヲ連リテ筆記シタルモノナルヤハ判明セサルモ型ヲ用ヒ之ニ依リタルモノナルコト明ナル以上其投票ハ町村制第二條第六項ニ所謂被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ノ投票ニシテ無効タルヲ免レサルモノトス(大正二年第一七九號同年十月二三日第二部宣告)

●國有林境界査定不服ノ訴

一 査定圖及ヒ其際本ニ査定標ヨリ番號ヲ追ヒタル標杭ヲ掲ケ之ヲ連結セル線ヲ國有林野ノ境界線トシテ表示シ且實地ニ於テモ同一番號ヲ附セル標杭ヲ査定圖ニ於ケル當該番號標ノ位置ニ相當スル場所ニ建設セル以上ハ該線ニ接セル水流ノ公共河川ナルト否トナ問ハス境界査定處分アリタルモノトス  
二 境界査定處分アリタル以上該處分ニヨリテ自己ノ所有地ヲ侵

サレタリトスル者ハ假令其通告ヲ受ケサルモ該處分ニ對シテ出訴スルコトヲ得ルモノトス(明治四五年第一二八號大正二年一〇月二五日第二部宣告)

●行政裁判法ノ件

訴狀ノ方式ヲ具備セサルカ爲メ之カ改正ヲ命ジタルモノ之ニ從ハサルトキハ行政裁判法第二七條ニ依リ訴ヲ却下スヘキモノトス(大正二年第一八六號同年一〇月二五日第二部宣告)

●家祿公債證書給與請求ノ訴

單ニ士族編入處分アリシコトノミヲ以テ其者カ藩士タル身分ニ於テ當テ家祿ヲ有シタルコトヲ認ムルニ足ラス(明治四二年第三一六號大正二年一〇月二九日第一部宣告)

●家祿處分錯誤ニ依ル家祿給與請求ノ訴

一 違法ニ廢祿セラレタル者ト雖モ明治九年金祿公債給與ノ當時現ニ廢祿セラレタル家ヲ存續セサリシ者ハ明治三〇年法律第五〇號ニ依リ救済ヲ受ケルコト能ハス  
二 明治九年金祿公債給與ノ當時既ニ家ヲ其後再興シタル者ハ明治三〇年法律第五〇號第一條前段ニ所謂家祿ヲ有シタル者ノ家名承繼人ト云フコトヲ得ス(明治四二年第五七九號大正二年一〇月二九日第一部宣告)

●行政裁判法ノ件

一 試掘權設定登錄ノ抹消請求ニ付キテハ行政訴訟ヲ許サス  
二 共同試掘權者タリシ者ノ中一人ノミニテ鑛業法第三三條ノ二

ノ第一項ノ期間内ニ舊試掘鑛區ニ關シ同種ノ鑛物ニ付キ更ニ鑛業ノ出願ヲ爲シタルトキ他ノ共同試掘權者方同項ノ期間内ニ出願ヲ爲サザリシニ於テハ其出願人ノミニテ同項ノ保護ヲ受ケ他ノ出願人ニ對シ優先權ヲ有ス(大正二年第一五八號同年一月四日第三部宣告)

●縣會議員失職決定取消ノ訴

町村制第九條第二項ノ規定ハ住所地以外ノ町村ニ於テ納付スヘキ租稅ニ付滯納處分ヲ受ケタル者ニモ處分中公民權ヲ停止スルノ法意ナリトス(大正二年第一三四號同年一月六日第二部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル裁決取消請求ノ訴

養子ト婿養子トハ町村制第一五條ノ所謂兄弟タルノ緣故ヲ有スルモノナレハ同時ニ村會議員ニ當選シタル場合ニ於テハ得票數少ナキ者ハ當選者タルコトヲ得ス(大正二年第一一六號同年一月六日第二部宣告)

●縣會議員失格ニ關スル訴

短期一年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ明治三二年勅令第二二七號(島嶼ノ府縣會議員選舉ニ關スル件)第二條第二項第七號ノ適用ニ付テハ公權停止ヲ附加スヘキ輕罪ト看做ス(大正二年第一八〇號同年一月六日第二部宣告)

●縣會議員失職決定取消請求ノ訴

町村制第九條第二項ノ「刑ノ宣告ヲ受ケタルトキ」ナル文詞ハ處刑判決ノ言渡アリタルトキヲ指稱シタルモノニシテ該判決ノ確定

シタルトキヲ指稱シタルモノニアラス從テ判決ノ言渡ヲ受ケタル時ヲ以テ町村公民トシテ府縣會議員タル職ヲ失フモノトス(大正二年第一九三號同年一月六日第二部宣告)

●町村制ノ解釋ノ件

一 町村會議員辭職ノ意思表示ハ町村會議長又ハ町村長ノ何レニ對シテ之ヲ爲スモ妨ケナシ  
二 町村會議員ニシテ一旦辭職届ヲ提出シタル以上假令後日ニ至リテ之ヲ撤回シ又町長ニ於テ之ニ對シ町會招集ノ通知ヲ發シタル事實アレハトテ之カ爲メニ辭職ノ效果ヲ消滅セシムヘキモノニ非ス  
三 町村會議員ノ辭職カ正當ノ理由アルモノナルヤ否ヤハ假令本人ヨリ其理由ノ申立ナキモ町村會ニ於テ之ヲ認定スルコトヲ得  
四 町會ニ於テ選舉セル町會公團ノ委員ニ不法ノ行爲アリ且町長助役ニモ職務上ノ怠慢アリ從テ町會議員モ責ヲ分タサルヘカラス依テ其不明ヲ町民ニ謝スル爲メ辭職スト云フカ如キハ正當ノ理由アルモノト謂フヲ得ス(大正二年第九號同年一月八日第二部宣告)

●町村制ノ件

前戸主所有ノ土地カ其隱居ニ因リ家督相續人ノ所有ニ歸シタル場合ト雖モ未タ所有權移轉ノ登記ヲ爲サス從テ未タ土地臺帳ノ記載ニ異動ヲ來タササル以上其土地ニ對スル納稅ハ町村制第一三條ノ適用ニ付キ家督相續人ノ納稅額ニ算入スヘキモノニ非ス(大正二年第一七五號同年一月八日第二部宣告)

●行政裁判法ノ件

第三種郵便物ノ認可取消處分ハ所謂租税及手数料ノ賦課ニ關スルモノト云フコトヲ得ス(大正二年第二二二號同年一月一日第一號部裁決)

●區劃漁業海苔養殖業免許出願ニ關スル違法處分取消ノ訴

區劃漁業ヲ適法ニ出願シタル場合ト雖モ必スシモ免許ヲ與ヘサルヘカラサルモノニアラス(大正元年第一七一號同年一月一日第三部宣言)

●營業稅不當賦課ニ關スル訴

營業稅法第二八條ノ四ニハ「營業者第二八條ノ一ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得」トアレトモ其決定ニ對シ行政裁判法第一七條第一項ノ原則トスル手續ヲ履マヌ直チニ行政裁判所ニ出訴シタリト認ムヘキ文同ナク又決定ニ對スル行政訴訟ヲ提起スルニ當リ地方上級行政廳タル稅務監督局長ニ訴願其裁決ヲ經由セシムルヲ必要ナリトスル特殊ノ理由存在セサルヲ以テ稅務監督局長ニ訴願シ其裁決ヲ經由スルニアラサレハ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノト解釋スルヲ相當トス(大正二年第二三六號同年一月一日第三部裁決)

●郡組合費賦課ニ關スル裁決ニ對スル訴

郡組合ノ設置ハ府縣知事カ或ル事務ヲ二以上ノ部ヲシテ共同處理セシムルヲ必要ナリトスル場合ニ於テ第一〇五條所定ノ手續ヲ經

●國稅徵收法ノ件

國稅徵收法ニ依リ公賣シタル物件ニ付抵當權ノ設定アルコトヲ事由トシテ其公賣代金ニ付先取權ヲ行使セントスルニハ其物件ニ付抵當權ノ設定アルコト及其ノ設定力國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明セサルヘカラス(大正二年第五七號一月二七日第三部宣言)

●村會議員當選無效裁決ニ對スル訴

型ヲ用ヒテ描出シタル投票ハ無効ナリ(大正二年第一七四號二年一月二九日第二部宣言)

●市會議員當選效力ニ關スル不法裁決取消ノ訴

電氣ノ一定ノ數量ニ對シ一定ノ代價ヲ以テ市ニ供給スル會社ハ市制第一八條第三項ニ所謂市ニ對シ請負ヲ爲ス法人ト謂フヲ得ス市制第一八條第三項ニ所謂主トシテ市ニ對シ請負ヲ爲ス法人トハ市ニ對スル請負ヲ以テ業務ノ主要ナル部分トスル法人ヲ言フ(大正二年第二二〇號大正二年一月二九日第二部宣言)

●家祿給與請求ノ訴

明治三年太政官布告滿施行中ニ在リテハ藩知事カ士族卒ニ對シ適宜廢祿處分ヲ爲スノ權限ヲ有シタルモノナリトス(明治四二年第四二四號大正二年一月二日第二部宣言)

ルヲ以テ十分ニシテ郡會ノ決議ヲ要スルモノニアラス又該組合ノ設置ノ目的タル事務ニ付テモ郡會ノ決議アルコトヲ要スルモノニアラス

郡組合カ費用ヲ直接ニ町村ニ分賦シ納付ヲ命スルト組合内ノ郡ヲシテ其分擔額ヲ町村ニ分賦徵收セシメ之ヲ組合ニ納付セシムルトニ付キ何等ノ制限ナキモノトス(大正二年第一一五號同年一月一日第三部宣言)

●町村制ノ件

期間ヲ計算スルニ日ヲ以テスルモノハ事實ノアリタル日ノ翌日ヨリ起算スルヲ通則トス而シテ町村制第一五條第二項ノ一月ノ期間ハ其起算點ニツキ特別ノ規定ナキヲ以テ退職ノ日ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス(大正二年第二〇六號同年一月一日第二部宣言)

●所得金額合算ノ決定取消ノ訴

所得稅法第三五條ニ所謂「第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ」トハ單ニ所得金額ノ員數ノミノ決定ヲ云フニアラスシテ同居家族ナリトノ決定ヲモ包含スルモノト解スヘク從テ同第三六條ニ所謂「政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキ」トハ第三五條ニ依リテ政府ノ通知シタル所得金額ノ員數ノミニ對スル場合ノミナ云フニアラスシテ同居家族ナリトノ決定ニ對スル異議ヲモ包含スト解セサルヘカラス故ニ第三五條ニ依リテ政府ノ通知シタル所得金額其モノニハ異議ナク單ニ同居家族ナリトノ決定ノミニ對シテ異議ヲ有シ之レカ救済ヲ求ムル場合ニ於テモ第三六條ニ依リテ

●村稅滯納處分ニ付キ物件差押ニ係ル訴

一 町村稅滯納處分ニ關スル訴願ニ付府縣參事會ノ爲ス裁判ハ訴願法第一五條ニ依リ裁決書ヲ訴願人ニ交付スヘキモノナレハ町村制第一四〇條第二項ノ所謂裁判アリタル日トハ裁決書ヲ訴願人ニ交付シタル日ノ意義ニシテ即チ同規定ノ出訴期間ハ裁決書交付ノ日ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス  
二 差押財産ノ價格カ滯納處分ニ依ル徵收金額ニ比シ多額ナリトスルモ該差押ハ不當ニ非ス(大正二年第一四六號同年一月三日第一號部宣言)

●國有林下不當處分取消請求ノ訴

一 口米ハ正租ニノミ課セラルヘキモノニアラサルヲ以テ民有ノ證トナスニ足ラス  
二 持山ハ民有地ノミナ意味セス  
三 御林ハ普通直營ノ官山ヲ意味スルヲ以テ御林以外ノ請求地カ民有地ナリト云フヲ得ス(明治三七年第九八三號大正二年一月六日第三部宣言)

●營業稅法律ノ製造業者ニ對スル不當課稅取消ノ訴

營業稅法第二八條ノ一ノ決定ニ對シ不服アルトキハ稅務監督局長ニ訴願シ其裁決ヲ經由スルニアラサレハ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノトス(大正二年第二四六號同年一月九日第三部宣言)

●村會議員選舉人名簿ニ關スル縣參事會ノ裁決取消請求ノ訴

町村制第七條ニ所謂獨立ノ生計ヲ營ム者トハ必シモ一戸ヲ構ヘ又ハ總テ設クルコトヲ要スルモノニ非ス(大正二年第一四三號同年一月二一日第二部宣告)

●水車新設願却下處分取消請求ノ訴

公益又ハ他人ノ權利ヲ害スル虞ナキ以上ハ水車ノ設置ヲ許スヘキモノトス(大正二年第一八二號同年一月二一日第三部宣告)

●縣稅賦課異議申立事件却下ニ對スル訴

縣知事ニ爲スヘキ異議申立書中宛名ニ縣參事會ナル肩書ヲ附スルモ其誤記タルコトヲ認メ得ヘキ場合ニ於テ該異議申立却下スヘキモノニ非ス(大正二年第一九六號同年一月二一日第一部宣告)

●營業稅課稅標準額決定ニ對スル不當裁決取消請求ノ訴

瓦斯製造業ノ爲使用スル燈燭及瓦斯タンクノ價格ヲ營業稅法課稅標準額建貨價格中ニ算入スルモ不當ニ非ス(大正二年第五〇號同年一月二一日第三部宣告)

●郡會議員當選效力ニ關スル訴

一 投票用紙ニ郡役所ノ印章ヲ捺捺スルコトヲ以テ一定ノ式ト爲ス以上其印影ヲ具備セザル投票用紙ハ成規ノ用紙ニアラス  
二 前戸主又ハ前前戸主所有ノ土地カ夫婚姻又ハ隱居ニ因リ家督相續人ノ所有ニ歸シタル場合ト雖モ未タ所有權移轉ノ登記ヲ爲サズ未タ土地臺帳ノ記載ニ異動ヲ奏サザル以上家督相續人ハ未タ該土地ノ所有者ト公認スルコトヲ得ズ從テ未タ納稅ノ義務ヲ有

スル者ト云フヲ得ス(大正二年第一七八號同年一月二一日第二部宣告)

●恩給權利回復ノ訴

行政上ノ處分ニ由リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ六箇月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請ヒ其裁決ニ不服ナル場合ニ於テ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(大正二年第二四三號同年一月二一日第一部裁決)

●村會議員當選效力不當裁決取消ノ訴

町村制第二五條第一項第六號ノ規定ハ選舉ニ有害無益ナル事項ヲ記入シタルモノヲ無効トスル趣旨ニ外ナラスシテ單ニ村會議員ニ選舉スルノ意味ヲ示シタルモノヲ無効トスル趣旨ニ非ス(大正二年第一八一號同年一月二一日第二部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル訴

誤謬ヲ計正シタルニ過キサル以上之ヲ以テ町村制第二五條第一項第六號ニ所謂他事記入ナリト謂フコトヲ得ス又無記名投票ノ規定ニ反スルモノナリト謂フコトヲ得ス(大正二年第二二七號同年一月二一日第二部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル訴

町村制ハ訴訟ノ手續ニ關シ何等ノ規定ヲ掲ケサルカ故ニ同制ニ依リ訴訟ニ付テモ其手續ハ訴訟ニ關スル一般法タル訴訟法ノ規定ニ依ルヘキモノト解セザルヲ得故ニ町會ノ決定ニ對シテ訴訟セントスル者ハ其決定ヲ爲シタル町會ヲ經由スルコトヲ要ス(大正二年第二一二號同年一月二一日第二部宣告)

大正三年七月二十九日初版印刷  
大正四年八月十三日再版印刷  
大正五年二月二十五日再版印刷  
大正六年六月十五日訂正三版發行

法律學說評論全集第二卷奧付

定價金五圓五拾錢

著作者 高窪喜八郎

發行者 高窪宗吉

印刷者 高橋郡二郎

印刷所 株式會社 秀英舍第一工場

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

禁漢譯



發兌元

東京神田小川町 電話本局二七二〇番 振替東京二六一六七番

法律評論社

法 律 學 說 例 總 覽

▲法律評論ノ附録トナシタル總則編トハ組織全ク異ナリ内容亦數倍▲

第 一 卷

民 法 總 則 編

上 · 下

菊判六號活字最新式利用  
上册 九六〇頁 美本  
定價 金 三 圓  
下册 一、〇三〇頁 美本  
定價 金 三圓二十錢  
送料一冊 金十六錢 臺灣  
金三十五錢 朝鮮 金四十五錢

第 十 一 卷

商 法 手 形 編

完

菊版——活字利用法同上  
一、二六〇頁 美本  
定價 金 四 圓  
送料一冊 金十六錢 臺灣  
金三十五錢 朝鮮 金四十五錢

近 刊

第七卷 商法總則

第八卷 會社編

第四卷 債權各論上

第三卷 債權總論上

第十三卷 破產編

第十四卷 刑法總論

每 月 二 回

大 改 良

法 律 評 論

新規申込ノ好時機——第六卷初號ハ四月一日發行——取揃アリ

法律<sup>學說</sup>總覽編纂事務多忙ノ爲メ法律評論ノ改良ヲ實行シ得サリシモ

今ヤ左記諸點ニ向ツテ著々大改良ヲ加ヘントス

- 一 活字組方ヲ改良シ紙數ヲ增加ス
- 二 判例ヲ無遅滞掲載スルノ實ヲ舉ク
- 三 論文判例ヲ無遺漏網羅スルノ實ヲ舉ク——即チ他雜誌ニ現ハレタル判例ヲモ全部網羅ス
- 四 參照學說判例ヲ一層綿密ニ且ツ獨逸學說ノ參照ヲ漸次增加ス
- 五 校正ヲ改良シ嚴密ヲ期ス

一部金二十四錢 郵稅一錢五厘

一ヶ月分郵稅トモ 金五十一錢

三ヶ月分同上 金一圓四十四錢

六ヶ月分同上 金二圓八十二錢

郵便切手拂込一割増

# 法律評論ハ法律學說判例總覽ノ連鎖機關ナリ

## 法律評論ノ內容

**評論欄**  
 最近一ヶ月内ニ發表セラレタル「論說」ニシテ法典解釋ノ資料タルヘキモノノ要領及「大審院判例」一切、其他「各裁判所ノ判決」ヲ組織的ニ集録シ之ニ參考トナルヘキ「從來ノ學說判例」ヲ洩レナク引用シ問題ト對照シテ論評解説ヲ加フ故ニ本誌ヲ一讀スレハ僅少ノ時間ヲ以テ毎月法學界ニ現ハレタル問題ヲ知ルコトヲ得ヘキ利益アルノミナラス數ヶ年ニ亘ル學說判例ヲ一時ニ見ルコトヲ得ルヲ以テ反對說同說疑問ノ存スル點研究ノ餘地アル點等一日瞭然タリ又新判例ハ他社ニ先シテ掲載ス

**其他**  
 専門大家ノ論說△商事實際ト評論欄解説△司法省訓令回答要旨△行政裁判所判決要旨△懸賞論文△趣味ト常識△漫錄△思潮及雜報△條文順序索引等內容頗ル豐富

**本誌ノ保存**  
 保存ニ便ナルハ本誌ノ特長トシテ誇ルコトヲ得——其場限リノモノハ時勢ノ要求ニ反ス——本誌ヲ一年二年ト漸次保存センカ數千題ノ解釋資料ヲ得ヘク讀者ハ號一號ト購入毎ニ「解釋資料」一大寶庫ヲ築造シツツアルニ異ナラス又最モ實際ノ應用ニ適スル「法律大辭典」ヲ編成シツツアルニ同シ△本誌ハ一ヶ年毎ニ條文順及イロハ別ノ「大索引」ヲ發行ス——索引ナキ書籍ハ亦時勢ノ要求ニ反ス△本誌毎卷即チ一ヶ年間ノ紙數ハ約四千頁ニ達ス

**實業家ニ告ク**  
 實業家ハ商事及實際問題ト評論欄解説ヲ讀マハ足レリ同欄ハ本誌全體ノ論文判例中實業ニ關スルモノ全部ヲ縮少シ且ツ了解ニ容易ナル様旨文一致ヲ以テ解説シタルモノナルヲ以テ之ヲ讀マハ取引上ノ危險ヲ避ケ得ルト同時ニ不知ノ間ニ法律上ノ知識ヲ得ラルベシ

吾人ハ「永遠ニ」本書ヲ刊行シ「法典解釋ノ統一ト法律思想ノ普及」ニ資シニ「法典ノ解釋資料」ヲ供シニ「吾邦ノ法制變遷」ヲ明カニセムコトヲ期ス

# 好評嘖々

高窪喜八郎著

## 法律學說判例評論全集

脊革  
クローズ  
金文字入

- 第一卷 增訂四版 定價金 四圓  
送料内地金二十錢  
臺灣、樺金四十錢 朝、清五十錢
- 第二卷 改訂三版 定價金 五圓五十錢  
送料内地金二十四錢  
臺灣、樺金四十五錢 朝、清五十五錢
- 第三卷 三版 定價金 五圓五十錢
- 第四卷 再版 定價金 五圓五十錢
- 第五卷 近刊 定價 未定

發賣 法律評論社 取次 有東 關東 岩東 松海 堂

1210E-10

高窪喜八郎監修 法律評論社編

# 法律判例要旨集

四六判總革頗ル美本  
頁數二千二百二十頁  
定價金四圓貳拾錢  
郵稅(市內不要內地金拾六錢  
朝、津、金、四、拾、五、錢)

版五

## 班一ノ容内

- 【期間】 自明治四十五年三月滿四十年間餘ノ論文判例要旨  
至大正五年三月
- 【個數】 論文判例要旨并ニ司法省訓令回答要旨、行政裁判所判決要旨總數約壹萬個
- 【特色】
  - ▲各法條文入——條文順配列
  - ▲各條内ニ於ケル組織的分類——洗練ヲ重ヌ——一見明瞭
  - ▲各法關係點ノ注意ヲ示ス
  - ▲全部ニ通シタルイロハ索引ヲ附ス
  - ▲活字ノ利用斬新
  - ▲總布金文字入——此種ノ書籍ニ於ケル空前ノ美本——携帶至便——四六判
  - ▲法律評論第一卷乃至第四卷全部ノ總索引タル用ヲモ辨ス

發賣 法律評論社 次取・ 有斐閣 東京 東海堂

# 終